山形県の流域治水
流域治水取組事例集

2026



令和8年3月

最上川流域治水協議会
赤川流域治水協議会
荒川（上流域）流域治水協議会
山形県二級水系流域治水協議会

流域治水

流域治水の推進

～これからは流域のみんなで～

近年、平成30年7月豪雨や、令和元年東日本台風（台風第19号）など、全国各地で豪雨等による水害や土砂災害が発生するなど、人命や社会経済への甚大な被害が生じています。

これらを踏まえ、国土交通大臣から社会資本整備審議会会長に対して、「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」が諮問され、令和２年７月に答申がとりまとめられました。

この答申を踏まえ、気候変動に伴い頻発・激甚化する水害・土砂災害等に対し、防災・減災が主流となる社会を目指し、「流域治水」の考え方に基づいて、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域から氾濫域にわたる流域のあらゆる関係者で水災害対策を推進します。

「流域治水」とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。

治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進めます。



本事例集について

この事例集は、流域関係者間で「流域治水」を実践する際に活用されるよう、各事例の概要・今後の展望等をわかりやすく簡潔にまとめたものであり、地域の特性等に応じた各事例の効果的な実践や、関係者間の連携につながることを期待するものです。

河川やそこに雨水が流入する集水域、河川からの氾濫等で被害が生じる氾濫域における主な対策に加え、氾濫域において被害を最小化するための主要な対策をまとめたものです。今後、事例集の内容の更新や充実等を継続的に図っていく予定です。

目次

（1）流域治水協議会構成機関の取組事例

◆山形市
- 水害リスクの高い場所での河川監視の強化 1
- JアラートとSNS等を連携させた確実な情報配信 2
- 特集ページの設置と自主防災組織への活動支援 3
- デジタルと対面の融合 全市民にリスクを届ける普及活動 4
- 大規模水害を対応するため排水ポンプ車を配備 5

◆米沢市
- 広報活動と説明会により徹底した洪水浸水想定区域図の周知と防災マップの更新 6
- 首長参加の実践的な災害対策本部訓練 7
- 出前講座と資機材交付による地域防災力の向上 8
- マイ・タイムライン作成の理解促進 9
- 広域連携による避難体制の強化 10
- 工業団地企業への防災マップ配布と意識啓発 11
- 民間企業との連携による避難所物資供給協定 12

◆鶴岡市
- 災害時の行動について考える『防災教育研修会』『出前授業』 13
- 浸水防止のためのハード整備『止水板設置』 14

◆酒田市
- 『防災情報一斉配信システム』の導入と運用 15

◆新庄市
- 地域特性に合わせた防災訓練による防災力の強化 16

◆寒河江市
- 総合的な地域防災力の強化・向上 17

◆上山市
- 迅速・円滑な避難所運営に向けた実践訓練 18
- 出前講座を活用したマイ・タイムラインの作成 19
- 官民連携による総合防災訓練の実施 20
- 水防法改正に伴うハザードマップの改訂・周知 21

◆村山市
- 多重リスクに対応した防災マップを「活かす」 22
- 最上川水系大旦川流域特定都市河川指定について 23

◆長井市
- 防災情報システムを活用した避難指示等の伝達 24
- 地域における防災力の推進・強化 25
- マイ・タイムライン研修会の開催 26
- 地区合同で行う実践的な防災訓練の実施 27

◆天童市
- 災害に強いまち「誰も取り残さない防災教育」 28

◆東根市
- 水防拠点施設の整備と稼働 29
- 訓練を通じた広域連携体制の構築 30
- 自分の目と足で確認「地域内の危険個所」 31
- 要配慮者利用施設の避難計画策定率100% 32
- 訓練を通じた民間連携の「顔の見える関係づくり」 33
- 水害の危険性を知る「小中学校の防災学習」 34
- 訓練用模擬堤防の整備による水防訓練の効率化 35

目次

◆尾花沢市
- 自ら行動する力を身につけ、みんなで地域を守る ---- 36

◆南陽市
- ワンコイン浸水センサ実証実験への参画 ---- 37
- 防災教育を通じたマイ・タイムラインの普及啓発 ---- 38
- 出水期前の市民参加型避難訓練・水防訓練 ---- 39

◆山辺町
- 隣接自治体との相互応援協定の締結 ---- 40
- 自主防災アドバイザーによる出前講座の継続実施 ---- 41
- 自主防災組織を中心とした避難訓練の実施 ---- 42
- 自主防災組織活動への補助と研修会の実施 ---- 43
- 総合防災訓練での土のう作り体験 ---- 44
- 排水ポンプの整備による排水能力の強化 ---- 45

◆中山町
- 早期の防災・避難行動を促す多様な災害情報発信 ---- 46
- 浸水害対策を支える拠点・機材の整備 ---- 47
- 石子沢川流域水害対策計画による流域治水の取組み ---- 48
- 迅速かつ多様な避難体制の構築 ---- 49
- 幼保から中学生までの『切れ目のない防災教育』 ---- 50
- 水害リスクの周知と避難計画作成の促進 ---- 51

◆河北町
- 災害情報伝達の多重化 ---- 52
- 実践的な避難訓練と共助の仕組みの強化 ---- 53

◆西川町
- 戸別受信機のタブレット「つながるくん」への代替 ---- 54
- 企業との災害協定による物資確保体制の強化 ---- 55

◆朝日町
- 地区の現状の理解と災害対応を学ぶ ---- 56
- 継続した自主防災リーダーの養成 ---- 57

◆大江町
- 自分の安全は自分で守る自助が大事防災訓練 ---- 58

◆大石田町
- 防災教育を通したマイ・タイムラインの普及促進 ---- 59

◆金山町
- 防災情報アプリを活用した確実な情報の伝達 ---- 60

◆最上町
- 防災力の向上　～自助・共助の意識から～ ---- 61

◆舟形町
- 雨量計設置事業 ---- 62

◆真室川町
- 自主防災組織の強化と情報発信の促進 ---- 63

◆大蔵村
- 防災訓練を通した防災力の向上 ---- 64

◆鮭川村
- 総合的な防災力の向上 ---- 65

目次

◆戸沢村
- 高齢者の避難意識の向上 66

◆高畠町
- 過去の災害を見える化した防災マップの作成 67

◆川西町
- 一斉情報配信システムの導入とLINE登録促進 68
- ワンコイン浸水センサ設置と監視強化 69
- 災害時連携体制の見直しと戸別受信機の配備 70
- 広域連携協定の締結と相互支援体制の維持 71
- 水防工法講習会の実施 72
- 水防団体の募集と組織体制維持 73
- 水防団向け排水ポンプ貸与と土のう備蓄 74

◆小国町
- 浸水想定区域を見直した防災マップの配布 75

◆白鷹町
- 誰ひとり取り残さない防災 76
- 地区防災計画策定を促進する防災教育 77

◆飯豊町
- 住民主体の取組強化よる防災意識の高い社会づくり 78

◆三川町
- 『水防団』による内水氾濫発生予想箇所の点検 79

◆庄内町
- 『共助』を担う方々を対象とした研修会 80

◆遊佐町
- 遊佐町消防団水防訓練の実施 81

◆最上川下流左岸農業水利事業所
- 守る・支える。そして豊かに 82

◆山形地方気象台
- 防災対応力の向上を目指す『気象防災ワークショップ』 83

◆山形県
- 浸水被害軽減に向けた集中的な河川整備 84
- 田んぼダムの推進について 85
- 災害に関する意識啓発による地域防災力の強化 86
- 避難判断に資する雨量・河川水位等の情報発信 87
- 洪水浸水想定区域の空白域の解消 88
- 被害軽減のため迅速な排水活動に向けた備え 89

◆山形河川国道事務所、新庄河川事務所、酒田河川国道事務所
- 下流・中流・上流の集中的な河川整備 90

目次

◆山形河川国道事務所
- 川の防災情報を活用した避難判断に資する情報の提供 91
- 水害リスク情報の充実 92
- まるごと・まちごとハザードマップの実施 93
- 国、県、自治体が連携した危機管理演習 94
- 災害の危険性を知り、いざという時の行動を学ぶ防災教育の実施 95
- 首長とのホットラインの構築 96
- 浸水被害に備える排水訓練の実施 97

◆新庄河川事務所
- 緊急治水対策プロジェクトに基づく治水対策 98
- 大規模災害におけるソフト面での対策 99
- 危機管理型水位計の設置 100

◆酒田河川国道事務所
- 15分で命を守る『防災朝会』 101
- 見て・触れて・聞いて『雨展』 102
- 低コスト＆リアルタイム『危機管理型水位計』 103

◆最上ダム統合管理事務所
- 的確な特別防災操作の実施とその効果 104

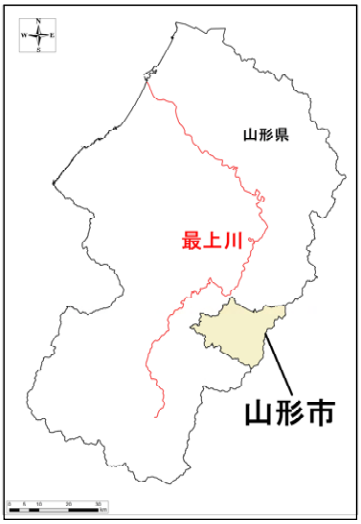
◆月山ダム管理所
- 赤川水系ダムにおける事前放流の実施体制構築 105

目次

（2）民間企業の流域治水の取組事例
◆流域治水オフィシャルサポーター　株式会社テイデイイ―
• 対話でつなぎ、「No」を「Know！」へ。
誰もが参加できる流域治水をデザインする“地域ファシリテーター” 106
◆流域治水オフィシャルサポーター　因幡堰土地改良区
• 「田んぼダム」の推進とセンサー技術による効果検証 107
◆流域治水オフィシャルサポーター　特定非営利活動法人みさと田園空間クリエーターズ
• 田んぼダムの推進 108
◆流域治水オフィシャルサポーター　やまがた　メイカーズ　ネットワーク
• 3Dプリンター技術を活用したハザードマップの作成と防災教育 109
◆流域治水オフィシャルサポーター　損害保険ジャパン株式会社
• 「防災ジャパンダプロジェクト」で次世代へつなぐ流域治水の輪 110
◆ルネサスエレクトロニクス株式会社
• 止水板と排水ポンプで工場の浸水被害を最小限に 111

（１）流域治水協議会構成機関の取組事例

山形市



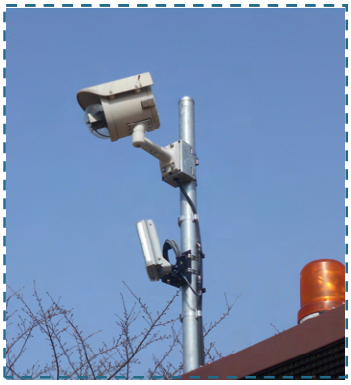
山形市の概要

県都である山形市は、中核市移行などを礎に「健康医療先進都市」の確立に向け、あらゆる分野において、まちの魅力を高めるための積極的な行政、チャレンジする市政を進め、かつてないスピードと規模で大きく進展しています。

産業、雇用、保健、医療、福祉、教育、文化、スポーツといった都市機能の維持とそれらをつなぐ公共交通等の都市インフラの充実や中心市街地の活性化、子育て施策の充実など各種政策を積極的に推進し、山形市が持つ強みや特長を活かしながら、災害に強く、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



「川の水位情報」



簡易型河川監視カメラ



カメラ画像

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

水害リスクの高い場所での河川監視の強化

概要

水害の頻発化によって、特に中小河川において多くの氾濫被害が発生している中で、山形市でも令和元年東日本台風と令和２年７月豪雨で一級河川の須川沿川で床上床下浸水が発生しています。

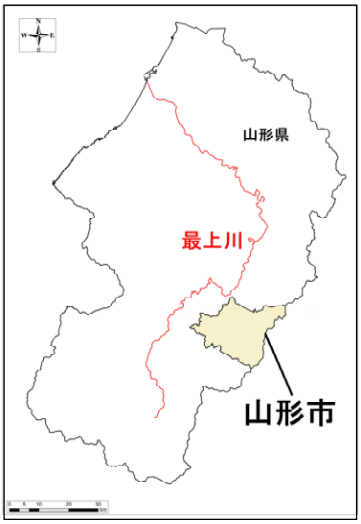
そのため、山形市では、令和５年度より管理河川等に低コストの簡易型河川監視カメラを設置して、河川管理の効率化や適切な避難判断への活用、河川監視体制の強化を図っています。

今後の展望

令和５年度に３台の監視カメラを整備し、令和６年度には新たに８台のカメラを追加整備を行い河川の監視体制の強化を行っています。カメラを映像はパソコンやスマートフォンからも確認が可能で、今後も広く市民への情報提供を進めていきます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

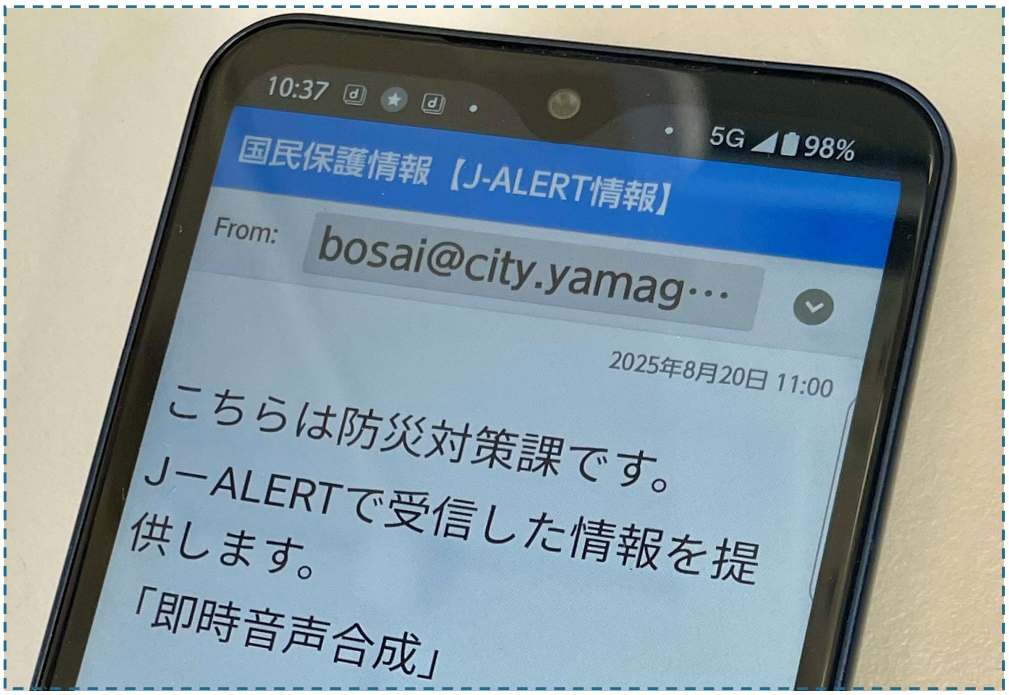
山形市



山形市の概要

県都である山形市は、中核市移行などを礎に「健康医療先進都市」の確立に向け、あらゆる分野において、まちの魅力を高めるための積極的な行政、チャレンジする市政を進め、かつてないスピードと規模で大きく進展しています。

産業、雇用、保健、医療、福祉、教育、文化、スポーツといった都市機能の維持とそれらをつなぐ公共交通等の都市インフラの充実や中心市街地の活性化、子育て施策の充実など各種政策を積極的に推進し、山形市が持つ強みや特長を活かしながら、災害に強く、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



Jアラート情報を配信
（山形市の緊急速報メール）



防災ラジオも活用



LINE公式アカウントメニュー画面

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

JアラートとSNS等を連携させた確実な情報配信

概要

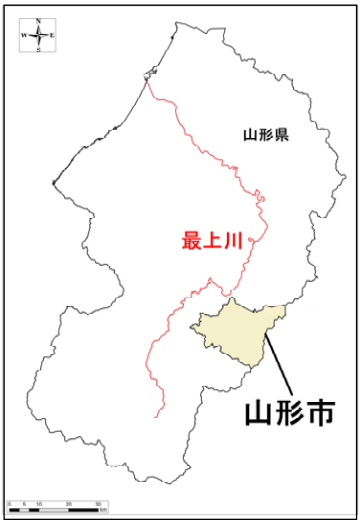
災害時に住民に避難勧告等の防災情報を迅速かつ的確に伝達することは、住民の安全を守る上で極めて重要です。災害時に住民に対して防災情報や避難情報を迅速かつ確実に伝達するため、緊急速報メールや防災情報メールマガジン、SNSなど、様々な手段で情報を伝達しています。

多様なツールを利用し情報を可視化することで、災害時の自助及び共助・ 公助支援を効率的に行い、適切な避難行動を促すことにつなげています。

今後の展望

防災情報DX化整備基本計画を策定し、災害時における住民の安全確保を一層強化していきます。先端技術を活用することで、業務の簡略化・効率化を図るとともに、情報発信方法の多重多様化、被害情報の迅速な集約化、災害対策本部の機能強化が図れるよう防災DX化を推進していきます。

山形市



山形市の概要

県都である山形市は、中核市移行などを礎に「健康医療先進都市」の確立に向け、あらゆる分野において、まちの魅力を高めるための積極的な行政、チャレンジする市政を進め、かつてないスピードと規模で大きく進展しています。

産業、雇用、保健、医療、福祉、教育、文化、スポーツといった都市機能の維持とそれらをつなぐ公共交通等の都市インフラの充実や中心市街地の活性化、子育て施策の充実など各種政策を積極的に推進し、山形市が持つ強みや特長を活かしながら、災害に強く、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



自主防災組織が実施する防災訓練・出前講座の様子



市ホームページ特集ページ



マイ・タイムライン

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

特集ページの設置と自主防災組織への活動支援

概要

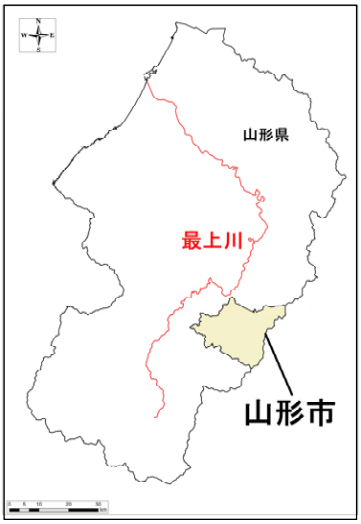
災害から身を守り、住民一人ひとりがあわてることなく適切な避難行動がとれるよう、市公式ホームページ特集ページにて避難に必要な知識の普及を図り、マイ・タイムラインの作成や周知・啓発に努めています。

自主防災組織では、防災訓練や出前講座の中で自主防災活動の一環としてマイ・タイムラインの作成が進められており、作成方法の指導等の活動支援をしています。

今後の展望

災害時の適切な「避難」には、住民自らの避難行動（自助）と自主防災組織による避難誘導等（共助）の一連の動きを整合することが重要となることから、今後も自主防災組織によるマイ・タイムライン作成の取り組みを支援していきます。

山形市



山形市の概要

県都である山形市は、中核市移行などを礎に「健康医療先進都市」の確立に向け、あらゆる分野において、まちの魅力を高めるための積極的な行政、チャレンジする市政を進め、かつてないスピードと規模で大きく進展しています。

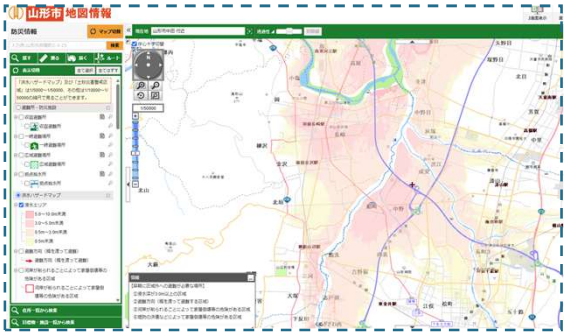
産業、雇用、保健、医療、福祉、教育、文化、スポーツといった都市機能の維持とそれらをつなぐ公共交通等の都市インフラの充実や中心市街地の活性化、子育て施策の充実など各種政策を積極的に推進し、山形市が持つ強みや特長を活かしながら、災害に強く、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



洪水ハザードマップ普及促進パネル展の様子



地区文化祭での啓発



山形市地図情報（GIS）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

デジタルと対面の融合 全市民にリスクを届ける普及活動

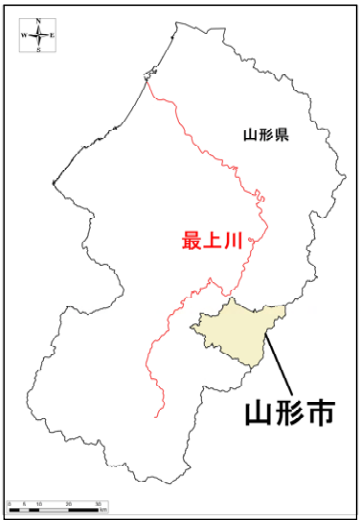
概要

近年の水害の頻発化によって、市民から居住地域の浸水想定や過去の水害などの問い合わせが多く寄せられています。しかし、この問い合わせの多さは、水害リスクへの認識が未だ表面化していない大多数の住民への情報提供を強化すべき優先的な課題です。そこで、山形市では洪水ハザードマップ普及促進や文化祭での啓発、洪水ハザードマップをGIS上で公開するなど広く市民に周知することで、災害時に的確な行動がとれるよう防災意識の向上を図っています。

今後の展望

令和７年度には、山形県が公表した中小河川の洪水浸水想定区域を追加した新たなハザードマップへ改訂し、令和８年度の初めには市内全戸 約１０２,０００戸への配布を予定しています。その後各地区で説明会の実施や、GISによる情報提供とパネル展を通じ、市民が災害リスクを「自分事」として捉えるよう市民の防災意識の向上を図っていきます。

山形市



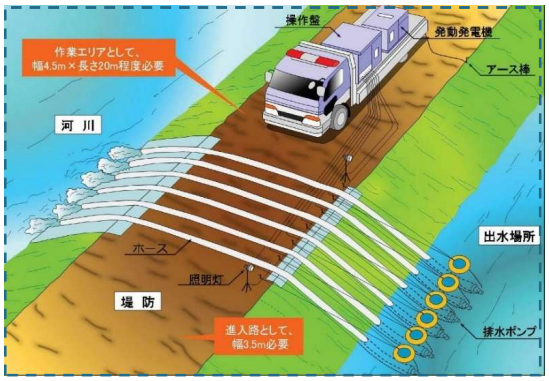
山形市の概要

県都である山形市は、中核市移行などを礎に「健康医療先進都市」の確立に向け、あらゆる分野において、まちの魅力を高めるための積極的な行政、チャレンジする市政を進め、かつてないスピードと規模で大きく進展しています。

産業、雇用、保健、医療、福祉、教育、文化、スポーツといった都市機能の維持とそれらをつなぐ公共交通等の都市インフラの充実や中心市街地の活性化、子育て施策の充実など各種政策を積極的に推進し、山形市が持つ強みや特長を活かしながら、災害に強く、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



能力３０㎥/min級の排水ポンプ車



内水被害による排水状況のイメージ



実際に排水訓練を実施

一刻も早い生活再建、及び社会経済の回復のための排水活動

大規模水害を対応するため排水ポンプ車を配備

概要

近年は全国的に想定を超える降雨が頻発しており、山形市においても令和元年東日本台風と令和２年７月豪雨の被害に見舞われたことから、被害の軽減と復旧体制の強化を図るため令和３年度に排水ポンプ車の導入を行いました。

山形市では、過去に浸水した箇所で訓練を行うなど、大雨時に迅速な対応ができる体制の構築を行っています。また、令和７年度には２台目の排水ポンプ車の追加導入を予定しています。

今後の展望

気候変動などにより、今後も降雨量の増加や水害の発生頻度が多くなることが予想されることから、訓練を継続することで大雨時への体制を維持し「いつ・どこで」起きるかわからない水害への備えを図っていきます。



米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



洪水 浸水想定区域が 追加指定 されました

洪水浸水想定区域とは

洪水浸水想定区域は、想定し得る最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を地形等をもとにシミュレーションしたものであり、想定される浸水深と併せて公表されます。
「想定し得る最大規模の降雨」とは、国土交通省の基準による発生確率が1,000年に1回程度の大きな降雨規模のことで、発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨規模であることを示しています。
これは、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、被害の軽減を図ることを目的として指定されたものです。

追加指定の概要

令和元年東日本台風等において、洪水浸水想定区域外で河川氾濫による浸水被害が多く発生しました。そのため、令和3年に水防法が改正され、浸水想定区域図及びハザードマップの作成対象が全ての一級・二級河川、海岸及び下水道に拡大されました。
これを受けて山形県は令和元年度までに指定した70河川に加えて、中小河川等484河川を令和7年5月までに追加指定し、県管理河川全ての指定を完了しました。米沢市内では令和7年5月に18河川が追加されました。

米沢市内に浸水想定区域が追加指定された河川

	河川名	対象となる区間
1	最上川	米沢市李山～大字赤崩
2	渋川	川西町大字時田～黒川合流点
3	鬼面川	米沢市大字入田沢～大字舘山
4	大樽川	米沢市大字関～鬼面川合流点
5	太田川	米沢市大字簗沢～大樽川合流点
6	綱木川	米沢市大字綱木～大樽川合流点
7	烏川	米沢市大字簗沢～綱木川合流点
8	天王川	米沢市万世町梓山～大字下新田
9	馬橋川	米沢市大字川井～最上川合流点
10	小黒川	高畠町大字上和田下組～天王川合流点
11	土会川	高畠町大字上和田上組～天王川合流点
12	羽黒川	米沢市大字大沢～大字関根
13	刈安川	米沢市万世町刈安～羽黒川合流点
14	前ヶ沢川	米沢市大字三沢～刈安川合流点
15	矢沢川	米沢市大字関根・大字三沢～刈安川合流点
16	大小屋川	米沢市大字大小屋～羽黒川合流点
17	蛭川	米沢市大字遠山町・大字古志田町～堀立川合流点
18	出茂川	米沢市大字遠山町～蛭川合流点

※小さい河川の名称は省略しています。
※山形県が公表した浸水想定区域図をなぞったものであり、若干のずれがあります。

米沢市防災危機管理課　電話0238-22-5111(代表)　令和7年8月1日発行　裏面に続きます→

令和7年9月1日（月）

令和7年9月広報よねざわ折り込みチラシ

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

広報活動と説明会により徹底した洪水浸水想定区域図の周知と防災マップの更新

概要

米沢市では、令和7年に、最大規模の降雨を想定した新たな洪水浸水想定区域が追加指定されました。市民が自身の居住地域の最新かつ正確なリスク情報を把握し、災害時に適切な避難行動をとるための基盤整備として、新たな洪水浸水想定区域について広報活動や説明会で周知しました。

今後の展望

令和7年9月発行の広報誌や地域ごとの説明会開催など、多角的な手段を動員し、新たな浸水想定区域を迅速に周知しました。令和8年度には最新の浸水想定区域を反映した米沢市防災マップを更新する予定です。

米沢市



米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



令和7年1月27日（月）

災害対策本部訓練

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

首長参加の実践的な災害対策本部訓練

概要

大規模水害の脅威が増す中、自治体には迅速な初動対応能力の確立が不可欠です。米沢市では、水害時の初動対応能力の向上と連携体制の強化を目的として、首長を含めた災害対策本部訓練を実施し、各班からの情報伝達や集約までの一連の流れを精査しながら、実効性を高めています。

今後の展望

訓練結果に基づき、多機関連携型タイムラインによる情報共有、指揮判断といったフェーズを重点的に検証し、実効性の向上を目指します。

米沢市



米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

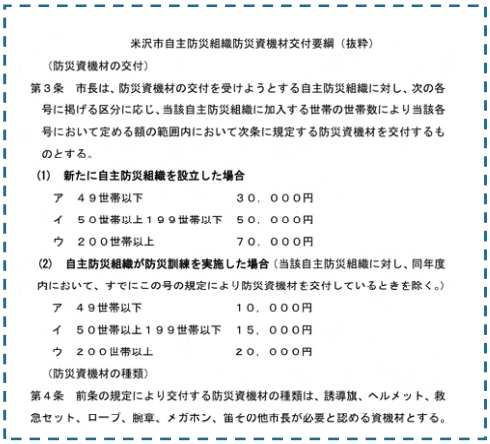
人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



出前講座

令和5年6月4日（日）



米沢市自主防災組織防災資機材交付要綱（抜粋）

米沢市自主防災組織防災資機材交付要綱（抜粋）

（防災資機材の交付）

第３条　市長は、防災資機材の交付を受けようとする自主防災組織に対し、次の各号に掲げる区分に応じ、当該自主防災組織に加入する世帯の世帯数により当該各号において定める額の範囲内において次条に規定する防災資機材を交付するものとする。

(1)　新たに自主防災組織を設立した場合

ア　４９世帯以下　３０，０００円

イ　５０世帯以上１９９世帯以下　５０，０００円

ウ　２００世帯以上　７０，０００円

(2)　自主防災組織が防災訓練を実施した場合（当該自主防災組織に対し、同年度内において、すでにこの号の規定により防災資機材を交付しているときを除く。）

ア　４９世帯以下　１０，０００円

イ　５０世帯以上１９９世帯以下　１５，０００円

ウ　２００世帯以上　２０，０００円

（防災資機材の種類）

第４条　前条の規定により交付する防災資機材の種類は、誘導旗、ヘルメット、救急セット、ロープ、腕章、メガホン、笛その他市長が必要と認める資機材とする。



米沢市自主防災マニュアル

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

出前講座と資機材交付による地域防災力の向上

概要

米沢市では、市民の要請に応じて市の職員等を講師として派遣し、行政に関する専門知識を活かした出前講座を実施しています。出前講座や資機材交付を通じて市民の学習機会の拡充と自主防災組織の結成を促し、市民と行政との協働による地域防災力の向上を図っています。

今後の展望

今後の災害の状況を踏まえ、実効性向上のため、運用面を見直し、改善策を検討していきます。また、水害発生時の初動対応能力を強化するため、優良な活動事例の共有するなど、活動の自立的かつ持続的な発展を促します。

米沢市



米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



マイ・タイムラインの冊子配布、説明（東京法規出版）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

マイ・タイムライン作成の理解促進

概要

近年、気候変動の影響により、水害の頻発化、激甚化が懸念されています。米沢市では、水害から自分たちの命を守る行動をとってもらうため、出前講座で資料配布・説明を行い、マイ・タイムライン作成の理解を促しています。

今後の展望

今後の水害の状況を踏まえ、最新のハザード情報を基に、実効性向上のため、運用面を見直し、柔軟かつ継続的に検討していきます。これにより、マイ・タイムライン作成支援の実効性を高め、「自助」の意識醸成を推進します。

米沢市



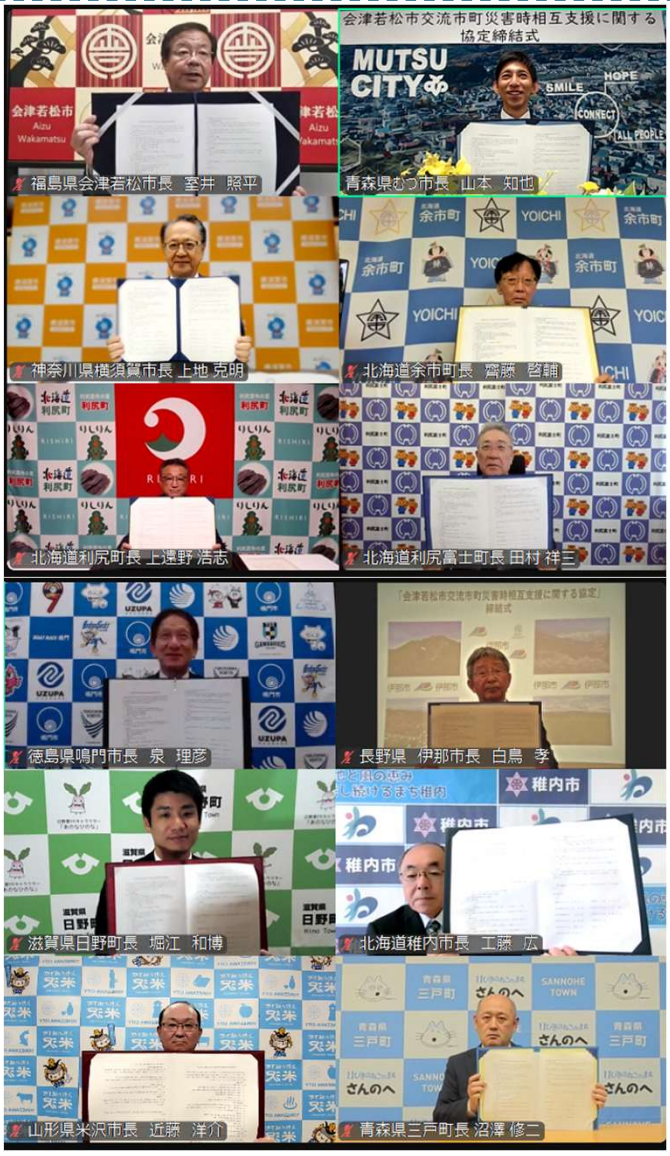
米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



県外12市町との災害時相互支援協定締結　オンライン締結式

令和7年7月9日（水）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

広域連携による避難体制の強化

概要

米沢市では、新たに県外12市町間での災害時相互支援に関する協定を締結しました。協定を締結した市町において、地震、風水害、原子力発電所の事故等の災害が発生し、被災市町の住民生活に多大な被害が生起した場合に、友愛精神に基づき相互に支援し、被災市町の住民生活の復旧に役立てるためのものです。

今後の展望

今後の災害の発生及び支援要請の状況を踏まえ、実効性向上のため、運用面の見直し、追加の協定を再検討していきます。特に、災害時に広域連携協定が円滑に機能するよう連携を図りながら、運用を継続的に検証するとともに、支援物資や避難所情報についても相互の情報交換を平時から行うことを検討します。

米沢市



米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



２０２０保存版　米沢市防災マップ



情報学習面



地図面

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

工業団地企業への防災マップ配布と意識啓発

概要

米沢市では、浸水想定区域、避難方法等を市民に周知するために「防災マップ」を作成しました。その防災マップを物流拠点として重要である八幡原工業団地などに立地している工業団地企業に配布し、企業防災意識を啓発しました。「情報学習面」に災害の種類、避難行動、要配慮者利用施設等を掲載し、「地図面」に浸水深をベースに同一地図上に土砂災害警戒区域や水位計等を表記し、避難所、防災に関する情報等を表記しています。

今後の展望

今後の災害の状況を踏まえ、実効性向上のために、運用面を見直しを検討していきます。また、工業団地企業等の浸水防止計画や業務継続計画（BCP）の策定及び訓練へ活用することを促していきます。

米沢市



米沢市の概要

米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあります。

伊達氏が212年間、上杉氏が272年間本拠としたことにより、両氏の城下町として栄え、現在の町並みの基礎は上杉氏の時代に形作られました。

人口規模が８万人ほどであるにもかかわらず、3つの高等教育機関が立地しています。

工業は上杉鷹山が奨励した米沢織物を中心とした繊維産業を基幹産業として発展してきました。



令和6年7月1日（月）

災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定調印式

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

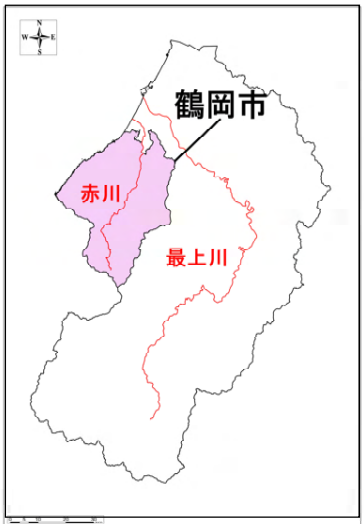
民間企業との連携による避難所物資供給協定

概要

米沢市では、物資供給や避難所運営支援に関する協定を、建設機械レンタル建設用機械器具等のレンタル・リース・販売及びこれらに付随する業務を行っている民間企業をはじめ、多様な民間企業と協定を締結しています。

今後の展望

地域密着型の企業との連携拡大を目指し、水害時における支援体制の充実と安定確保を図ります。これにより、官民一体となった協力体制が構築できるよう、継続的な関係強化と発展に努めます。



鶴岡市の概要

鶴岡市は山形県の北西部に位置し、市内を縦断するように一級河川「赤川」が流れています。

赤川はかつて最上川に合流していましたが、度重なる洪水被害を防ぐため、分離工事が行われ、独立した河川となりました。この大規模な治水事業は、庄内平野の農業発展にも大きく寄与しました。

赤川沿いには河川緑地が整備され、赤川花火大会や芋煮会など、地域のイベントの中心となっており、近年は赤川かわまちづくり事業によるさらなる賑わいの創出が進められています。



教職員を対象とした防災教育研修会の様子



小学校での出前講座（逃げ地図づくり・マイタイムライン作成）



小学校での出前講座（逃げ地図づくり・マイタイムライン作成）

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーションの取組

災害時の行動について考える『防災教育研修会』『出前授業』

概要

鶴岡市では、教育委員会が主体となり、小中学校の防災担当教諭を対象として「防災教育研修会（防災アドバイザー派遣事業）」を実施し、各学校における災害時の避難行動の確認と、マイタイムラインの作成を行いました。

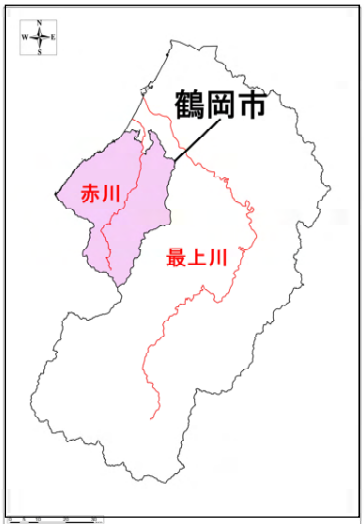
その後、学校での出前授業の実施の希望を取ったところ、小学校２校から希望があり、マイタイムラインの作成と逃げ地図づくりの「出前授業」を実施しました。

今後の展望

今後も小中学校の防災担当教諭を対象として各学校における災害時の避難行動の確認を行うと共に、小学校区を対象とした総合防災訓練への小学生の参加を企画し、水害をはじめとした各種災害に関する知識を学ぶ機会を設けることを検討しています。

引き続き防災教育を推進し、地域全体の防災力向上を目指して取り組んでまいります。

鶴岡市

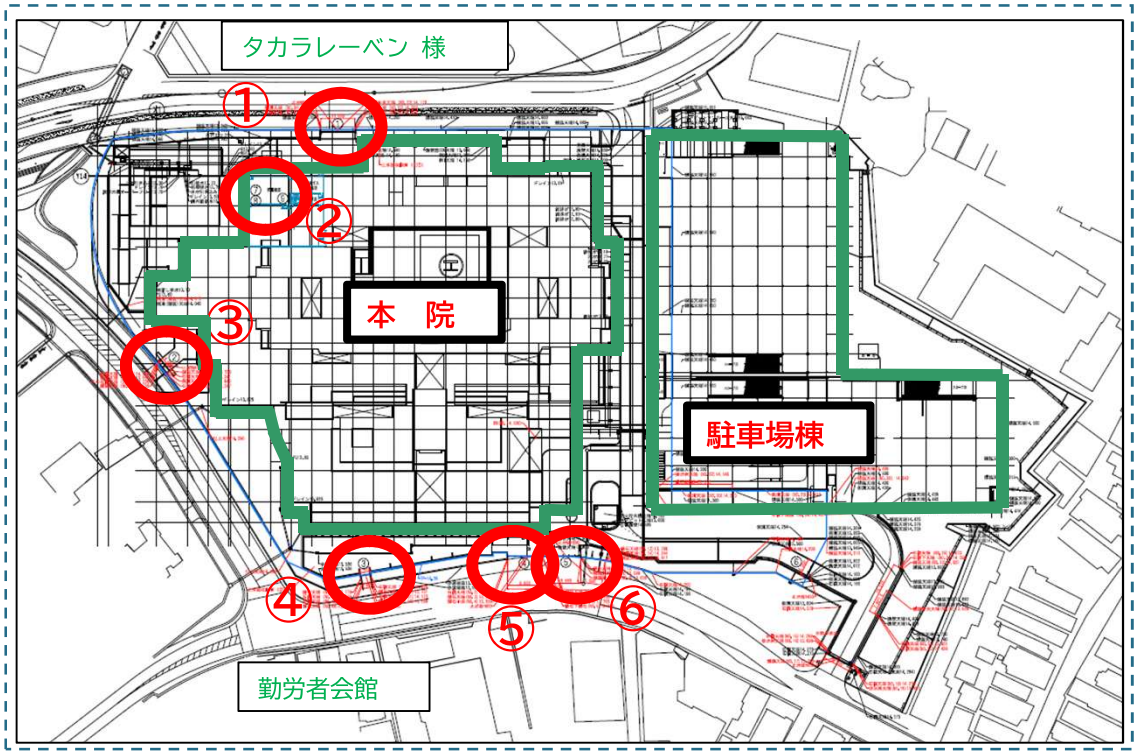


鶴岡市の概要

鶴岡市は山形県の北西部に位置し、市内を縦断するように一級河川「赤川」が流れています。

赤川はかつて最上川に合流していましたが、度重なる洪水被害を防ぐため、分離工事が行われ、独立した河川となりました。この大規模な治水事業は、庄内平野の農業発展にも大きく寄与しました。

赤川沿いには河川緑地が整備され、赤川花火大会や芋煮会など、地域のイベントの中心となっており、近年は赤川かわまちづくり事業によるさらなる賑わいの創出が進められています。



鶴岡市立荘内病院における主な止水板設置予定個所



止水板設置予定個所の現地確認状況



止水板の設置イメージ

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーションの取組

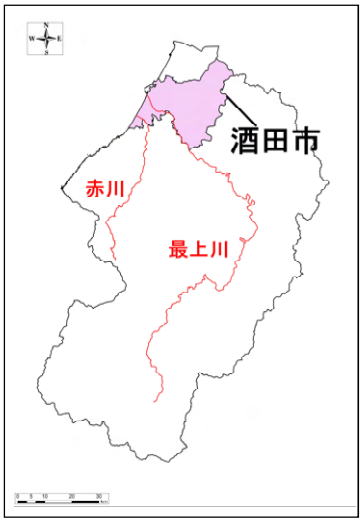
浸水防止のためのハード整備『止水板設置』

概要

鶴岡市では、鶴岡市立荘内病院における水害対策工事として止水板設置を実施しています。
止水板設置にあたり、令和５年度に専門家によるコンサルティングを行い、対策を検討、令和６年度に実施設計を完了しました。令和７年度に、既存の土塁を利用し土塁のない箇所に止水板を設置し、外部からの雨水の流入を阻止します。また、重要設備である発電機室が浸水しないように、外部扉へ止水板を設置する工事を施工中です。

今後の展望

今後は、職員等を対象に止水板の設置手順や緊急時対応を周知し、定期的な訓練の実施を行っていきます。



酒田市の概要

酒田市は山形県の北西部に位置し、山形県を代表する「最上川」と「赤川」の河口を有しており、いずれも日本海へと注いでいます。

最上川の河口には酒田港があり、古くから水運と海運の要衝として発展してきました。

近世、最上川の舟運を用い、米や紅花などの物資が最上川を経て酒田港に集まり、「北前船」により西廻り航路で上方や江戸へ運ばれました。

今でも、その歴史と文化を活かし、山居倉庫や酒田まつりなどの観光資源を活かし発展を続けています。

災害時などにさまざまな手段で、迅速に情報を受け取れるようになります

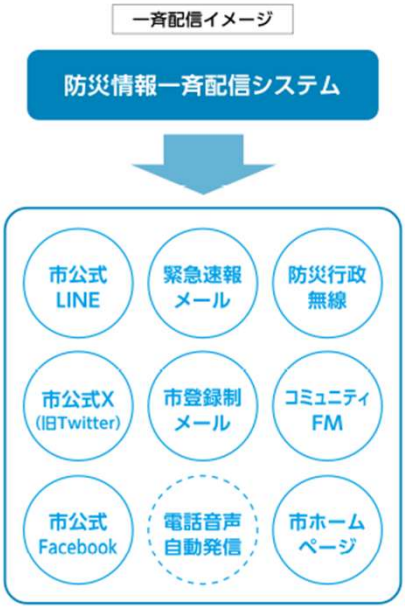
防災情報一斉配信システムを導入しました

問【防災情報】危機管理課危機管理係 ☎26-5701
【さかたコンポ】企画調整課デジタル変革戦略室 ☎43-8336

これまで、市ホームページや市公式SNSなどで防災情報を発信する際には、それぞれのシステムで入力操作する必要があったため、情報発信に時間を要していました。

今回、老朽化した防災行政無線の操作卓の更新に合わせて、操作卓から一度の操作で、市ホームページや市公式SNSなどに一斉に情報発信するシステムを導入しました。

これにより、多様な手段で迅速に情報を受け取ることが可能になりました。



●一斉配信手段

- 防災行政無線
- コミュニティFM（ハーバーラジオへの割り込み放送のみ。防災ラジオからも放送が流れます）
- 市ホームページ
- 緊急速報メール（エリアメール）
- SNS（市公式LINE、X（旧Twitter）、Facebook）
- メール（さかたコンポにメールで登録されたかた）
- 電話音声自動発信（要配慮者向けに今後運用を検討していきます）

◆情報発信は、内容や重要度などに応じて使い分けて運用します。

災害時は、市から発信する情報以外にも、各自で携帯電話、スマートフォン、PC、テレビなどから情報を収集し、迅速・安全な避難行動につなげてください。

市からの防災情報などをLINEやメールで受け取るために「さかたコンポ」の登録をしましょう

上記のように、災害などの緊急時に防災情報などをLINEやメールで受け取ることができるようになりました。

情報を受信するためには、市のコミュニケーションポータルサイト「さかたコンポ」への登録が必要となります（既に登録済みのかたは登録不要です）。

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーションの取組

『防災情報一斉配信システム』の導入と運用

概要

酒田市では、災害時に迅速かつ確実に防災情報を市民に伝達するため、複数の媒体に一度の操作で一斉配信できるシステムを導入しました。

媒体ごとの操作が軽減され、令和6年7月の大雨災害の際も速やかな情報発信ができました。

「防災行政無線だけでは聞き取りにくい」といったご意見もいただきますが、複数からのアプローチにより、情報がきめ細やかに行き渡る環境を構築しています。

今後の展望

市内18箇所で、大雨時に道路管理者が市道上の冠水状況を把握し、交通規制等の判断に資するため「浸水センサー」を設置しています。浸水深が５cmを上回った時、下回った時に、その情報を酒田市公式LINE「さかたコンポ」で一般に公表しています。DX技術を活用しながら、浸水深をはじめとした災害関連情報を早く・広く周知し、住民の一層の防災意識高揚につなげていきたいです。

新庄市



新庄市の概要

新庄市は、山形県北部、最上地方の中心都市です。江戸時代から「新庄藩」の城下町として栄え、現在は山形新幹線、奥羽本線、陸羽東西線が交差する交通の要衝です。

新庄まつりの山車行事はユネスコ無形文化遺産に登録されており、地域文化の象徴です。また、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指した「ゼロカーボンシティ宣言」を表明。豊富な森林資源による地域バイオマスの活用などを推進しています。

歴史と自然に育まれた地域資源を生かし、持続可能な発展を目指す都市です。



令和7年度新庄市総合防災訓練における水防専門家による水防工法訓練



可搬式排水ポンプ操作訓練



新庄市消防団の水防工法訓練の様子

判断・行動の遅れによる被災を防ぐための迅速・確実な避難行動を促す取組

地域特性に合わせた防災訓練による防災力の強化

概要

全国的に頻発する水害に備え実効的な防災訓練として、地域の特性を意識した防災訓練を開催いたしました。新たな取り組みとして公益社団法人全国防災協会の水防専門家派遣制度を利用し、水防工法に関して専門的な知識と技術の習得を実施しました。また、令和6年度に購入した可搬式排水ポンプの操作方法訓練を行い、消防団における水防体制の強化を行いました。

今後の展望

新たな浸水想定区域を掲載した洪水ハザードマップを作成し、住民への啓発活動を行ってまいります。また、今年度から地域防災マネージャーを任用し、自主防災組織における防災力向上を目指しております。加えて、浸水センサの導入やSNSを駆使した情報配信など、防災ＤＸを加速することで、迅速な情報収集と情報配信により、住民の防災意識の高揚を目指しております。

寒河江市



寒河江市の概要

寒河江市は山形県のほぼ中央に位置し、西村山地域の中核として発展しました。

最上川と寒河江川が市街地を包むように流れ、月山と葉山、遠くに蔵王、朝日連峰を望み、四季の変化に富んだ美しい景観と豊かな自然環境に恵まれ、千年以上もの間育まれてきた歴史や文化を有しております。

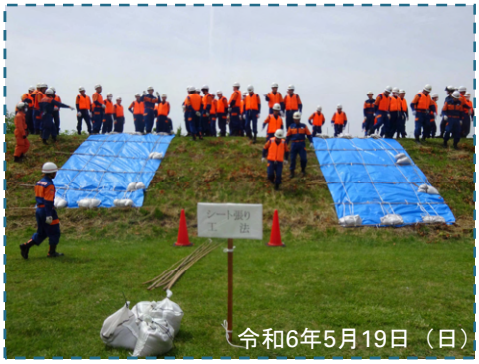
寒河江市は「さくらんぼの街」として知られており、毎年さくらんぼ狩りのシーズンには全国から人が訪れます。また、鶏肉だけではなく豚モツが中心の「やきとり」がB級グルメとして地元で親しまれています。



令和6年度寒河江市防災訓練における住民避難訓練



令和7年度寒河江市自主防災組織
連絡協議会総会における合同研修会
（山形地方気象台職員の講演）



寒河江市消防団水防隊水防工法訓練
（写真はシート張り工法）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

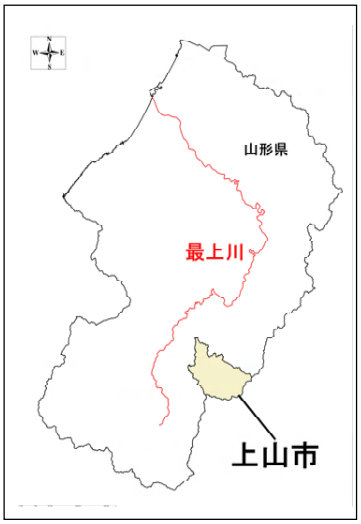
総合的な地域防災力の強化・向上

概要

寒河江市では、全国的に頻発する水害への対策として、自助・共助・公助を意識した訓練の実施や研修を開催しています。市防災訓練では、水害を想定した住民避難訓練を実施し、住民の防災意識の向上を図っています。また、地域住民や要配慮者等の避難支援体制の向上を図るため、共助の担い手となる自主防災組織には気象情報に関する研修を開催しています。さらに、消防団の活動の一環として、複数種類の工法訓練により水災防止体制の強化を図っています。

今後の展望

新たな浸水想定区域を掲載した防災マップを令和8年度に全世帯に配布するとともに、自主防災組織等を通じてスマートフォンアプリやマイナンバーカードを利用した避難所受付のデジタル化を普及・推進する予定です。これにより住民の防災意識の向上を図りつつ、より効率的で実践的な内容となるよう市防災訓練をアップデートしていきます。



上山市の概要

城下町、温泉町、宿場町の三つの顔を持つ本市は、「つながりつなげるいろどりのまちかみのやま」を標榜し、560年の歴史を誇る「かみのやま温泉」等の豊かな資源を活かしたまちづくりを進めています。歴史的景観の活用、クアオルトに代表される健康増進事業、蔵王連峰の自然を舞台にした観光を推進。ワイン特区や果樹の魅力を発信し、新幹線駅の利便性も生かし、交流人口の拡大と持続可能な発展に取り組んでいます。



訓練全般説明



簡易テントの設置



タブレットの使用方法

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

迅速・円滑な避難所運営に向けた実践訓練

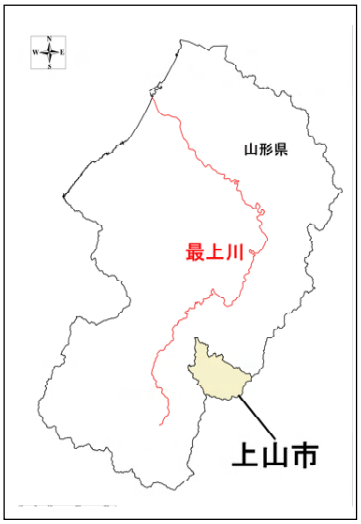
概要

上山市では、災害発生時における迅速かつ円滑な避難所の開設・運営能力の向上を目的として、避難所勤務職員約60名を対象とした令和7年度避難所運営訓練を実施しました。

訓練では、避難所の開設・運営手順の確認に加え、段ボールベッド、パーティション、簡易テントの設営といった開設資材の取扱いや、本部との連絡手段として導入されているタブレットの使用法を習得しました。これにより、開設から運営までの一連の流れと職員の能力向上を図りました。

今後の展望

今後は、訓練結果を踏まえ、職員が担当する避難所の現場確認の実施を検討します。また、関係機関や地区会との間で、災害時の役割分担等について意見交換を検討し、連携体制を強化することで、より円滑で実践的な避難所開設・運営体制の構築を目指します。



上山市の概要

城下町、温泉町、宿場町の三つの顔を持つ本市は、「つながりつなげるいろどりのまちかみのやま」を標榜し、560年の歴史を誇る「かみのやま温泉」等の豊かな資源を活かしたまちづくりを進めています。歴史的景観の活用、クアオルトに代表される健康増進事業、蔵王連峰の自然を舞台にした観光を推進。ワイン特区や果樹の魅力を発信し、新幹線駅の利便性も生かし、交流人口の拡大と持続可能な発展に取り組んでいます。



具体的に使用した資料逃げキッド（小中学生向けマイ・タイムライン作成資料）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

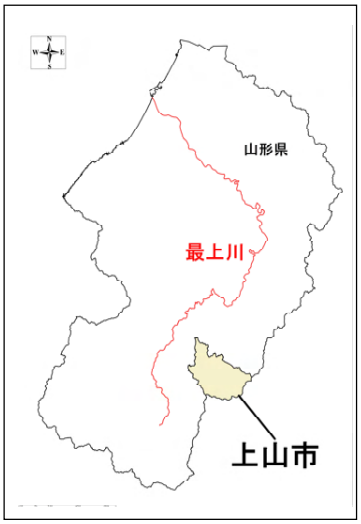
出前講座を活用したマイ・タイムラインの作成

概要

上山市では、近年、風水害による被害が全国的に頻発する背景を踏まえ、住民の防災意識と防災対応力の向上を目的としたマイタイムライン作成支援に取り組みました。自主防災組織等への出前講座を通じて、ハザードマップ内容や避難情報などを理解させ、「いつ」「何をすべきか」の行動計画を個別に整理していただきました。

今後の展望

作成されたマイ・タイムラインを単なる計画書で終わらせず、市の避難所運営訓練などの防災訓練と連携させ、実践的な避難行動の検証を定期的に行います。さらに、自主防災組織での成功事例を水平展開し、地域特性に応じた継続的な普及啓発と情報更新の支援体制を強化します。



上山市の概要

城下町、温泉町、宿場町の三つの顔を持つ本市は、「つながりつなげるいろどりのまちかみのやま」を標榜し、560年の歴史を誇る「かみのやま温泉」等の豊かな資源を活かしたまちづくりを進めています。歴史的景観の活用、クアオルトに代表される健康増進事業、蔵王連峰の自然を舞台にした観光を推進。ワイン特区や果樹の魅力を発信し、新幹線駅の利便性も生かし、交流人口の拡大と持続可能な発展に取り組んでいます。



災対本部情報収集訓練



簡易止水板の作成



防災用品の展示・説明

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

官民連携による総合防災訓練の実施

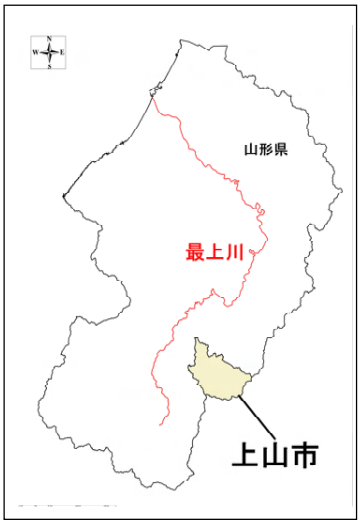
概要

上山市では、近年、水害リスクの高まりと災害時の官民連携の重要性を踏まえ、自主防災会や防災関係機関との連携強化、および住民の防災知識普及を図るため、山元地区において水害を想定した令和6年度総合防災訓練を実施しました。訓練では、避難所運営、情報収集に加え、住民による簡易水止板作成を実践しました。この結果、各関係機関の災害時能力が把握され、連携強化の道筋ができたほか、住民の防災意識高揚と具体的な技術習得が進みました。

今後の展望

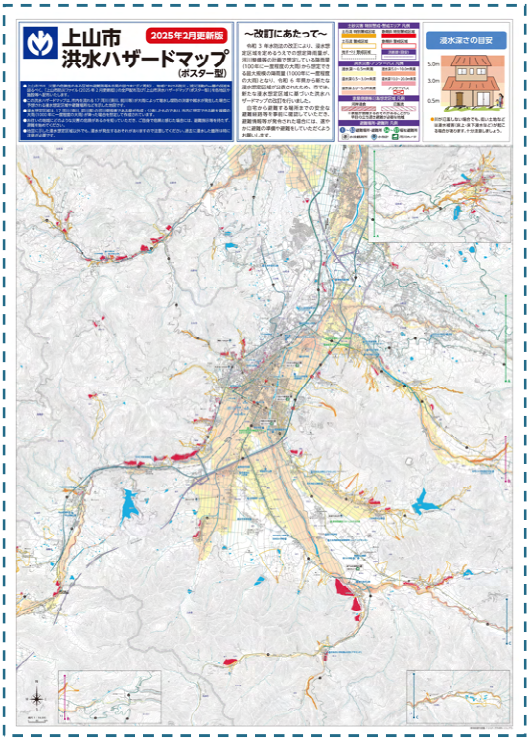
訓練を通じて得られた関係機関の災害時対応能力に関する情報を職員間でデジタル共有化し、平時からの習熟を徹底します。さらに、今回の訓練内容をモデルケースとして、他地区の住民に対する出前講座での防災知識啓発を強化。訓練の知見を市域全体に広げ、地域間の防災知識の均質化と実効的な連携体制の構築を推進します。

上山市



上山市の概要

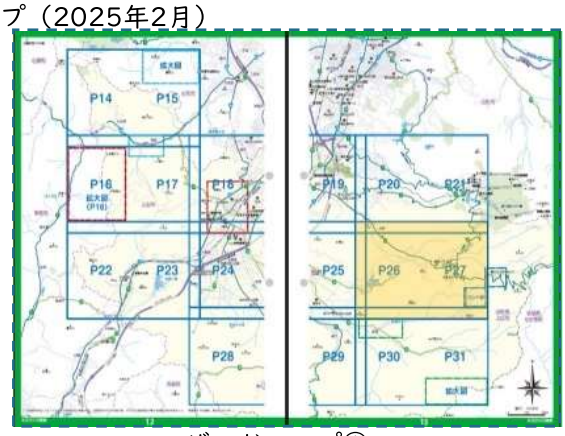
城下町、温泉町、宿場町の三つの顔を持つ本市は、「つながりつなげるいろどりのまちかみのやま」を標榜し、560年の歴史を誇る「かみのやま温泉」等の豊かな資源を活かしたまちづくりを進めています。歴史的景観の活用、クアオルトに代表される健康増進事業、蔵王連峰の自然を舞台にした観光を推進。ワイン特区や果樹の魅力を発信し、新幹線駅の利便性も生かし、交流人口の拡大と持続可能な発展に取り組んでいます。



上山市洪水ハザードマップ（2025年2月）



上山市防災ファイル



ハザードマップ①

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

水防法改正に伴うハザードマップの改訂・周知

概要

水防法の改正に伴い、令和6年6月に山形県により洪水浸水想定区域が追加指定されました。上山市では、浸水想定面積が約4倍（21.342㎢）に拡大したことを受け、法令への対応と市民に新たな水害リスクを正確に認識してもらうため、ハザードマップの改訂を実施しました。令和7年2月に全戸配布し、従来の想定を大きく超える水害の危険性を認識してもらい、今後の防災行動を考える上での基礎情報を提供しました。

今後の展望

ハザードマップ改訂を機に、防災意識の更なる定着を図るため、広報誌やデジタル媒体などを活用した継続的な啓発活動を強化します。特に、新たに対象区域となった住民へのフォローアップを充実させ、出前講座を通じて改訂内容を周知することで、地図が単なる資料で終わらず、具体的な防災行動につながるよう努めます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

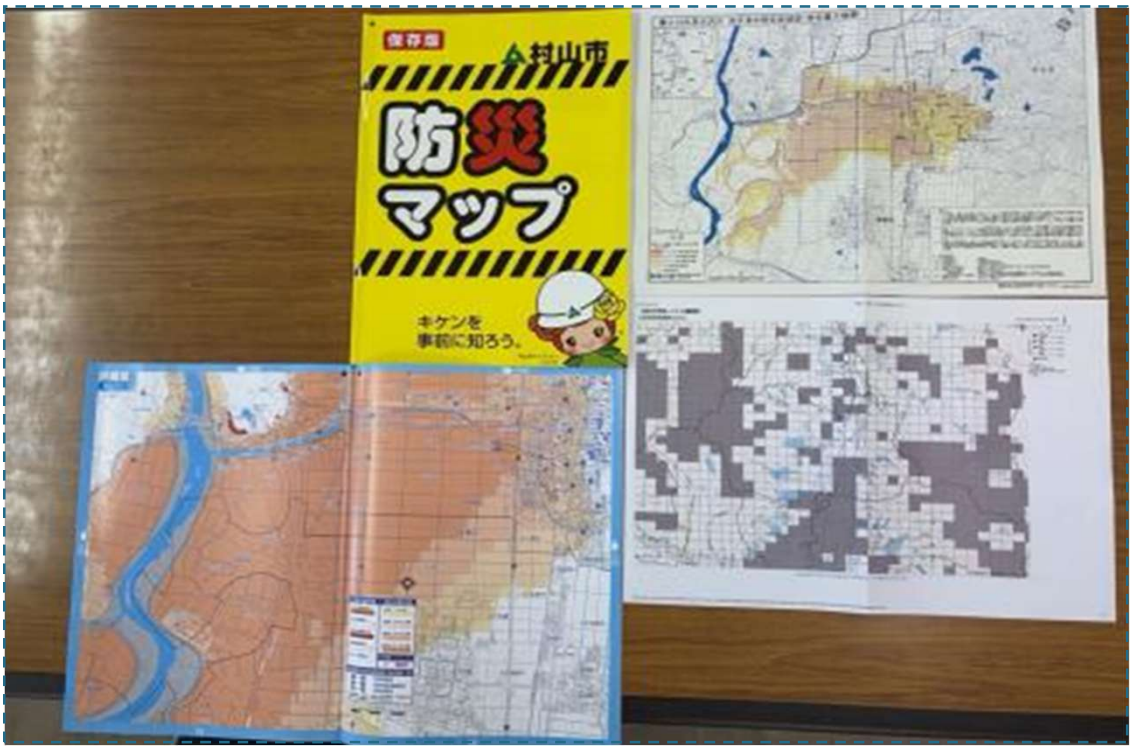
村山市



村山市の概要

村山市は、山形県の中央部に位置し、東に奥羽山脈（甑岳）、西を出羽丘陵（葉山）に囲まれ、中央部を最上川が流れています。最上川舟運が栄えたていた時代、船頭たちが最も恐れていた「碁点・隼・三ヶ瀬」の最上川三難所がすべて村山市に存在します。現在は船下りとして多くの観光客でにぎわっています。

秋には、「最上川三難所そば街道」の各店舗では風味が高くのど越しにいいそばが堪能でき、「クアハウス碁点」では、最上川を眺める源泉かけ流し露天風呂が楽しめます。



現在の防災マップと中小河川の浸水想定区域図・新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」位置図



出前講座で防災マップを活用



村山市図上防災訓練で防災マップを使用

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

多重リスクに対応した防災マップを「活かす」

概要

村山市では、平成３１年３月に従来の洪水ハザードマップに加え、土砂災害警戒区域などを一冊にまとめた「村山市防災マップ」を作成しました。地図には、予想される浸水の深さや土砂災害警戒区域を色別に表示し、被害が発生する場所や状況を把握することができ、出前講座や図上防災訓練の場で、日頃からひとりひとりの防災意識を高めることを図っています。

今後の展望

平成３１年作成から７年が経過し、避難情報の発令方法などの防災気象情報や指定避難所・緊急指定避難場所が変更になっています。また、中小河川の浸水想定区域や新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」が公表されています。令和８年度に最新情報を統合した防災マップを更新し、全世帯に配布することで防災意識の向上をさらに図っていきます。

村山市



村山市の概要

村山市は、山形県の中央部に位置し、東に奥羽山脈（甑岳）、西を出羽丘陵（葉山）に囲まれ、中央部を最上川が流れています。最上川舟運が栄えたていた時代、船頭たちが最も恐れていた「碁点・隼・三ヶ瀬」の最上川三難所がすべて村山市に存在します。現在は船下りとして多くの観光客でにぎわっています。

秋には、「最上川三難所そば街道」の各店舗では風味が高くのど越しにいいそばが堪能でき、「クアハウス碁点」では、最上川を眺める源泉かけ流し露天風呂が楽しめます。



令和7年7月17日（木）

関係機関における特定都市河川指定に向けた勉強会

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

最上川水系大旦川流域特定都市河川指定について

概要

村山市では、大旦川流域において浸水被害が頻発しており、抜本的対策が急務でした。そこで「流域治水」を本格実践するため、令和5年度から法的枠組みを活用した特定都市河川制度の検討を開始しました。令和7年7月17日、関係機関と指定に合意し、令和7年度中の指定を目指します。

今後の展望

特定都市河川指定により、大旦川整備の加速化と、流域水害対策計画の策定を通じた総合的な浸水対策を確実に実行します。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

長井市



長井市の概要

山形県南部の置賜地域に位置する長井市は、水資源が豊富なまちであり、市の南北を貫流する最上川に朝日山系から流れる置賜野川と飯豊山系から流れる置賜白川が合流し、これら3つの河川に囲まれるように市街地が形成されています。

江戸時代には最上川の舟運により商人町として栄え、上方と文化交流が行われ、芸術や文化を愛する風土が生まれました。春には、樹齢1200年と言われる「伊佐沢の久保桜」、「草岡の大明神桜」が咲き誇り、初夏には純白の「白つつじ」、500種100万本の「あやめ」が夏の訪れを告げます。季節ごとに可憐な表情を見せる花々も長井市の魅力のひとつです。

屋外拡声子局

防災ラジオから流れる緊急放送が屋外にいる市民や登下校中のこどもたちにも聞こえるよう、市内全域をカバーする61箇所に設置しています。高性能スピーカーも活用し、防災ラジオと同じ緊急情報が放送されます。また、緊急度の高い場合などは、屋外拡声子局のボックス内に装備されたハンドマイクから直接、個別放送を行うこともできます。







屋外拡声装置の設置状況（市内61か所）

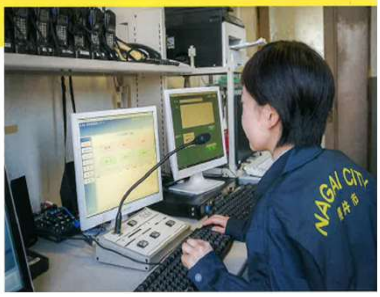
防災ラジオ



配布している防災ラジオ

操作卓

長井市役所からの災害時における緊急放送や通常放送、定時放送、お知らせなどに加え、J-ALERTとの連携放送も可能です。市内全域に渡る一斉放送や対象地区を限定したグループ放送、個別放送も可能です。テキスト入力した文字情報も自動的に音声変換され、防災ラジオや屋外拡声子局より放送されます。



屋外拡声装置の操作卓での様子

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

防災情報システムを活用した避難指示等の伝達

概要

長井市では、平成29年度から配布を希望する市内の世帯・企業に防災ラジオを配布しています。
平成30年度には市内61か所に屋外拡声装置を整備し、緊急時には防災ラジオへの割込み放送と連動して、市民に避難指示等の情報が迅速且つ確実に伝達できるシステムを構築しています。

今後の展望

希望する世帯・企業への防災ラジオの配布について継続し、設置世帯の継続、拡大に向けて取り組んでいきます。また、屋外拡声装置の維持管理を継続するとともに防災情報システムの機能強化を行い、市民に対し「割込み放送」の仕組みや伝達可能な情報を定期的に周知していきます。

長井市



長井市の概要

山形県南部の置賜地域に位置する長井市は、水資源が豊富なまちであり、市の南北を貫流する最上川に朝日山系から流れる置賜野川と飯豊山系から流れる置賜白川が合流し、これら3つの河川に囲まれるように市街地が形成されています。

江戸時代には最上川の舟運により商人町として栄え、上方と文化交流が行われ、芸術や文化を愛する風土が生まれました。春には、樹齢1200年と言われる「伊佐沢の久保桜」、「草岡の大明神桜」が咲き誇り、初夏には純白の「白つつじ」、500種100万本の「あやめ」が夏の訪れを告げます。季節ごとに可憐な表情を見せる花々も長井市の魅力のひとつです。



地区安全推進協議会の様子。



地区防災訓練時の防災研修会の様子
地震、水害時の行動について学んでいます。



地区防災訓練の様子
避難所への避難、初期消火訓練

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

地域における防災力の推進・強化

概要

長井市では、自主防災組織や地区座談会などの機会をとらえて、防災士や防災アドバイザーによる研修や、市職員による防災研修会を実施しております。

研修会では、地震や水害などの災害時における、自主防災組織の役割や地域住民の自助・共助の重要性について説明し、地域の防災力の向上に努めています。

今後の展望

令和7年現在、長井市の自主防災組織の組織率は１００％です。今後、自主防災組織や地区座談会における防災研修を継続実施し、地域の防災力の強化を推進するとともに、避難所運営など行政と地域の連携強化を図っていきます。

長井市



長井市の概要

山形県南部の置賜地域に位置する長井市は、水資源が豊富なまちであり、市の南北を貫流する最上川に朝日山系から流れる置賜野川と飯豊山系から流れる置賜白川が合流し、これら3つの河川に囲まれるように市街地が形成されています。

江戸時代には最上川の舟運により商人町として栄え、上方と文化交流が行われ、芸術や文化を愛する風土が生まれました。春には、樹齢1200年と言われる「伊佐沢の久保桜」、「草岡の大明神桜」が咲き誇り、初夏には純白の「白つつじ」、500種100万本の「あやめ」が夏の訪れを告げます。季節ごとに可憐な表情を見せる花々も長井市の魅力のひとつです。



令和5年11月12日（日）

マイ・タイムライン研修会の様子（自主防災会研修会での一コマ）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

マイ・タイムライン研修会の開催

概要

各地区の自主防災組織の研修会において、「マイ・タイムライン」についての研修会を実施しました。　地区におけるタイムラインは異なってくるため、自分の地区はどういう状況であるか確認していただき、地区の防災力向上につなげていきます。

今後の展望

今後、自主防災組織研修会の際は、なるべくマイ・タイムラインの説明を盛り込み、マイ・タイムライン研修会の機会を拡大することで、地区の防災意識を高めていきます。

長井市



長井市の概要

山形県南部の置賜地域に位置する長井市は、水資源が豊富なまちであり、市の南北を貫流する最上川に朝日山系から流れる置賜野川と飯豊山系から流れる置賜白川が合流し、これら3つの河川に囲まれるように市街地が形成されています。

江戸時代には最上川の舟運により商人町として栄え、上方と文化交流が行われ、芸術や文化を愛する風土が生まれました。春には、樹齢1200年と言われる「伊佐沢の久保桜」、「草岡の大明神桜」が咲き誇り、初夏には純白の「白つつじ」、500種100万本の「あやめ」が夏の訪れを告げます。季節ごとに可憐な表情を見せる花々も長井市の魅力のひとつです。



防災訓練の様子①



防災訓練の様子②



防災訓練の様子③

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

地区合同で行う実践的な防災訓練の実施

概要

長井市では、館町北地区、館町南地区の自主防災会が合同で、2つの想定（地震発生時、水害発生時）について、避難所までの実際の避難や負傷者への搬送など、より実践的な訓練を実施しました。これにより、大規模災害時における地区間の相互応援体制を確立し、広域的な避難行動の課題を検証しました。避難所受付方法の確認や防災アドバイザーによる講話など、地区住民の防災意識の高揚、有事の際の行動の確認を行い、実災害に備えています。

今後の展望

令和7年現在、長井市の自主防災組織の組織率は１００％です。このような先進的な取り組みを他の地区にも広げ、各地区の防災力の強化につなげていきたいと考えています。

天童市



天童市の概要

天童市山形県のほぼ中央部に位置し、南は立谷川を境に山形市、西は最上川を境に寒河江市と西村山郡河北町及び東村山郡中山町、北は乱川を境に東根市と隣接しており、東西が長い菱形をしています。

市内の北部で国道13号と48号が交わり、また、山形空港まで車で10分という、交通の便に恵まれた位置にあります。

特産品としては、将棋駒が有名で、生産量日本一のまちです。



小学生を対象とした防災教育。水害疑似体験コーナーの様子



自主防災会への整備補助金で購入した資機材



令和６年度水防技術訓練

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

災害に強いまち「誰も取り残さない防災教育」

概要

天童市では、若いころから防災力の向上を図るため、地域の防災士と協力し、小学生を対象に防災教育を行っています。
また、地域の消防団の水防技術向上のため、隔年で水防技術訓練を実施しています。

今後の展望

まだまだ市民の中でも水害に対する危機感に温度差が見受けられることから、若い世代のみならず、幅広い世代へ防災教育を展開していきます。そのためにも、防災講話などをとおして、各地域における自助、共助による防災力の向上を図っていきます。

東根市



東根市の概要

東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



東根市西部防災センターの全景



西部防災センター内の水防倉庫



西部防災センター内の土のう倉庫

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

水防拠点施設の整備と稼働

概要

東根市では、市民の生命を守り防災意識を高める防災拠点として、西部防災センターを令和４年度に開所しました。西部防災センターには、水防資機材を保管する水防倉庫、浸水対策として土のう保管庫を整備し、水防拠点としての機能強化も図っています。

今後の展望

今後、西部防災センターを活用した防災に関する活動を通し、市民の防災対策への意識醸成を図り、地域防災力を高めていきます。

東根市



東根市の概要

東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



埼玉県朝霞市との災害相互援助協定の締結



朝霞市で開催された防災訓練への参加



朝霞市防災訓練の様子

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

訓練を通じた広域連携体制の構築

概要

東根市では、災害時における応急対策および復旧対策等に関し、友好都市である東京都中央区をはじめとする６市町と災害相互援助協定を締結しています。災害発災時にスムーズな連携を図れるよう、相互で開催する訓練やイベント等を通じて、顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

今後の展望

今後も、顔の見える関係づくりを継続し、住民がより安心かつ安全に避難することのできる体制整備を確立していきます。また、災害相互援助協定締結先との合同訓練を実施し、広域避難や物資輸送に関する協定項目の実効性を検証・強化することを検討します。

東根市



東根市の概要

東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



避難時に気を付ける危険ポイントを歩いて確認



保育所から避難所までのルート確認



様々な年代の目線から避難ルートを確認

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

自分の目と足で確認「地域内の危険個所」

概要

東根市では、避難する際に潜む危険性を事前に知ることで、避難時のリスク軽減が図れることから、自主防災会で実施する防災訓練や小中学校の避難訓練時に地域内や避難所までのルートを歩き、危険箇所等の把握を行っています。平常時から抱える危険性を知っておくことで、地域防災力の向上に繋がっています。

今後の展望

今後、自主防災会等との連携を図り、地域内の危険箇所把握の取組を行う地域を増やしていき、地域防災力を高めていく。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

東根市



東根市の概要

東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



施設で実施している避難訓練の様子



避難訓練時の様子（備蓄品の確認）



避難訓練時の様子（防災倉庫の見学）

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

要配慮者利用施設の避難計画策定率100％

概要

東根市には、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域内に位置する要配慮者利用施設が２６か所存在します。すべての施設において、避難計画を策定しており、毎年、各施設で抱える災害リスクに応じた避難訓練を実施しています。

今後の展望

要配慮者利用施設との連携等を密にしていきながら、現在の策定率および訓練実施率を維持していきます。また、施設の訓練の質を高め、より実践に即した訓練になるよう支援していきます。

東根市



東根市の概要

東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



民間事業者も参加して開催した防災訓練（ライフライン確保訓練）



民間事業者も参加する防災訓練の様子①



民間事業者も参加する防災訓練の様子②

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

訓練を通じた民間連携の「顔の見える関係づくり」

概要

東根市では、災害時における避難体制の強化を図るため民間事業者等との協定を締結しています。災害発災時にスムーズな連携を図れるよう、市総合防災訓練等を通じて、顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

今後の展望

今後も、民間事業者等との連携強化を図り、住民がより安心かつ安全に避難することのできる体制整備を確立していきます。

東根市



東根市の概要

東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



小学生を対象とした防災学習の様子



洪水ハザードマップを活用した防災学習



防災学習の中で、新聞紙で防災グッズを作る様子

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

水害の危険性を知る「小中学校の防災学習」

概要

東根市では、市内の小中学校で行っている総合学習の中で防災に関して学ぶ際に、水防災教育を行い、災害の危険性や住んでいる地域が抱える災害リスク、防災対策の重要性について職員が説明しています。生徒とのやり取りや学習、体験を通じて、防災意識の醸成を図っています。

今後の展望

今後、小中学校の限られた学年だけではなく、児童・生徒全員が災害に対する危険性、防災の重要性を学ぶことができるような取り組みを行い、防災力の向上を図ります。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

東根市



東根市の概要

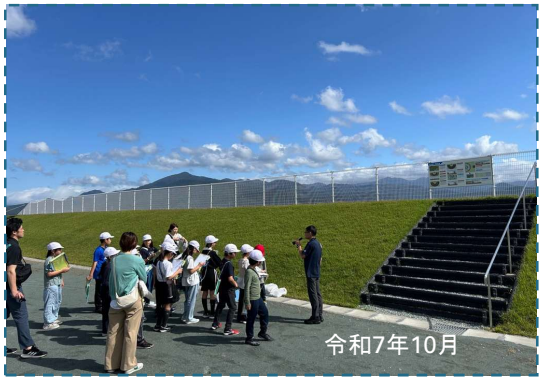
東根市は、山形県のほぼ中央に位置する豊かな自然環境に恵まれた町です。国道や高速道路、新幹線に空港など、県の交通結節点としての機能があり、多くの交流が生まれています。

山形県を代表する果物はさくらんぼですが、東根市は生産量日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でもあり、さくらんぼの産地として唯一、国が認証する「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

さくらんぼ以外にも、桃やぶどう、りんごにラ・フランス、いちごなどの生産も盛んな果樹王国です。



模擬堤防の全景



模擬堤防の見学



土のうを用いて説明

洪水氾濫による被害の軽減対策、避難時間の確保のための水防活動の強化

訓練用模擬堤防の整備による水防訓練の効率化

概要

東根市では、令和４年度に開所した西部防災センター敷地内に、河川の堤防に見立てた訓練用模擬堤防を整備しました。訓練場所の整備により、水防訓練（土のう積みなど）を効率的に実施することが可能となり、技術習得や習熟の一助となっています。

今後の展望

今後、時代に即した新たな水防工法が考え出された場合に活用するなど、防災力を高めることができる場としての取り組みを進めています。また、模擬堤防を水防団だけでなく、自主防災組織や小中学生の防災教育にも体験の場として活用することを検討します。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

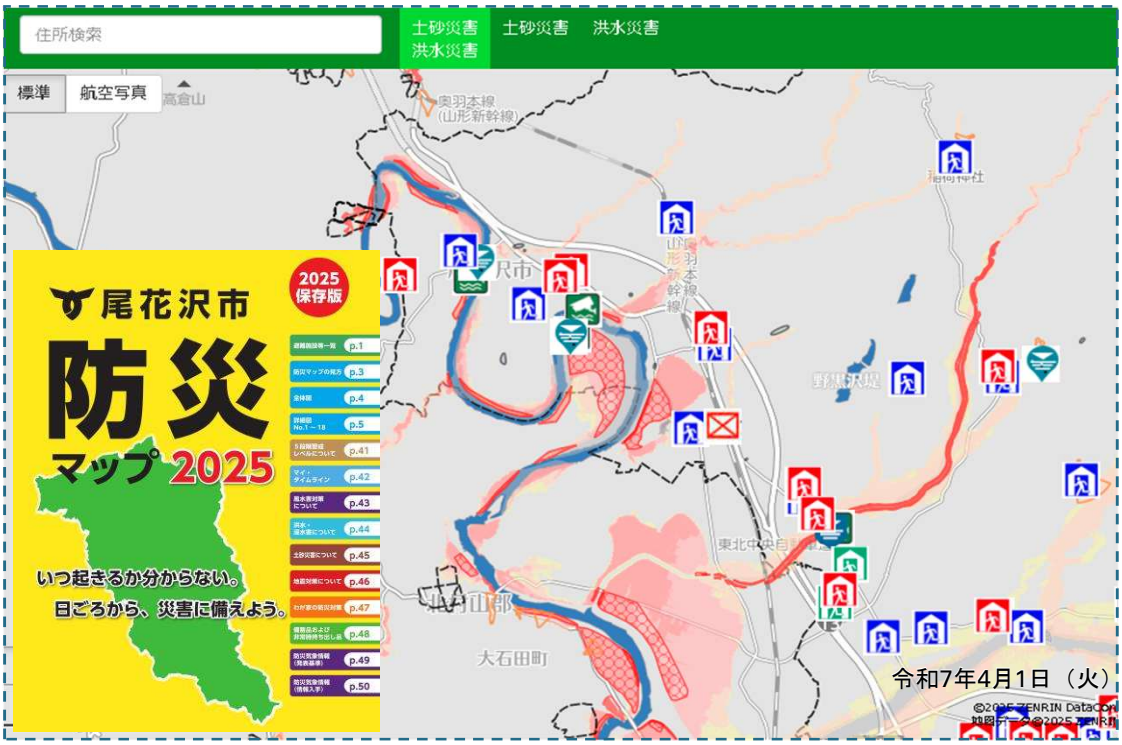
尾花沢市



尾花沢市の概要

尾花沢市は山形県北東部に位置し「雪とすいかと花笠のまち」として知られています。
【雪】
日本三雪に数えられる全国でも有数の豪雪地帯です。
【すいか】
特産品の「尾花沢すいか」は夏すいか生産量日本一で、昼夜の寒暖差が生み出す甘みと独特のシャリ感が特徴です。
【花笠】
大正年間に灌漑用水湖として築堤された徳良湖は、「花笠音頭」の発祥地です。

また大正ロマンの風情あふれる街並みが特徴の「銀山温泉」は全国でも有名な温泉街です。



尾花沢市ハザードマップ（冊子版「図左」）の更新及びWEBハザードマップの開始



避難時、自分たちのできることは？
中学校での防災学習を開催



地区による災害に備えた講習会を開催

「住民が自発的に考え自ら行動する」「行政機関等が住民の暮らしと生命を守るために動く」取組

自ら行動する力を身につけ、みんなで地域を守る

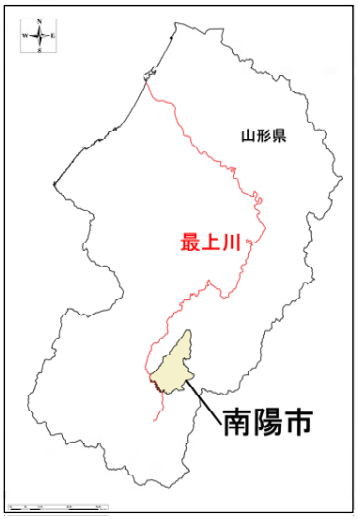
概要

令和３年水防法の改正により、新たに２３河川が洪水浸水想定区域に指定されたため、令和６年度に地区区長を対象に、浸水危険エリアについての認識と指定避難所の見直しを行い、想定水害の対策について考えていただき、ハザードマップを作成しました。令和７年度に更新したハザードマップを活用し、地区での防災出前講座や学校での防災学習を実施しました。

今後の展望

災害はいつ起こるか分からない「自分事」として捉え、万が一のとき行動できる組織を目指し、令和８年度以降は、避難訓練等の実施に向けた支援や、マイタイムラインの作成を推進し、自主防災組織の防災力の向上に努めていきます。

南陽市



南陽市の概要

南陽市は、山形県南部・置賜地方に位置する人口29千人の市です。赤湯温泉をはじめとする温泉地や、ぶどう・さくらんぼなど果樹栽培が盛んな地域としても知られております。

市内には、熊野大社などの歴史ある神社、烏帽子山公園の千本桜など観光資源も豊富な地域で、美味しいラーメン屋が３８軒を並べるラーメン激戦区、代表的な「辛みそラーメン」は寒い冬でも、体の芯から温めてくれます。



設置箇所（選定及び活用意図）



平成25年豪雨時の道路冠水状況



吉野川第3幹線　自動転倒ゲート

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

ワンコイン浸水センサ実証実験への参画

概要

近年、地球温暖化の影響から局所的な大雨が増加し、市街地の雨水排水計画雨量を超過、内水氾濫が発生することを踏まえ、迅速な現場対応や安全な避難経路を確保することが求められています。

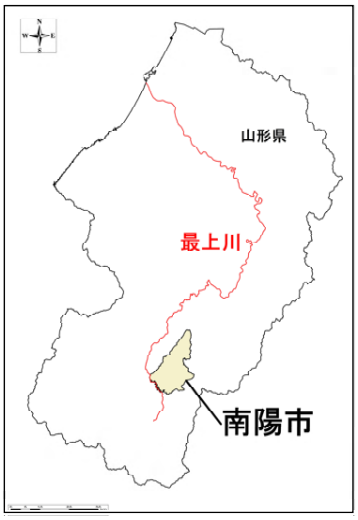
そこで、南陽市では、民間企業と国（国土交通省）が連携し進める「ワンコイン浸水センサ実証実験」に参画し、市管理道路2箇所に設置、リアルタイムで浸水情報データを収集し、迅速な初動対応に活用するとともに、安全な避難経路の確保に努めていきます。

今後の展望

リアルタイムで浸水情報データを収集することで、迅速な現場対応、初動対応に繋げ、避難者に対する安全な避難経路の確保に努めていきます。

また、得られた情報をもとに、吉野川第3幹線に設置している自動転倒ゲートの設定水位の検討に役立てていきます。

南陽市



南陽市の概要

南陽市は、山形県南部・置賜地方に位置する人口29千人の市です。赤湯温泉をはじめとする温泉地や、ぶどう・さくらんぼなど果樹栽培が盛んな地域としても知られております。

市内には、熊野大社などの歴史ある神社、烏帽子山公園の千本桜など観光資源も豊富な地域で、美味しいラーメン屋が３８軒を並べるラーメン激戦区、代表的な「辛みそラーメン」は寒い冬でも、体の芯から温めてくれます。



気象防災アドバイザー長谷川麻衣先生によるマイ・タイムライン研修会の様子



令和7年1月19日（日）
マイ・タイムラインを作成する住民の様子



令和7年9月11日（木）
小学生への防災教育の様子

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

防災教育を通じたマイ・タイムラインの普及啓発

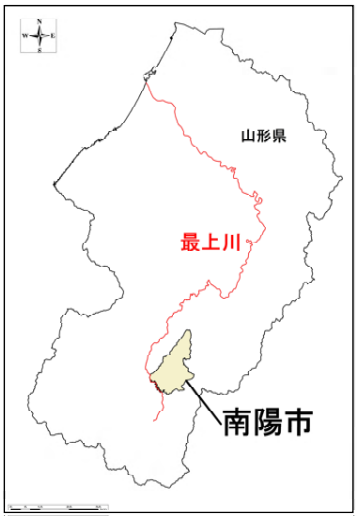
概要

逃げ遅れゼロの社会を目指し、住民一人ひとりが自分自身にあった避難に必要な情報・判断・行動を把握し「自分の逃げ方」を手に入れるため、気象防災アドバイザー長谷川麻衣先生（気象予報士、防災士）から、最近の気象の特徴などを気象図からわかりやすく解説いただき、マイ・タイムラインを自ら検討・作成するプロジェクトを南陽市自主防災組織連絡協議会と連携、地域住民を対象に実施し、防災意識の高揚を図っています。

今後の展望

南陽市自主防災組織連絡協議会と連携して、情報共有を図り普及を促進していきます。自主防災組織の役員等の高齢化が進む中、地域防災リーダーの担い手不足も課題であり、小中学生への防災教育を通じ、幅広い世代にマイ・タイムラインの普及促進を図るとともに、水災害リスクを自分事化し、地域防災力を向上していきます。

南陽市



南陽市の概要

南陽市は、山形県南部・置賜地方に位置する人口29千人の市です。赤湯温泉をはじめとする温泉地や、ぶどう・さくらんぼなど果樹栽培が盛んな地域としても知られております。

市内には、熊野大社などの歴史ある神社、烏帽子山公園の千本桜など観光資源も豊富な地域で、美味しいラーメン屋が３８軒を並べるラーメン激戦区、代表的な「辛みそラーメン」は寒い冬でも、体の芯から温めてくれます。



市内一斉避難訓練で避難行動した住民が避難所で防災学習を行う様子



自らの命を守る行動を呼びかける市長



住民参加による水防活動の様子

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

出水期前の市民参加型避難訓練・水防訓練

概要

近年の大規模な水害発生の現況を考慮し、住民が「自らの命は自らが守る」意識を持って避難行動を実践するとともに、水防活動を総合的に実施する有事即応体制の確立に資する水防思想の普及啓発を図っています。

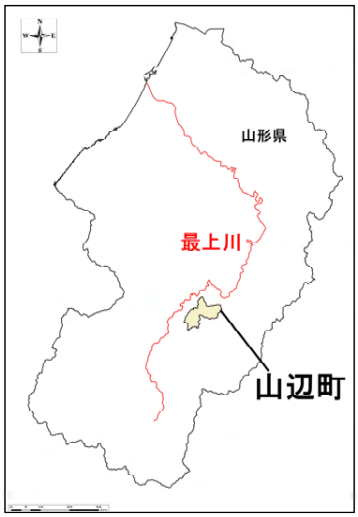
今後の展望

避難指示の発令に着目したタイムラインの検証・改善、市民参加型避難訓練を継続的に実施し、「自らの命は自ら守る」防災意識の醸成を図っていきます。

今後は、災害時避難行動要支援者や災害時要配慮者利用施設への参加を呼びかけ、逃げ遅れゼロ、誰ひとり残さない社会を目指し、実効性のある避難行動に繋げていきます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

山辺町



山辺町の概要

山辺町は山形盆地の南西部、人の横顔に例えられる山形県のエクボの場所に位置しています。県都山形市に隣接し、その市町境には蔵王を源流とし最上川に合流する一級河川須川が南北に流れています。

通勤・通学・買物・観光、何をするにも便利な抜群の交通アクセスと閑静な住宅街は幅広い世代に暮らしやすい町です。また、中山間地域に広がる大自然と美しい景観は訪れる人々の心を癒してくれます。

ニット、高級じゅうたん、農作物など“こだわり”のある高品質な“ものづくり”の町でもあります。



山辺・中山両町長による協定締結式の様子

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

隣接自治体との相互応援協定の締結

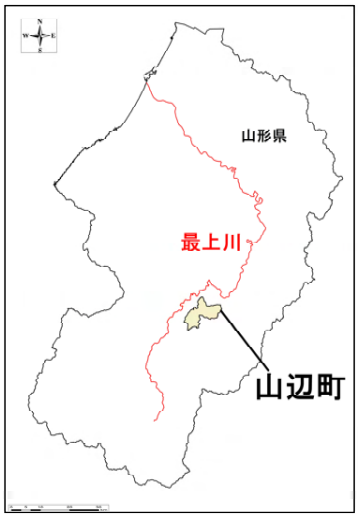
概要

県管理河川の「洪水浸水想定区域」の追加指定や、新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」の公表を踏まえ、隣接する山辺・中山両町に浸水害や土砂災害から安全に身を守る避難所の確保について共通の課題意識があったことから、その他災害対応に関する諸課題の解消を含めて互いに協力していくため、「災害時における相互応援に関する協定書」を令和７年３月に締結しました。

今後の展望

両町の相互応援及び協力により、支援物資や安全な避難所等が確保されることで両町の被害の軽減と住民生活の安定を図る事が協定締結の目的であることから、有事の際の応援・協力が円滑に行えるように提供可能な避難所の候補や物資の備蓄状況等について事前に情報交換を行っていきます。

山辺町



山辺町の概要

山辺町は山形盆地の南西部、人の横顔に例えられる山形県のエクボの場所に位置しています。県都山形市に隣接し、その市町境には蔵王を源流とし最上川に合流する一級河川須川が南北に流れています。

通勤・通学・買物・観光、何をするにも便利な抜群の交通アクセスと閑静な住宅街は幅広い世代に暮らしやすい町です。また、中山間地域に広がる大自然と美しい景観は訪れる人々の心を癒してくれます。

ニット、高級じゅうたん、農作物など“こだわり”のある高品質な“ものづくり”の町でもあります。



山辺町自主防災連絡協議会の研修（災害図上訓練DIG(風水害版)）の様子



令和6年11月実施の地域版
タイムライン作成の様子



町内防災士にも研修参加の
声がけを行っています。

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

自主防災アドバイザーによる出前講座の継続実施

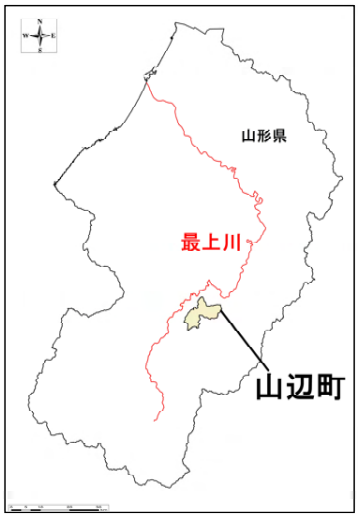
概要

山辺町では、自主防災組織の活動の活性化を図るため、「山形県自主防災アドバイザー派遣事業」を活用した防災訓練や講演会などを継続的に実施しています。また、各自主防災組織に対し声がけを行い、自主防災組織主催による出前講座の実施も推進しています。自主防災組織の指導的立場にある住民等に対しては、山形県が開催する「自主防災組織リーダー研修会」への積極的な参加を促しています。

今後の展望

防災の知識と技能を有し、自主防災組織に対する助言や指導を行うことができる自主防災アドバイザーによる出前講座の実施については、自主防災組織の活性化、住民の防災意識の高揚を図るためにも有効であることから、今後も継続して実施していきます。

山辺町



山辺町の概要

山辺町は山形盆地の南西部、人の横顔に例えられる山形県のエクボの場所に位置しています。県都山形市に隣接し、その市町境には蔵王を源流とし最上川に合流する一級河川須川が南北に流れています。

通勤・通学・買物・観光、何をするにも便利な抜群の交通アクセスと閑静な住宅街は幅広い世代に暮らしやすい町です。また、中山間地域に広がる大自然と美しい景観は訪れる人々の心を癒してくれます。

ニット、高級じゅうたん、農作物など“こだわり”のある高品質な“ものづくり”の町でもあります。



避難訓練では地域ごとの避難所へ避難を実施



避難所には防災資器材の展示も行いました。



避難訓練後、町中央公民館を会場に自主防災アドバイザーを講師とした防災講演を開催しました。

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

自主防災組織を中心とした避難訓練の実施

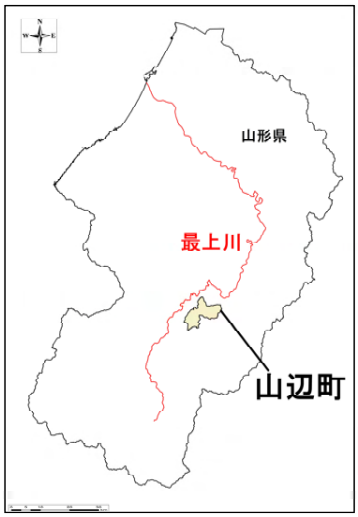
概要

山辺町では、例年１０月に総合防災訓練を実施しています。令和６年度の総合防災訓練では避難訓練を実施しました。町職員が開設訓練を行った避難所に自主防災組織を中心とした住民が、避難所までの避難経路の確認などを行いながら避難を行いました。また、避難訓練の後には、山形県自主防災アドバイザーを講師とした防災講演を実施しました。

今後の展望

総合防災訓練及び自主防災組織を中心とした避難訓練については、住民の防災意識の高揚を図るため今後も継続して実施していきます。訓練が形骸化しないよう、より多くの住民から参加してもらえるよう、訓練の実施方法等についても検討していきます。

山辺町



山辺町の概要

山辺町は山形盆地の南西部、人の横顔に例えられる山形県のエクボの場所に位置しています。県都山形市に隣接し、その市町境には蔵王を源流とし最上川に合流する一級河川須川が南北に流れています。

通勤・通学・買物・観光、何をするにも便利な抜群の交通アクセスと閑静な住宅街は幅広い世代に暮らしやすい町です。また、中山間地域に広がる大自然と美しい景観は訪れる人々の心を癒してくれます。

ニット、高級じゅうたん、農作物など“こだわり”のある高品質な“ものづくり”の町でもあります。



町からの補助金を活用した自主防災組織ごとの訓練の様子（簡易トイレ体験）



自主防災組織ごとの訓練の様子
（炊き出し訓練）



山辺町自主防災会連絡協議会の研修会の様子

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

自主防災組織活動への補助と研修会の実施

概要

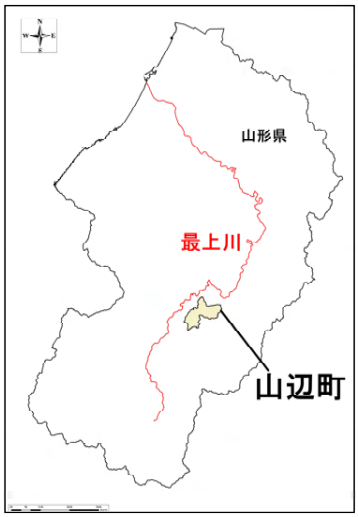
山辺町では自主防災組織の育成支援、活動の推進を図るため、自主防災組織が行う防災訓練の実施に係る経費に対し補助を行っています。令和７年度からは防災訓練や研修の際に必要となる防災資器材の整備に要する経費についての補助も新設しました。

また、防災力の強化を図るため自主防災組織を対象とした研修会を年２回開催しています。

今後の展望

地域防災力の強化は、町全体の防災力の強化につながることから、自主防災組織の育成支援、活動の推進を図るための補助や研修会開催などの取り組みを今後も継続し、自主防災組織の防災力を高めながら地域防災力の強化、共助の仕組みの強化を図っていきます。

山辺町



山辺町の概要

山辺町は山形盆地の南西部、人の横顔に例えられる山形県のエクボの場所に位置しています。県都山形市に隣接し、その市町境には蔵王を源流とし最上川に合流する一級河川須川が南北に流れています。

通勤・通学・買物・観光、何をするにも便利な抜群の交通アクセスと閑静な住宅街は幅広い世代に暮らしやすい町です。また、中山間地域に広がる大自然と美しい景観は訪れる人々の心を癒してくれます。

ニット、高級じゅうたん、農作物など“こだわり”のある高品質な“ものづくり”の町でもあります。



土のう作りを体験する総合防災訓練の参加者①



土のう作りを体験する
総合防災訓練の参加者②



水防団を兼ねる消防団の団員による土のう作りの指導の様子

洪水氾濫による被害の軽減対策、避難時間の確保のための水防活動の強化

総合防災訓練での土のう作り体験

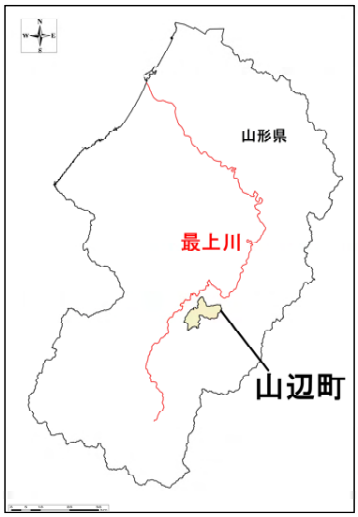
概要

山辺町では、例年１０月に開催する総合防災訓練の中で、土のう作りの体験コーナーを設置し、訓練に参加した自主防災組織の住民などから実際に土のう作りを体験してもらっています。気軽に参加してもらえるように体験形式とし、土のう作りの指導には水防団を兼ねる消防団の団員があたります。

今後の展望

総合防災訓練の訓練内容ついては、その年度ごとに異なることから、令和６年度は土のう作り体験を実施していませんが、防災につながる知識と技能の普及は住民の防災意識の高揚を図るためにも有効であることから、今後の継続実施について検討していきます。

山辺町



山辺町の概要

山辺町は山形盆地の南西部、人の横顔に例えられる山形県のエクボの場所に位置しています。県都山形市に隣接し、その市町境には蔵王を源流とし最上川に合流する一級河川須川が南北に流れています。

通勤・通学・買物・観光、何をするにも便利な抜群の交通アクセスと閑静な住宅街は幅広い世代に暮らしやすい町です。また、中山間地域に広がる大自然と美しい景観は訪れる人々の心を癒してくれます。

ニット、高級じゅうたん、農作物など“こだわり”のある高品質な“ものづくり”の町でもあります。



令和3年度に整備した排水ポンプ（令和3年7月13日に実施した試運転の様子）



試運転では、ポンプの機能や使用手順などの確認をしました



試運転での排水の様子

一刻も早い生活再建、及び社会経済の回復のための排水活動

排水ポンプの整備による排水能力の強化

概要

山辺町では、水害の発生により道路や住宅街が冠水した場合に備えるため、令和３年度に排水ポンプの整備を行いました。整備したポンプは2台で、１台あたり毎分5トンの排水が可能なものです。排水ポンプを実際に使用する際には、災害時応援協定に基づき町の建設業協会へ作業をお願いします。

水害発生時の更なる排水能力の強化を図るため、令和７年度には排水ポンプ車の整備を行います。

今後の展望

水害発生に備えて整備した排水ポンプの、より効果的な運用方法についても検討を進めていきます。あわせて、線状降水帯などによる大雨による水害の激甚化が進む中で、排水ポンプの更なる整備の必要性なども検討していきます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

中山町

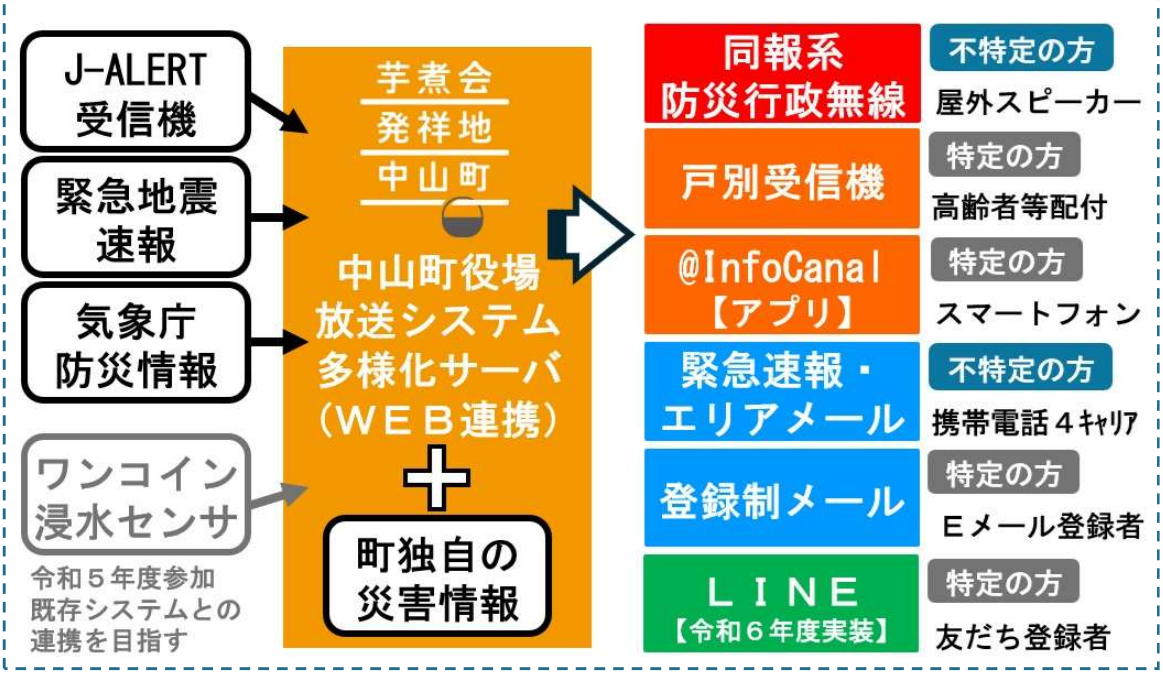


中山町の概要

中山町は山形県の中央部に位置し、町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、長崎湊（中山町）は最上川舟運の終点とされ、その舟運に携わる人たちが中山町でとれた里芋を煮て食べたのが「芋煮会」の始まりで、中山町が芋煮会発祥の地と言われています。

今では、愛媛県大洲市、島根県津和野町の芋煮と日本三大芋煮の１つとなっています。



中山町の災害情報の流れ



同報系防災行政無線を補完する戸別受信機



浸水が発生した箇所を中心に設置したワンコイン浸水センサ（冬季は撤去）

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

早期の防災・避難行動を促す多様な災害情報発信

概要

中山町では、同報系防災無線とインターネットを活用し、多様な発信媒体による省庁からの基本的な災害情報と町独自の災害情報を発信しています。また、屋外スピーカーによる音声発信を補完するため、高齢者のみ世帯等に戸別受信機を貸与するとともに、放送内容確認ダイヤルを整備しています。

令和５年度からはワンコイン浸水センサ実証実験に参画し、令和２年７月豪雨における浸水箇所を中心に６箇所に設置しています。

今後の展望

今後、発信媒体による情報到達のタイムラグの解消、発信作業の自動化、効率化を進めるとともに、ワンコイン浸水センサによる感知情報の既存システムとの連携を図り、住民が少しでも早く防災・避難行動をとれるよう、災害情報の早期発信を進めます。また、災害時の情報発信基盤を確保するため、衛星インターネットサービス（スターリンク）を導入します。



中山町の概要

中山町は山形県の中央部に位置し、町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、長崎湊（中山町）は最上川舟運の終点とされ、その舟運に携わる人たちが中山町でとれた里芋を煮て食べたのが「芋煮会」の始まりで、中山町が芋煮会発祥の地と言われています。

今では、愛媛県大洲市、島根県津和野町の芋煮と日本三大芋煮の１つとなっています。



須川の河道掘削で発生した土砂を活用した避難拠点整備



浸水害対策機材と運搬するトラック



浸水害の発生しやすい地域から順次土のうステーションを整備・補強（令和７年１０月現在７箇所）

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

浸水害対策を支える拠点・機材の整備

概要

中山町では、令和２年７月豪雨による浸水害を踏まえ、浸水害対策のため多角的かつスピード感を伴う対策を検討し、実施してきました。緊急治水プロジェクトによる河道掘削土を活用させていただき、天端面積約6,700㎡の垂直避難拠点の整備に着手するとともに、排水能力の確保のため、排水ポンプと大型発電機、運搬用のクレーン付きダンプトラックを購入し、これらを格納する浸水害対策水防拠点を整備しました。また、５００袋を常設する土のうステーションを各所に整備しました。

今後の展望

今後、垂直避難拠点の供用に向けた整備を進めるとともに、排水ポンプを稼働させる人材を増やすため、小型クレーンや玉掛けなどの技能講習受講者を増やし、協力団体等との定期的な排水訓練を行い対策能力の向上を図ります。

中山町



中山町の概要

中山町は山形県の中央部に位置し、町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、長崎湊（中山町）は最上川舟運の終点とされ、その舟運に携わる人たちが中山町でとれた里芋を煮て食べたのが「芋煮会」の始まりで、中山町が芋煮会発祥の地と言われています。

今では、愛媛県大洲市、島根県津和野町の芋煮と日本三大芋煮の１つとなっています。



「石子沢川流域水害対策計画」策定時



田んぼダム（排水桝に調整板を設置）



公共施設再配置計画策定、立地適正化計画の見直しなどを一体的に進めるためのワークショップ

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

石子沢川流域水害対策計画による流域治水の取組み

概要

中山町では、令和７年３月２６日に策定された「石子沢川流域水害対策計画」に基づき、浸水被害対策目標達成に向け、雨水浸透阻害行為対策工事への補助金の創設、「防災指針」制度に対応した立地適正化計画の見直しや、雨水貯留機能を併せた公共施設再配置計画の策定など、庁内のみならず、町内外の関係者、町民、事業者が参画した実践的な流域治水の取組みを進めています。

今後の展望

今後、石子沢川流域水害対策計画を着実に推進するための実施主体の組織化を進めるとともに、貯留機能保全区域の指定など、国、県、町が連携して進める事業、町関係団体が将来を見据えて策定する公共施設再配置計画など、あらゆる関係者がさらに連携を強め、実践していく体制づくりを進めていきます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

中山町



中山町の概要

中山町は山形県の中央部に位置し、町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、長崎湊（中山町）は最上川舟運の終点とされ、その舟運に携わる人たちが中山町でとれた里芋を煮て食べたのが「芋煮会」の始まりで、中山町が芋煮会発祥の地と言われています。

今では、愛媛県大洲市、島根県津和野町の芋煮と日本三大芋煮の１つとなっています。



隣接する山辺町と広域避難等を見据え、これまで以上の連携を進める協定を締結



陸上自衛隊東北方面隊実働演習（みちのくALERT2024）に参加し状況付与による指揮所訓練を実施



町防災訓練において住民がパーティションや簡易ベッドを体験する避難所設営訓練

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

迅速かつ多様な避難体制の構築

概要

中山町では、住民の７割以上が浸水想定区域内に居住しており、令和２年７月豪雨と令和４年８月豪雨では緊急安全確保を発令し避難所を開設しましたが、避難所周辺でも道路冠水などにより避難行動に制限が発生しました。このことから、広域避難を見据えた早期の災害情報発信の判断能力を向上させる災害対策本部の訓練や、住民の避難行動意識の醸成のための体験・試食などの防災訓練を企画実施するとともに、広域避難先の確保などを進めるため隣接町との協定を締結しました。

今後の展望

今後、新しい地方経済・生活環境創生交付金（地域防災緊急整備型）を活用して避難所機能強化のための機材整備（簡易トイレ（ラップポン）及びポータブル電源３５セット、給水タンク１基等）を行うとともに、定期的な災害対策本部による図上訓練の実施、広域避難先を見据えた連携先の確保を進め、住民が早期に避難行動をとれる体制を強化します。

中山町



中山町の概要

中山町は山形県の中央部に位置し、町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、長崎湊（中山町）は最上川舟運の終点とされ、その舟運に携わる人たちが中山町でとれた里芋を煮て食べたのが「芋煮会」の始まりで、中山町が芋煮会発祥の地と言われています。

今では、愛媛県大洲市、島根県津和野町の芋煮と日本三大芋煮の１つとなっています。



小学校５年生を対象としたハザードマップを活用した防災教育（当時）の授業の様子



中学３年生が避難所の課題から
地域社会を考える防災教育の授業の様子



防災教育連絡調整会議を開催し、各機関が
連携し防災教育を実施

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

幼保から中学生までの『切れ目のない防災教育』

概要

中山町では、各機関と連携し、幼保（年長）から中学生までを対象とした、災害時に迅速かつ的確な避難行動をとるための防災教育『切れ目のない防災教育』を令和３年度から実施しています。小学校５年生の授業ではハザードマップを活用した授業（当時）、中学校３年生では避難所の課題から地域社会を考える授業など、災害時に適切かつ的確な行動をとるための学びや、防災と地域を結びつける学びを通じ、防災力向上を図っています。

今後の展望

今後、中学生以下の幼児、児童及び生徒だけではなく、幅広い世代へ防災教育を展開し、幼児、児童及び生徒から保護者、高齢者、そして全町民へと対象を拡大しながら、防災・避難行動に対する住民の行動変容を促し、地域の防災力を高めていきます。

中山町

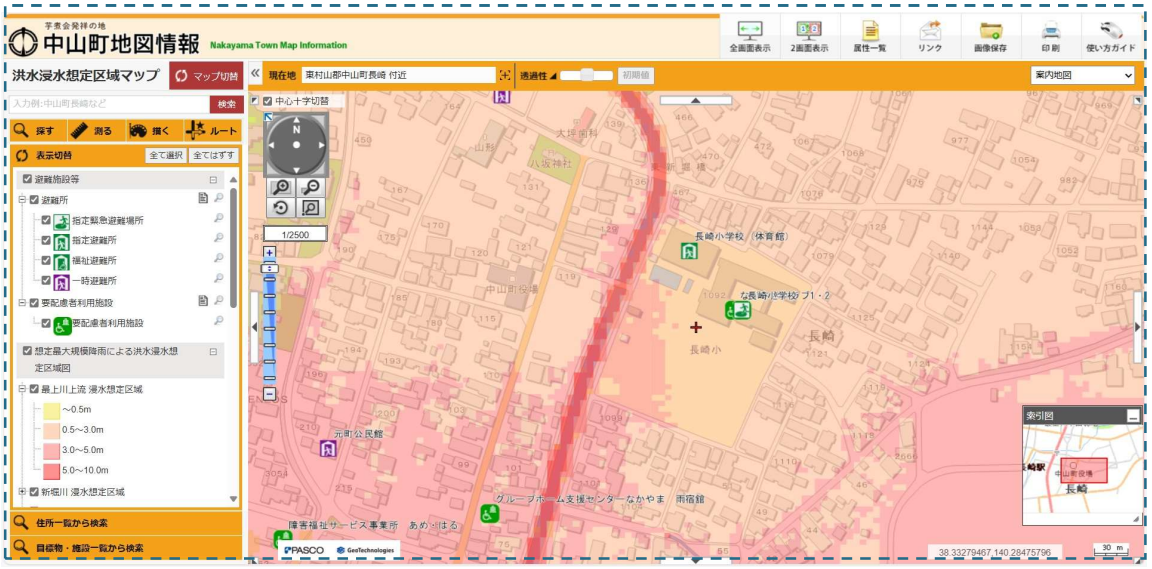


中山町の概要

中山町は山形県の中央部に位置し、町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、長崎湊（中山町）は最上川舟運の終点とされ、その舟運に携わる人たちが中山町でとれた里芋を煮て食べたのが「芋煮会」の始まりで、中山町が芋煮会発祥の地と言われています。

今では、愛媛県大洲市、島根県津和野町の芋煮と日本三大芋煮の１つとなっています。



統合型GISによる洪水浸水想定区域マップの公開



スマートフォンアプリによる個別避難計画作成システムの導入



自主防災組織役員などを対象としたマイ・タイムライン作成研修会

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

水害リスクの周知と避難計画作成の促進

概要

中山町では、住民の水害リスクをはじめとする災害の危険性を住民に周知するため、統合型GISを導入し「洪水浸水想定区域マップ」などの防災情報を公開しています。また、要配慮者の避難行動を支援するため、個別避難計画の作成と管理がしやすい個別避難計画作成システムを導入するとともに、一般住民によるマイ・タイムラインの作成を促す研修会を行うなど、防災DXを活用しながら、個人の避難計画作成を進めています。

今後の展望

今後、多様な防災情報を統合型GISに公開することで、住民の閲覧数を増やし周知効果を高めるとともに、福祉部局と連携しながら個別避難計画作成システムによる計画作成率を高めていきます。
また、防災教育と連携し住民それぞれのマイ・タイムラインとマイ減災マップの作成を普及します。

河北町



河北町の概要

河北町は、山形県のほぼ中央にあって、万年雪を抱く月山や、雄大な朝日岳、さらには樹氷で有名な蔵王を遠くに望みながら、県の母なる川、最上川と清流寒河江川に囲まれた、風光明媚な環境の中にあります。

町の花「紅花」は室町時代から盛んに栽培され、江戸から明治時代にかけて紅花の集散地として栄えました。

また、お米、さくらんぼをはじめとする果物、秘伝豆、イタリア野菜など多彩な農作物が生産され、美味しい日本酒、冷たい肉そば、ソースカツ丼などの豊かな食文化やスリッパなどの特産品が全国へ世界へと発信されています。



防災行政無線子局



河北町LINE公式アカウント



防災ラジオ

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

災害情報伝達の多重化

概要

災害情報の町民への周知を強化するため、防災行政無線に更新にあわせ、聞こえにくい地域への子局の増設や高性能スピーカへの変更など行います。あわせて防災行政無線、エリアメール、町の公式LINE、町のホームページなどへ同時に配信し、天候により防災行政無線が聞き取りにくい状況でも速やかな情報伝達できる体制を整備します。また、水害の危険性がある地域へ防災ラジオを配布し、電話回線網が使えない場合であっても、町民に情報伝達できる体制を図ります。

今後の展望

町公式LINEへの登録を呼びかけ、家の中や天候により防災行政無線が聞き取りにくい状況であっても情報を得られるよう引き続き促します。また、モーターサイレンを防災行政無線の前に使うなど、町民に危機感が伝わりやすい効果的な情報伝達を検討していきます。

河北町



河北町の概要

河北町は、山形県のほぼ中央にあって、万年雪を抱く月山や、雄大な朝日岳、さらには樹氷で有名な蔵王を遠くに望みながら、県の母なる川、最上川と清流寒河江川に囲まれた、風光明媚な環境の中にあります。

町の花「紅花」は室町時代から盛んに栽培され、江戸から明治時代にかけて紅花の集散地として栄えました。

また、お米、さくらんぼをはじめとする果物、秘伝豆、イタリア野菜など多彩な農作物が生産され、美味しい日本酒、冷たい肉そば、ソースカツ丼などの豊かな食文化やスリッパなどの特産品が全国へ世界へと発信されています。



避難行動要支援者への支援を想定した避難訓練



自主防災組織による避難訓練



避難所開設・運営訓練

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

実践的な避難訓練と共助の仕組みの強化

概要

河北町では、自主防災組織などと連携し、町水防訓練や自主防災組織の防災訓練などで避難行動要支援者への支援も含めた実践的な避難訓練を実施しています。

また、町内会版タイムラインの作成を推進するため、防災専門員を派遣し町内会版タイムラインの作成を支援するとともに、作成に取り組んでいる町内会に対して交付金を交付しています。

今後の展望

自主防災組織などの防災訓練実施と内容の充実を図るとともに、町内会版タイムラインの作成について引き続き支援を行い、防災意識の向上と自主防災組織などの防災力を高めていきます。

また、訓練などを通して、自助・共助の意識も高めていきます。

西川町



西川町の概要

西川町は山形県のほぼ中央、県都山形市の西方32kmに位置しており、磐梯朝日国立公園の朝日連峰や月山とその支脈に囲まれています。

県内有数の豪雪地帯で、多い地区では5mを超える積雪があります。

町のシンボルでもある月山では春、夏スキーを楽しむことができ、夏には花火大会、秋にはSeaToSummitや三酒まつりで賑わいを見せています。



令和6年5月10日（金）

全戸配布タブレット「つながるくん」



令和6年5月

タブレットの操作説明会（全地区で実施）



令和6年10月6日（日）

西川町総合防災訓練でのタブレットを活用した訓練の様子

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

戸別受信機のタブレット「つながるくん」への代替

概要

西川町では、防災情報及び行政情報などを町民にすばやく確実にお届けするため、タブレット「つながるくん」を全戸配布しています。「つながるくん」には毎日町からのお知らせが配信され、災害発生時には戸別受信機の代替として防災情報の配信も行われます。

防災訓練においても、タブレットを活用した訓練を実施しており、避難情報や安否確認で減災に取り組みます。

今後の展望

現在、各世帯には防災行政無線の戸別受信機とタブレット「つながるくん」がどちらも配置されている状態ですが、徐々にタブレットに移行している状況です。

タブレットを活用した防災訓練に実施や、自主防災組織内での活用により、防災意識の向上を図ります。



西川町の概要

西川町は山形県のほぼ中央、県都山形市の西方32kmに位置しており、磐梯朝日国立公園の朝日連峰や月山とその支脈に囲まれています。

県内有数の豪雪地帯で、多い地区では5mを超える積雪があります。

町のシンボルでもある月山では春、夏スキーを楽しむことができ、夏には花火大会、秋にはSeaToSummitや三酒まつりで賑わいを見せています。

災害時における飲料水等の供給に関する協定書

西川町（以下「甲」という。）と西川町総合開発株式会社（以下「乙」という。）は、災害時における乙が取扱う飲料水等の供給等について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、西川町の区域内で地震、風水害等災害が発生し、又は発生するおそれがある場合（以下「災害時」という。）、甲が実施する災害応急対策に対し、乙が飲料水等の供給を円滑に実施するため、必要な事項を定めるものとする。

（要請・協力）

第２条　甲は、災害時において飲料水等を必要とするときは、乙に対し飲料水等の優先的な供給を要請することができるものとする。この場合において、乙は可能な限り、甲に協力するものとする。

２　前項の要請は、飲料水等供給要請書（別記様式第１号）により行うものとする。ただし、緊急を要する場合は、口頭又は電話等により要請し、後日文書を提出するものとする。

（供給物件）

第３条　甲が乙に供給を要請する飲料水等は、次に掲げるものとする。

（１）　ナチュラルミネラルウォーター

（２）　その他飲料

平成25年3月25日（月）

災害時における物資の供給に関する協定書の例

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

企業との災害協定による物資確保体制の強化

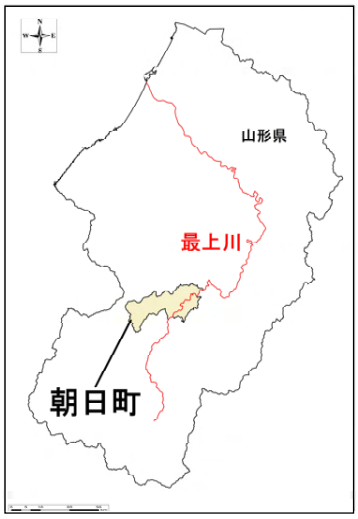
概要

西川町では、町内の民間企業と様々な災害協定を締結しており、災害時の飲料水、食料物資、生活物資、建築資材等の円滑な物資提供を受ける体制を構築しています。西川町総合開発(株)と飲料水等、東北カートン(株)と段ボール製品等、寒河江西村山農業協同組合や西川町商工会と生活物資、農業法人(株)米月山と食料物資、西川町石油組合と燃料など、多岐にわたる物資の確保体制を強化しています。災害協定を締結した企業との平時からの連携強化や対話などを重ね、災害時に備えています。

今後の展望

物資確保体制の強化のため、企業からの提案も含め民間企業との災害協定締結を進めるとともに、平時の訓練等への協力などを促していきます。

朝日町



朝日町の概要

当町は、山形県の中央部に位置し、磐梯朝日国立公園の主峰・大朝日岳の東縁三麓地域にあります。最上川が町域の何北を約21㎞にわたって蛇行北流し、国立公園をはじめとする原生林野が町土の76%を占め、豊かな自然環境と澄みきった空気に包まれ、世界で唯一空気をまつる「空気神社」のある町です。

また「無袋ふじ」発祥の地として、数々の賞を受賞する「ワイン」の醸造、販売を行っていることが、「りんごとワインの里」のキャッチフレーズに結びついています。



ワークショップで地区の危険個所を洗い出し、地区の現状の見える化を行った。



実際に地区内を歩いて危険箇所等の確認



歩いたあとは地図に落とし込み作業

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

地区の現状の理解と災害対応を学ぶ

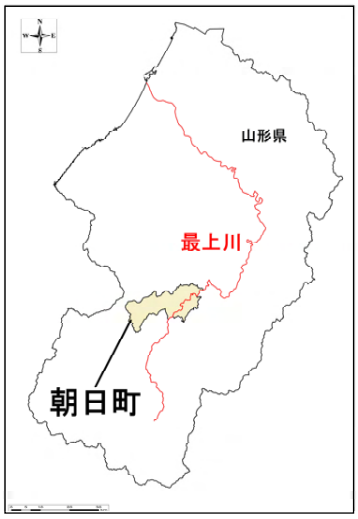
概要

「町防災マップ」の活用のひとつとして、地区における危険個所を知ることと、マイ・タイムライン等の必要性を学び、日頃からの準備の重要性を知ることにより、災害時に適切な行動をとるため、各地区において防災講話を開催しています。

今後の展望

防災に対する意識は地区ごとに大きく異なります。しかし災害はいつどこで起きるがわからないため、町内全ての地区で、同様の危機意識の醸成が図られるように、地区防災マップの作成支援に取り組んでいきます。

朝日町



朝日町の概要

当町は、山形県の中央部に位置し、磐梯朝日国立公園の主峰・大朝日岳の東縁三麓地域にあります。最上川が町域の何北を約21㎞にわたって蛇行北流し、国立公園をはじめとする原生林野が町土の76%を占め、豊かな自然環境と澄みきった空気に包まれ、世界で唯一空気をまつる「空気神社」のある町です。

また「無袋ふじ」発祥の地として、数々の賞を受賞する「ワイン」の醸造、販売を行っていることが、「りんごとワインの里」のキャッチフレーズに結びついています。



地区住民に向けた防災講話



ワークショップで地区の危険個所の洗い出し

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

継続した自主防災リーダーの養成

概要

近年、災害が多発化、激甚化している中、地域の安全・安心を十分に確保していくためには、自主防災組織等の活性化が不可欠です。しかしながら、朝日町では、自主防災組織の代表は、区長が務めることが多く、区長が変わるたびに新たな組織体制となり、組織が強化していかない状況となっています。このことから、令和５年度から継続したリーダーとなれる人材を育成し自主防災組織の強化を図る目的で自主防災リーダー研修を開催しております。

今後の展望

自主防災リーダー向けにフォローアップ研修を開催し、新たな知識の獲得と学び直しの機会を提供することで、長くリーダーとしての役割を担い、自主防災組織の強化の継続を目指します。また、新しいリーダーが着任しても、即座に優良事例とノウハウを参照し、活動を中断させずに継続できるように検討します。

大江町



大江町の概要

大江町は山形県のほぼ中央部に位置し、朝日連峰から月布川が流れ、町の南東部を流れる最上川に合流します。平成25年3月には国の「重要文化的景観」に選定されました。



大江町総合防災訓練「水防訓練」の様子



大江町総合防災訓練「初期消火訓練」の様子



大江町総合防災訓練「応急手当訓練」の様子

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

自分の安全は自分で守る自助が大事防災訓練

概要

大江町では、各機関と連携し、町の総合防災訓練を実施しています。
災害時はまず“自助の意識”自分の身を守ること。いざという時に慌てないこと。災害は忘れた頃にやってくるのではなく、忘れる間もなくやってくるものになってきています。
また、水防はみんなで協力する“共助の力”です。普段から協働の心を持ちコミニュティ力を高めていきます。

今後の展望

今後も防災力を高める様々な機会を積極的に取り入れ、いざという時に慌てない環境を整えます。
発足時の一部の熱意に終わらず、世代が繋ぐ自主防災組織を育んでいきます。具体的には新しいリーダーが着任しても、即座に優良事例とノウハウを参照し、活動を中断させずに継続できるように検討します。

大石田町



大石田町の概要

大石田町は山形県の中央部に位置し、町の中心を南北に最上川が流れています。江戸時代には最上川舟運最大の中継点として栄えました。

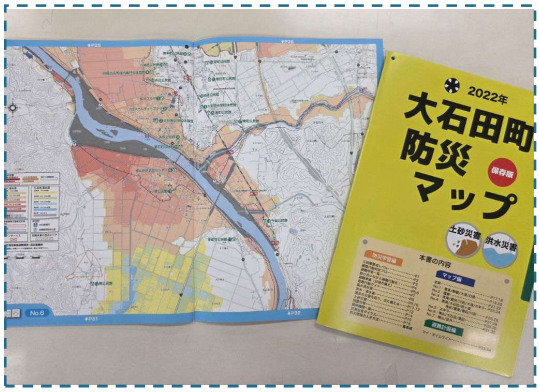
最上川沿いには江戸自体の舟役所や塀蔵の様子を描いた特殊堤防が作られ、旧家には蔵や江戸時代から伝わる雛飾りが残るなど、当時の様子を今に伝えています。

また、昼夜の寒暖差が激しい気候と豊富な水を活かしたお米やスイカ、そばなどの生産が盛んです。

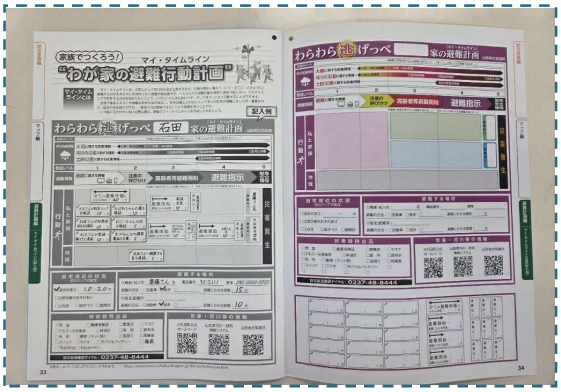
町内には十数軒のそば屋が軒を連ね、大石田ならではのそばを求めて県内外から多くの方が訪れます。



町内3つの小学校の5年生が合同で防災教室を実施する様子



大石田町防災マップ



マイ・タイムライン

「住民が自発的に考え自ら行動する」「行政機関等が住民の暮らしと生命を守るために動く」取組

防災教育を通したマイ・タイムラインの普及促進

概要

防災啓発活動の一環として、町内に３校ある小学校の５年生合同での防災学習を実施しています。
過去の災害について学習した後、防災マップを用いて自分の住むエリアの危険箇所などを確認し、実際に被災した状況を想像しながら避難ルートを考え、マイ・タイムラインを作成することで、防災意識の向上を図りました。また、学習の成果を持ち帰り家族と話をしてもらうことで、家庭で防災について考える機会としています。

今後の展望

防災教育の範囲を広げていくとともに、学校での学習だけではなく、地域の防災研修などで、子どもから高齢者まで幅広い世代が一緒に防災について考え、防災の機運を高める場を構築していきます。
また、作成したマイ・タイムラインを活用した訓練などを実施していきます。

金山町



金山町の概要

山形県金山町は、山形県北部にある町です。

金山町では、昔から林業が盛んで、樹齢50～80年の金山杉を利用し、伝統的な美学に基づいた「金山型住宅」が知られています。

昭和61年には「街並み景観条例」が施行され、条例に則した統一された家並みや、大堰公園をはじめとした美しい風景が広がっています。

また、平成22年には、国土交通省の「都市景観大賞」を受賞するなど、景観に関し様々な賞を獲得しています。

令和7年1月には金山町町制施行100周年を迎え、式典やイベントなど、近年ではさらに賑わいを増しています。

Digital Transformation かねやまのDX



スマートフォン画面イメージ　　タブレット端末画面イメージ

令和7年2月

防災情報アプリ「Life Vision（ライフビジョン）」を導入。
防災情報のほか、平時には町からのお知らせなども伝達される。



災害時には、緊急モードでのお知らせとなり、
背景や通知音が変わる。

【登録内容】

項目	登録内容
登録日時	2025-09-07 07:17:41
職員番号	000362
所属	町民税務課
氏名	
本人の状態	無事
家族の状態	無事
現在の所在地	外出先
登庁可否	登庁不可

職員参集画面

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

防災情報アプリを活用した確実な情報の伝達

概要

災害時に住民に対して防災情報や避難情報を迅速かつ確実に伝達するため、希望する世帯全戸に防災情報アプリがインストールされたタブレットを配布しました。また、スマートフォンへのインストールを積極的に勧行し、住民の避難行動の迅速化に努めました。

また、職員参集機能を搭載し、災害時の職員参集の可否について集約が可能です。さらに、地区長、消防団幹部などには写真投稿機能を搭載し、被災現場の状況などを職員へ直ちに報告することが可能です。

今後の展望

各地区区長や消防団などと連携し、定期的な操作訓練などを実施し、被害情報の迅速な集約化、災害対策本部の機能強化が図れるよう防災DX化を推進していきます。

最上町



最上町の概要

最上町は、山形県の北東部、宮城県との県境に位置し、周囲を山々に囲まれたカルデラ盆地の風光明媚な町です。

農業が基幹産業で、アスパラガスやニラの栽培、畜産業が盛んであり、特にアスパラガスは緑が濃く、甘くみずみずしいと評判です。また、赤倉温泉、瀬見温泉、大堀温泉と3つの温泉地があり、特色ある旅館が立ち並んでおります。

冬には豪雪地帯としても知られ、国体が開催された赤倉温泉スキー場には、多くのウインタースポーツ愛好者が訪れ、パウダースノーの雪質を楽しんでいただいております。



総合訓練での土のう設置訓練



地区毎に防災マップの作成



今すぐ楽しくできる「防災出前講座」

判断・行動の遅れによる被災を防ぐための迅速・確実な避難行動を促す取組

防災力の向上　～自助・共助の意識から～

概要

河川氾濫や内水による浸水に備え、消防団が土のう設置訓練を行いました。また、地域住民の防災意識向上と、災害時の危険箇所、避難経路の確認、地域内の要配慮者の状況確認などを、自主防災組織、福祉関係団体、地区役員などと共に、地区毎に防災マップを作成しました。さらに、防災出前講座を防災士連絡協議会と共同で開催し、発災時の初動対応の重要性と自助・共助が機能することにより、大幅に被害が軽減することを学びました。

今後の展望

地域住民が、災害リスクを知り日頃から備える取り組みを推進していきます。ハザードマップの更新や地区防災マップの更新を随時行い、最新の情報を提供するとともに、継続した訓練や出前講座など通じ、防災意識の更なる醸成を図っていきます。

舟形町



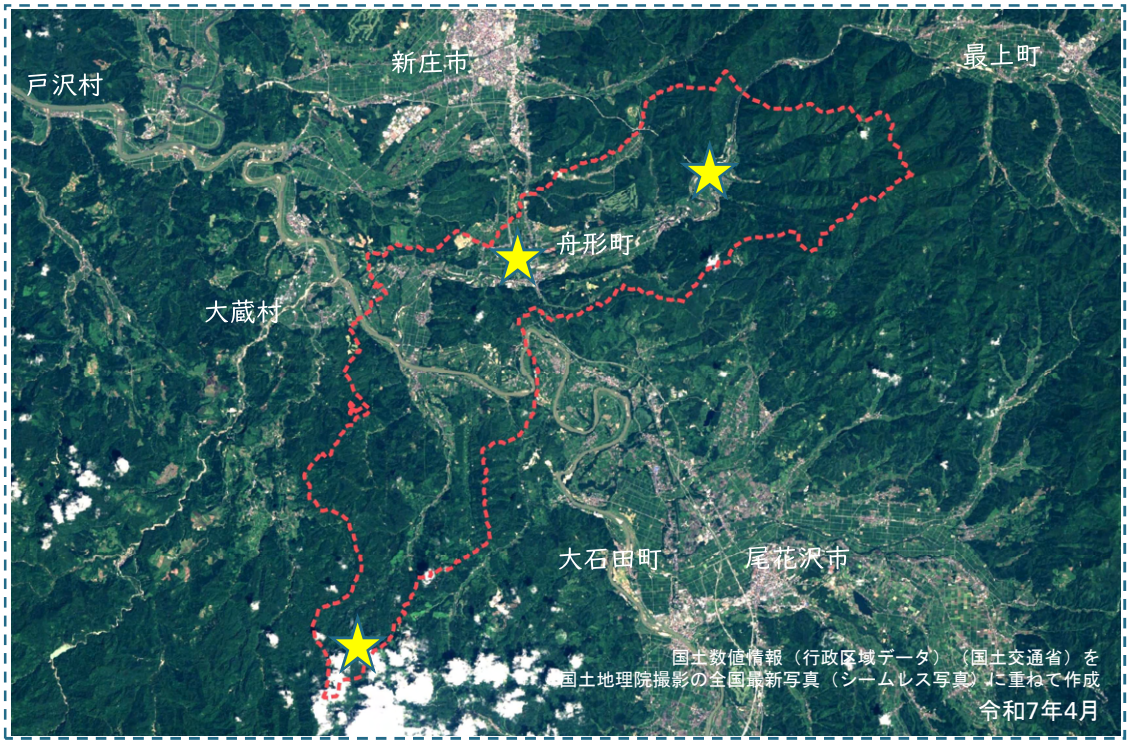
舟形町の概要

舟形町は、山形県の北東部で最上郡の南端に位置し、南北に6.5キロメートル、東西に27.4キロメートルと南北に狭く、東西に細長い地形です。町の中央を清流小国川が流れ、田畑を潤しながら山形県の母なる川・最上川へと合流します。

春から秋にかけては、山や川の恵みにあふれ、また、冬は町全体が雪に覆われ大地にひとときの休息を与えます。水・土・雪・太陽の光が育む肥沃な大地で育てられた農産物は格別です。お米は平成27年度「ふるさと納税」の返礼品として送付したお米の量が【全国1位】となりました。

清流小国川は、田畑を潤すだけでなく香り高い鮎をも育て、その鮎を求めて全国から多くの釣り人が訪れます。その小国川のほとりから約4,500年前の土偶、国宝「縄文の女神」が出土しました。

その時代からこの川は、我々の先人たちの豊かな生活を育んできた大切な財産であります。こうした豊かな環境をこれからも守ってまいります。



雨量計設置個所



雨量計



観測データ

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

雨量計設置事業

概要

舟形町では令和６年度 デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、町内３か所に雨量計を設置致しました。この雨量計では４８時間までの雨量データをさかのぼる事ができ、天気予報と照らし合わせて運用する事で町民への早期避難指示や今後の対策を検討する重要な情報となります。また平時においては町民向けに雨量計による収集データを公表しており、生活にお役立ていただいております。

今後の展望

今後の展望としては舟形町にある３台の雨量計の測定データを官民問わず活用頂き、防災対策・対応に役立ててもらいたいです。設備整備について気象台や民間の気象予報関係者より舟形町のピンポイント天気を予報してもらうために天気観測システム等も検討していきたいです。

真室川町



真室川町の概要

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に隣接しています。

町の約80%が広大で豊かな山林で、林業の町として栄え、現在の主要産業も農林業です。また、県内でも有数の豪雪地帯であり、雪深い気象条件を背景に伝承文化が育まれました。

町固有の伝承野菜や食文化、伝承芸能「番楽」や「童唄」など様々な風習風俗、四季に寄り添い自然の恵みを得る昔ながらのライフスタイルが今も暮らしの中に息づいています。



防災行政無線システムの運輸開始（写真：戸別受信機）



消防団による水防訓練の様子
（第50回真室川町防災訓練時）



真室川町自主防災組織連絡協議会総会
（山形地方気象台職員による講演）

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

自主防災組織の強化と情報発信の促進

概要

近年、豪雨・地震災害等が多発する中、地域の安全・安心を確保していくために、地域における自主防災組織の強化と、その組織が有事の際に速やかに機能するための体制づくりを進めています。また、戸別受信機設置や町公式ＬＩＮＥ登録による情報発信の促進と、自助・共助の意識向上を図るための取り組みを行っています。

今後の展望

自主防災組織連絡協議会と連携した自主防災リーダーの育成と戸別受信機・町公式ＬＩＮＥを活用した防災啓発を行い、地域防災力の向上と住民の防災意識の醸成を図っていきます。

最上川流域治水協議会
最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会

大蔵村



大蔵村の概要

大蔵村は山形県のほぼ中央に位置し、南方には霊峰月山、葉山、それに連なる山々に囲まれており、山林面積が全体の約85%を占めています。

開湯1200年の歴史を誇る「肘折温泉郷」、日本の棚田百選に選ばれている「四ヶ村の棚田」など、歴史に裏打ちされた伝統や文化、景観や環境を大切にしながら、日本で最も美しい村を宣言し、日々の暮らしを営んでいます。



村総合防災訓練でのマイタイムライン作成の様子



村総合防災訓練での避難訓練の様子



村総合防災訓練でのドローンを活用した災害想定箇所の確認の様子

判断・行動の遅れによる被災を防ぐための迅速・確実な避難行動を促す取組

防災訓練を通した防災力の向上

概要

毎年、関係機関と連携し、総合防災訓練を実施しています。

住民参加型による防災訓練により、「自分の命は自分で守る」、「地域や組織で協力し合う」という意識を持ち、防災意識の向上につながるよう取り組んでいます。今年度は、マイタイムラインの作成支援を行いました。また、ドローンを活用し、災害想定箇所を住民参加者にもリアルタイムで確認できるようにしました。

今後の展望

今後も自主防災組織や住民参加型の防災訓練を実施し、個人の防災意識の向上を図るとともに地域防災力を高めるよう取り組んでいきます。

鮭川村



鮭川村の概要

鮭川村は山形県の北部に位置し、村の中心を一級河川の「鮭川」が流れています。

鮭川は毎年鮭が遡上し、「鮭のじんぎり」として加工し、冬の貴重なたんぱく源として古くから親しまれてきました。

また、清流鮭川で育てられたきのこ類は山形県内での生産量の多くを占めております。

さらに、観光・農泊・自然体験といった分野の取組みも強化されており、清流・山間・伝統文化を活かした地域振興を行っています。



令和7年度鮭川村防災訓練



配水ポンプ設置訓練



避難訓練

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

総合的な防災力の向上

概要

鮭川村では全国的に頻発する水害への対策として、実践的な訓練の実施や研修を開催しています。村総合防災訓練では、水害を想定した排水ポンプの設置訓練や、住民の避難訓練を実施し、住民の防災意識の向上を図っています。また、共助の担い手となる自主防災組織は地区の組織率が１００％となっており、昨年７月の豪雨災害においても、自主的に避難所を開設するなど対応していただきました。

今後の展望

各地区の特性に合ったマイ・タイムラインの検証や改善を行うとともに、避難訓練を継続的に実施し、「自らの命は自ら守る」防災意識の醸成を図っていきます。

今後は、災害時の個別避難計画の策定や、自主防災組織の育成を強化し、逃げ遅れゼロ、実効性のある避難行動に繋げていきます。

戸沢村



戸沢村の概要

戸沢村は山形県の中央部を南北に走る出羽三山の北に位置し、村のほぼ中央を日本三大急流の最上川東から西へ流れ古くから最上川舟運の要衝として栄えた村です。

古くからの景勝地である最上川峡では、船頭の唄う、「最上川舟唄」が舟下りのを楽しむ方々をもてなし、両岸に生い茂る樹齢が1000年超える天然杉が、幻想的な風景を作り出しています。



古口ほのぼのサロンでの講和

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

高齢者の避難意識の向上

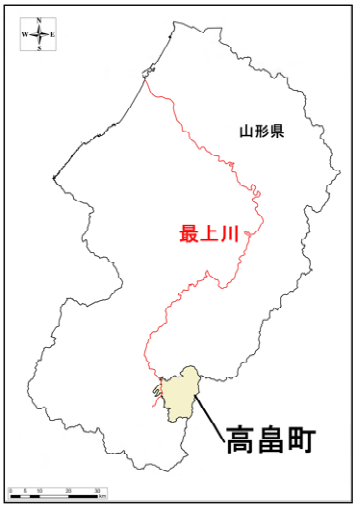
概要

戸沢村では、高齢者向けの出前講座を行いました。山形県消防防災航空隊の活動映像を資料に講和しました。高齢者への問いかけを行いました。地域の高齢者談「避難しねくても、役場や消防、国で何とかしてけっぺや！」。県防災ヘリコプターによる救助の映像を見ながら、70や80歳を過ぎて経験しなくてはならない事例を視聴しました。「自分のいのちは自分で守る　地域で連携協力し避難行動を行う」ことを基本に、テレビの情報で「黄色で準備　赤は避難　紫の時は避難所にいる」ことを参加者に周知しました。

今後の展望

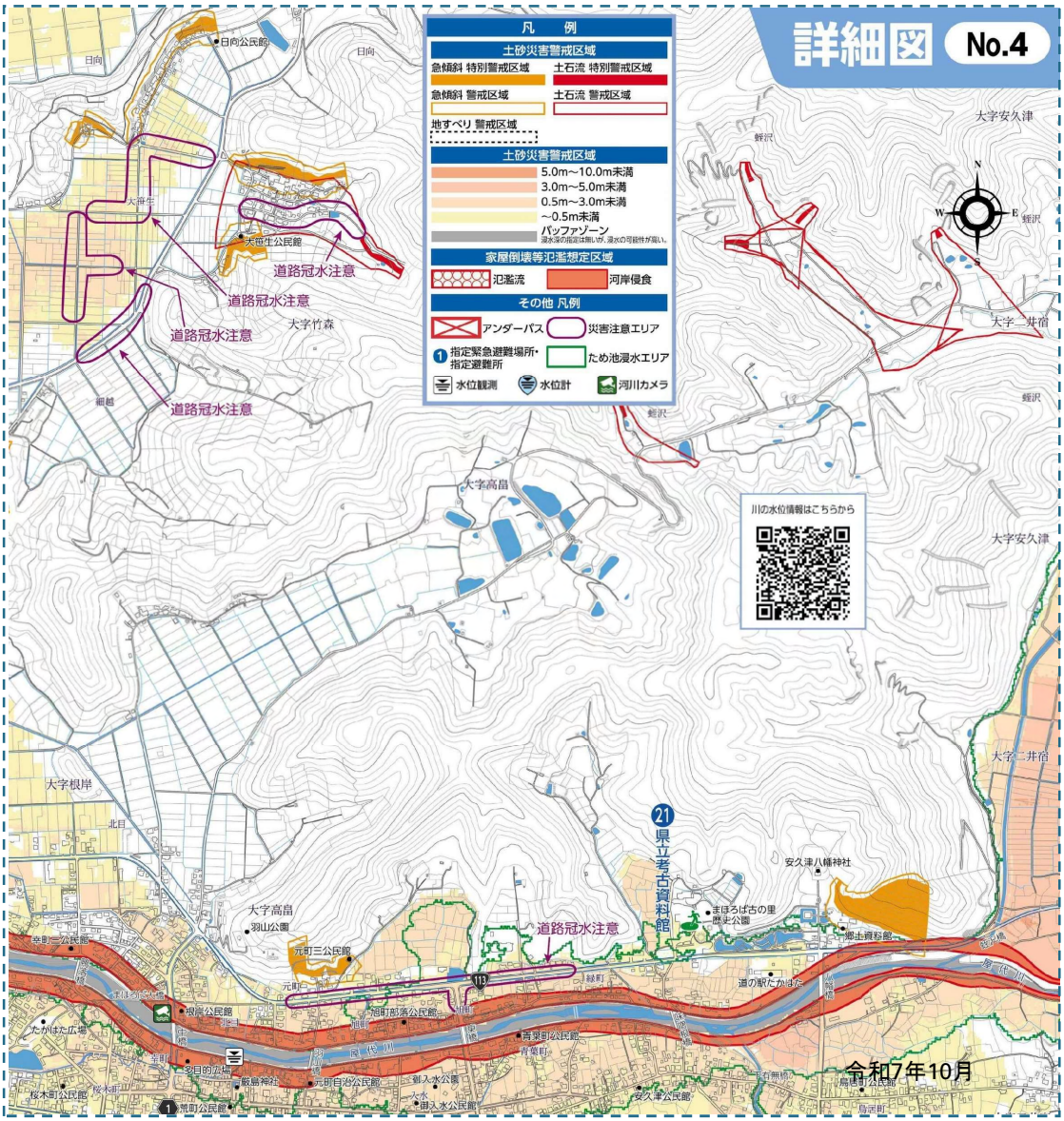
非出水期や出水期前に出前講座を継続的に実施し、「自分のいのちは自分で守る　地域で連携協力し避難行動を行う」ことの意識付けを行いました。

高畠町



高畠町の概要

まほろばの里　高畠町
「まほろば」とは、古事記などにしばしばみられる「まほら」という古語に由来する言葉で、「丘、山に囲まれた稔り豊かな住みよいところ」という意味を持っています。高畠町は、奥羽の山なみ深くに源流をもつ屋代川・和田川の扇状地に拓けた稔り豊かな美しい町です。山々や丘陵には、貴重な古墳や洞窟岩陰群が点在し、東北の高天原といわれるほどです。秋には、黄金色の稲穂が頭を垂れ、ぶどう、りんご、梨が熟し、まさに「まほろばの里」と呼ぶにふさわしいところです。



令和7年度に改訂した高畠町防災マップにも継続して掲載しました。

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

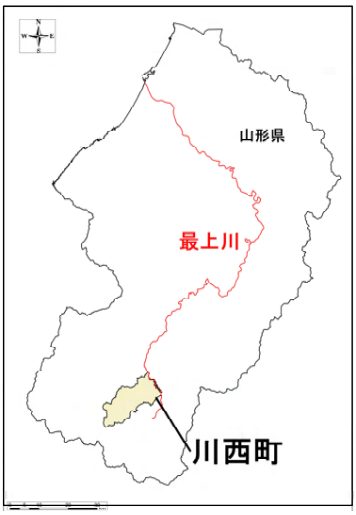
過去の災害を見える化した防災マップの作成

概要

高畠町では、令和元年台風19号時の内水危険個所をワークショップ実施により洗い出し、令和2年度に作成した防災マップに表示しました。
災害の記憶を見える形で記録し、避難経路の危険個所を表示することで、避難時の安全と早期の避難を促しています。

今後の展望

令和7年度に改訂する防災マップにも継続して表示し、水害発生の都度、地域住民と共に実際の被害状況を検証し、メンテナンスを行います。危険個所を振り返ることで、自分事として災害に備える重要性の再認識につなげていきます。

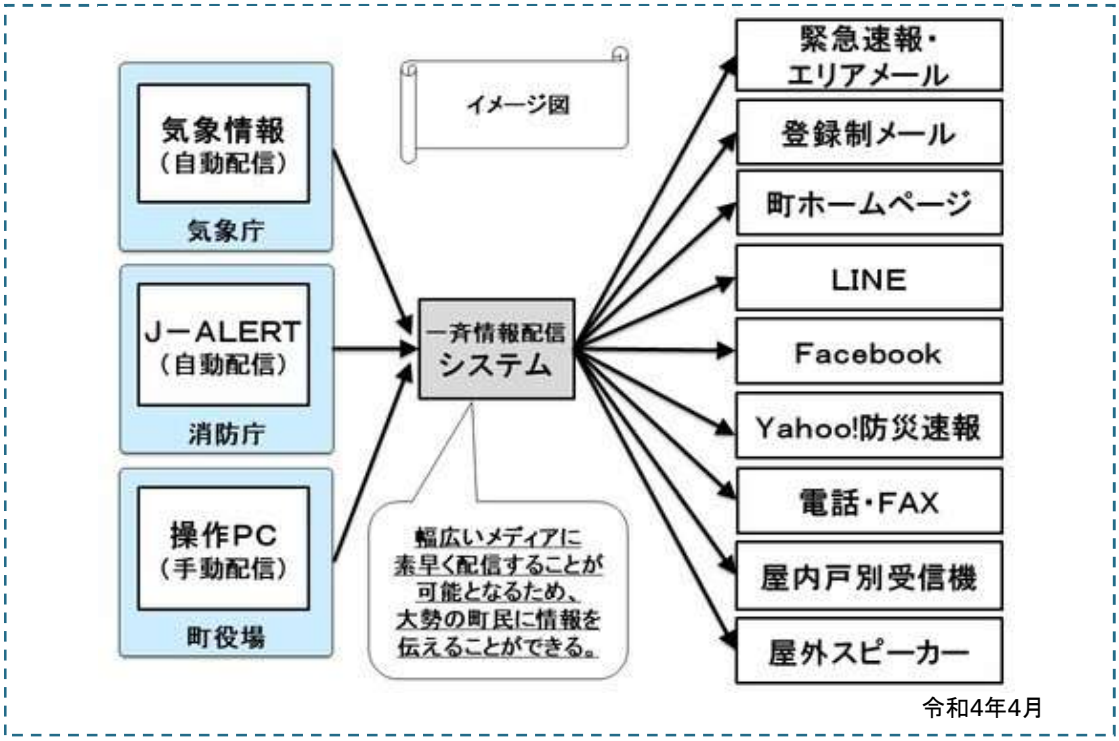


川西町の概要

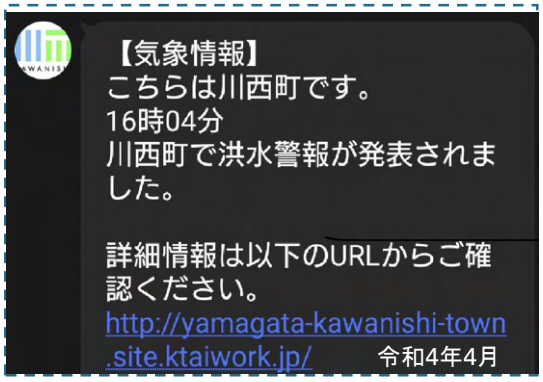
置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、9月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

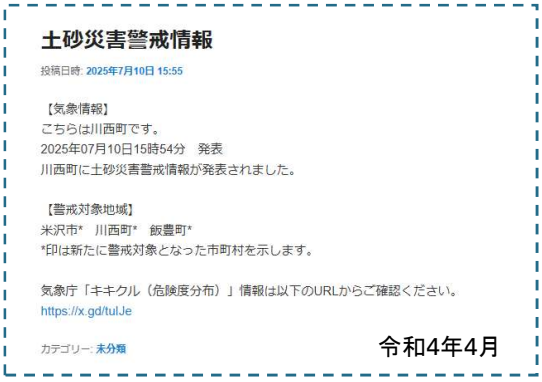
また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。



一斉情報配信システムの運用イメージ



町公式LINEへの配信文面



町ホームページへの配信文面

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

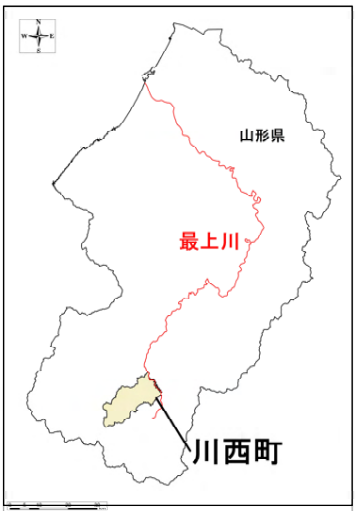
一斉情報配信システムの導入とLINE登録促進

概要

一斉情報配信システムを導入し、緊急性の高い情報（Ｊアラート、エリアメール）の連携とともに、登録制メールや戸別受信機をはじめとした様々な媒体に情報配信を行っています。現在は特に町公式LINEへの登録を進めています。

今後の展望

情報の配信について、配信媒体の特徴を生かしながら、継続して実施していきます。その中でも防災無線でカバーできるエリアに限界があるため、特に利用者が多いと見込まれる町公式LINEの登録を促すような取り組みを行っていきます。



川西町の概要

置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、9月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

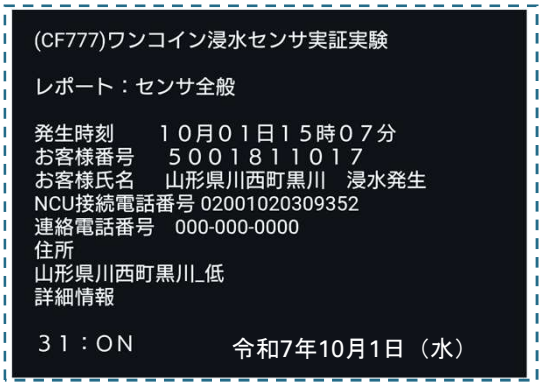
また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。



設置したワンコイン浸水センサ（ＮＴＴ製、設置業者：㈱テイデイイー）



小型消防ポンプを活用した中継送水訓練
（逃し弁付中継媒介金具を使用）



浸水に反応したセンサから送信されるレポート受信画面

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

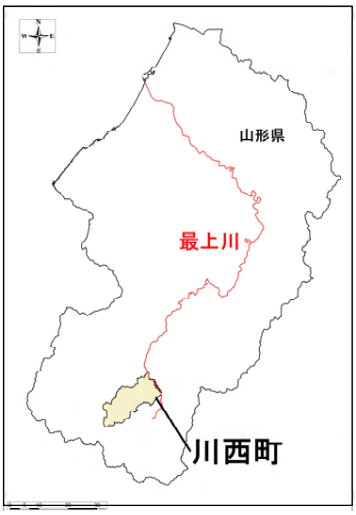
ワンコイン浸水センサ設置と監視強化

概要

国・県設置のカメラに加え、ワンコイン浸水センサ（京セラ製２１基、ＮＴＴ製７基）を町内２８か所に設置し監視を続けています。設置個所は、令和４年８月３日からの大雨災害で被災した箇所を選定しています。

今後の展望

国県の水位計等は引き続き活用し、警報発令等の注視すべき状況において判断要因のひとつとしています。ワンコイン浸水センサは、現在の設置高さが水害の実績を基にした高さであるため、設置の高さや設置個所を変更することで浸水データを集積し、内水氾濫の広がりについて検証していきます。



川西町の概要

置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、9月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。



配備した戸別受信機（左：専用戸別受信機　右：同報系防災無線戸別受信機）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

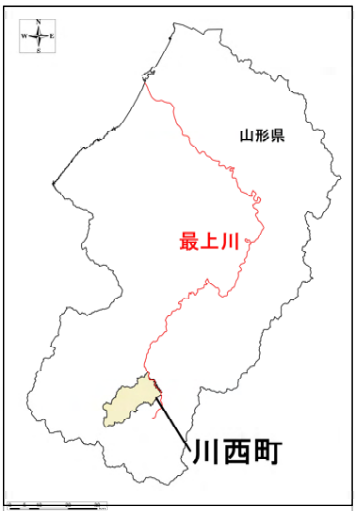
災害時連携体制の見直しと戸別受信機の配備

概要

情報発信の手法のひとつとして、戸別受信機（SIMを内蔵した専用受信機と、防災無線を受け取って鳴動する防災無線戸別受信機の2種）を町内施設や公共施設に配備し、有事の際の情報伝達及び連携体制を整備しています。

今後の展望

戸別受信機を配備することで情報を伝達する手法は確立しましたが、医療機関等との綿密な連携体制が確立されておらず、有事の際に混乱する可能性があります。より効果的で効率の良い情報発信の検討を進めると共に、連携体制の見直しを進めます。



川西町の概要

置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、9月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。

福島・宮城・山形
広域圏災害時相互応援協定書

（趣旨）

第１条　この協定は、福島地方広域行政圏（福島地方拠点都市地域）、仙南地域広域行政圏、相馬地方広域市町村圏、亘理・名取広域行政圏及び置賜広域行政圏で構成する市町村において災害が発生し、被災した市町村（以下「被災市町村」という。）独自では十分な応急措置ができない場合に、災害対策基本法第６７条第１項の規定に基づき、広域圏内において物資等の相互応援に関し必要な事項について定めるものとする。

（広域圏連絡調整市町村）

第２条　応援事務を迅速かつ円滑に遂行し、かつ各広域圏間並びに広域圏内構成市町村との総合調整等を行なうため、各広域圏に連絡調整市町村をあらかじめ定めておくものとする。

（連絡責任者）

第３条　応援に関する責任者として、各広域圏の構成市町村に連絡責任者を置く。

（応援の種類）

第４条　応援の種類は次に掲げるものとする。

(1)食糧、飲料水及び日用品などの生活必需物資の提供
(2)応急対策及び復旧に必要な物資、資機材等の提供
(3)応急対策及び復旧に必要な職員の派遣
(4)避難者の一時収容のための施設の提供及び避難者の受け入れ
(5)その他前４号に掲げるもののほか、特に要請のあった事項

平成25年12月1日

福島・宮城・山形広域圏災害時相互応援協定書

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

広域連携協定の締結と相互支援体制の維持

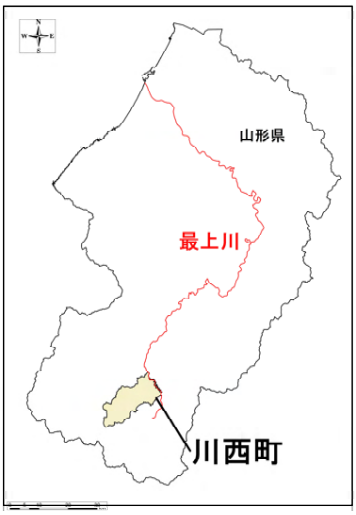
概要

大規模水害発生時に備えて、平成25年12月1日に、福島地方、仙南地方、相馬地方、亘理・名取地方、置賜地方の５広域圏構成４４市町村において、災害が発生した際広域圏内において物資等の相互応援を実施するための広域連携協定を締結し、有事に備えています。

今後の展望

年度当初に担当市町村が、各市町村の担当者の変更等を確認しています。引き続き本協定を継続し水害時に備えます。また、協定が有効であることを維持するため、定期的に実践的な合同訓練の実施について、連携市町村間で共有し検討します。

川西町



川西町の概要

置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、９月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。



小型消防ポンプを活用した中継送水訓練
（逃し弁付中継媒介金具を使用、令和７年度水防工法講習会時）



土のう拵え訓練
（令和５年度水防工法講習会時）



排水ポンプの操作訓練
（令和6年度水防工法講習会時）

洪水氾濫による被害の軽減対策、避難時間の確保のための水防活動の強化

水防工法講習会の実施

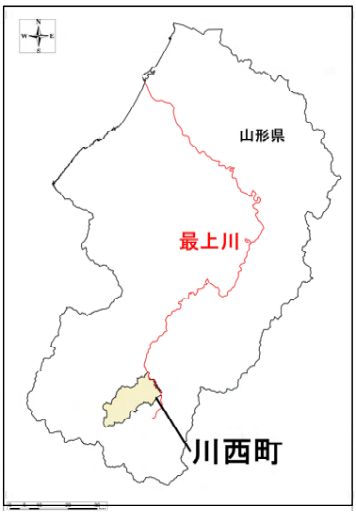
概要

毎年出水期を迎える６月に、水防団と消防署の協力のもと、水防に関わる実務の講習会を実施しています。令和５年度は主として改良積み土のう工法を、令和６年度は新規配備した排水ポンプの操作訓練を、令和７年度は小型消防ポンプによる中継送水訓練などを実施しています。

今後の展望

水害時に求められる水防活動は多岐に渡るため、年度ごとに内容を変えて実施する必要もあると考えます。基本的な工法は継続して訓練を重ねていくとともに、災害状況に対応できる工法については過去の事例や他市町村の事例を参考にしながら訓練のメニューに取り込んでいきます。

川西町



川西町の概要

置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、9月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。



演習に臨む水防団員（消防団、令和７年度春季消防演習時）

洪水氾濫による被害の軽減対策、避難時間の確保のための水防活動の強化

水防団体の募集と組織体制維持

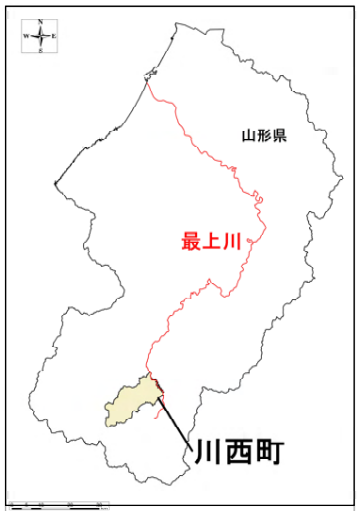
概要

昨今の消防団員数の減少に伴い、複数年かけて部班の統合を実施し、令和7年4月1日現在で、27部37班体制となっています。水防団員（消防団員）数は、同日で団長以下総員４２２名です。団長指揮のもと、副団長２名、分団長７名、副分団長８名、団員４０４名の体制となっています。

今後の展望

部班の統合も終わり、現体制を維持していきます。一方人員不足が深刻であり、新入団員数よりも退団者数の方が多く、ここ数年団員の減少を抑えることができていません。出水時の出動体制が整わない場合があるため、新入団員を増やす取り組みを研究し解決策を模索していきます。

川西町



川西町の概要

置賜盆地の中央に位置する川西町。明治初期、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが町内に滞在した際、『アジアのアルカディア（桃源郷）』と賞賛した、長閑な山村集落です。

日本最大規模のダリアの花公園「川西ダリヤ園」は、9月中旬から10月にかけて見頃を迎え、約10万本の花々が咲きります。（ダリアは町の花で、町内では昔から「ダリヤ」と呼んでいます。）

また、劇作家「井上ひさし」生誕の地であり、同氏から寄贈された蔵書は「遅筆堂文庫」に収められています。



排水ポンプの操作訓練（令和6年度水防工法講習会時）



小型消防ポンプを活用した中継送水訓練
（逃し弁付中継媒介金具を使用）



備蓄している土のう

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

水防団向け排水ポンプ貸与と土のう備蓄

概要

令和５年度に町で排水ポンプを２台購入し、令和６年度の水防工法講習会で水防団に対し排水ポンプを２台貸与し、操作訓練を行いながら運用を依頼しています。また水防団の管轄部署毎に土のうを事前に作成し、水防倉庫をはじめ町内各所に備蓄しています。

今後の展望

近年特に水害の発生確率が大幅に上がっているため、有事に備えた訓練と備蓄を今後も継続していきます。水防活動にあたっての水防団員への装備品が不足している状況から、補助金を活用し資機材の拡充を図っていきます。

小国町



小国町の概要

小国町は、飯豊･朝日両連峰に抱かれ、737.56㎢という広大な町土を有しています。その約90%には、ブナなどを中心とした広葉樹林が広がっており、美しい四季のうつろいを見せてくれます。

また、全国有数の豪雪地帯であり、降り積もった雪が、多様な生命を育む源泉となっています。

町を象徴する二つの素材である「ブナ」と「雪」から共通してイメージできる「白」を基に、町全体を「白い森」と表現しています。そして、先人たちがブナの森の限りない恵みを受けながら築いてきた生活文化を受け継ぎ、自然と人間の新しい共生のあり方を世界に向けて発信していくためのまちづくりに取り組んでいます。



更新した防災マップ



水防訓練の実施



総合防災訓練における降雨体験

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

浸水想定区域を見直した防災マップの配布

概要

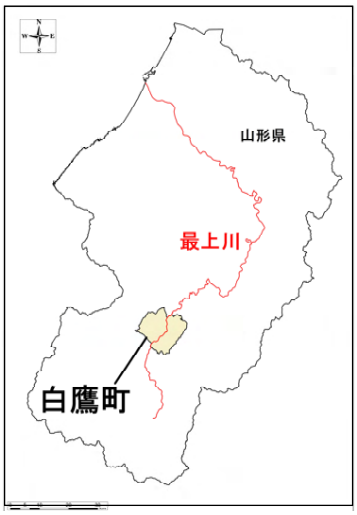
浸水想定区域等を見直した防災マップを令和３年７月に作成し、全世帯、避難所等に配布しています。

また、住民説明会、浸水想定区域内で総合防災訓練を行い、水防訓練や降雨体験車による降雨体験をする機会を設け、住民の防災意識向上を図りました。

今後の展望

令和８年度には中小河川の洪水浸水想定区域、新たな土砂災害が発生する恐れのある箇所等を加えた防災マップを作成、配布し、住民の防災意識の高揚を図る予定です。防災マップを活用して、より多くの住民、特に若い世代や民間企業の防災意識の向上を図ります。

白鷹町



白鷹町の概要

山形県南部に位置する白鷹町は、日本一の紅花の産地として知られております。町の中央を最上川が流れており、江戸時代に通船を妨げていた黒滝を開削したことで舟運が可能となり、人の往来や京文化の流入が活発になりました。

また、最上川に架かる『最上川橋梁』は、明治20年に東海道線に架設された橋梁を、大正12年に移設したもので あり、一世紀を超えても「フラワー長井線」が走る、現役の鉄道橋として使用されており、歴史的にも構造的にも貴重な近代土木遺産として親しまれています。



令和7年9月30日（火）

個別避難計画に基づき、確実な避難行動につなげる防災教室。



町防災訓練での要支援者避難訓練。



防災マップを作成し、避難経路等を確認。

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

誰ひとり取り残さない防災

概要

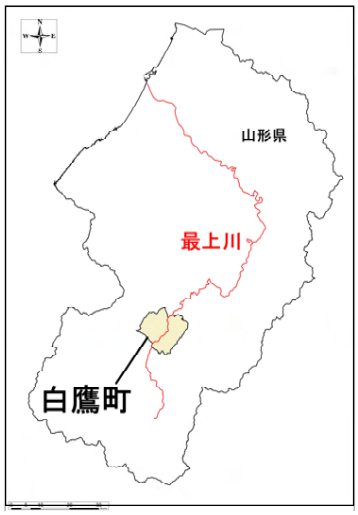
白鷹町では、個別避難計画をより実効性のある計画にするため、地域ぐるみで計画の策定を行っており、自主防災組織、民生委員・児童委員、必要に応じて福祉事業所にも参加いただき作成しています。作成にあたっては、ケアマネジャーとも連携し、福祉避難所への直接避難や親戚知人宅等への避難を選択肢とする等、指定避難所のみならず本人の希望する避難先を明確にしています。

今後の展望

個別避難計画の作成済であっても、要支援者、支援者に早期避難、自助・共助の意識がなければ迅速で安全な避難に繋げることは困難です。最終目的は、全ての町民が安全に避難できることであり、そのためには自主防災組織や関連団体への防災講座等の機会を捉えて、地域全体の防災意識の醸成を進め、確実な避難行動につなげていきます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

白鷹町



白鷹町の概要

山形県南部に位置する白鷹町は、日本一の紅花の産地として知られております。町の中央を最上川が流れており、江戸時代に通船を妨げていた黒滝を開削したことで舟運が可能となり、人の往来や京文化の流入が活発になりました。

また、最上川に架かる『最上川橋梁』は、明治20年に東海道線に架設された橋梁を、大正12年に移設したものであり、一世紀を超えても「フラワー長井線」が走る、現役の鉄道橋として使用されており、歴史的にも構造的にも貴重な近代土木遺産として親しまれています。



主に小学生を対象としたサマーキャンプ「BOUSAIとぼうけんの一夜」にて、防災講話のほか、いざという時に役立つロープワーク講習を実施。



小学４年生を対象とした防災教育。



防災マップを作成し、避難経路等を確認。

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

地区防災計画策定を促進する防災教育

概要

白鷹町では、各地区自主防災組織や消防団等の関係機関と連携し、自分の住む地域の特性や災害時の避難経路の確認するため、防災マップの作成を進めています。

また、防災教育を学校教育の中に位置づけ、令和５年度より小学校での防災講話や、屋外活動の機会を捉え、自身の安全を守る力の育成も進めています。

今後の展望

地域内の連携強化や、自らの判断で避難行動をとること及び早期避難の重要性への理解を深めるため、自主防災組織や小中学校の児童生徒と幅広い世代への防災意識の普及を図るとともに、地区防災計画や防災マップの作成を支援し、地域防災力を向上させる取り組みを推進していきます。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

飯豊町



飯豊町の概要

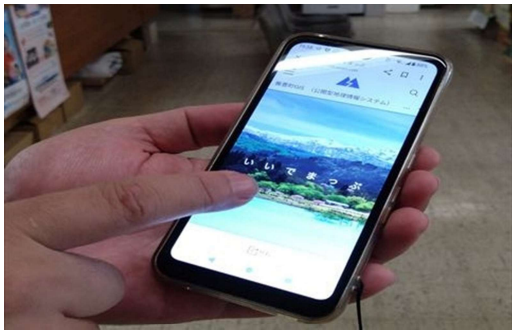
飯豊町は、山形県の南西部に位置し、東は米沢市および川西町、西は小国町、南は福島県喜多方市、北は長井市にそれぞれ隣接しています。

町の北東部は、白川の水と肥沃な耕地を利用した農業地帯で良質米を生産し、丘陵地は米沢牛の産地でもあります。町の南部は飯豊連峰に連なる山岳で覆われています。

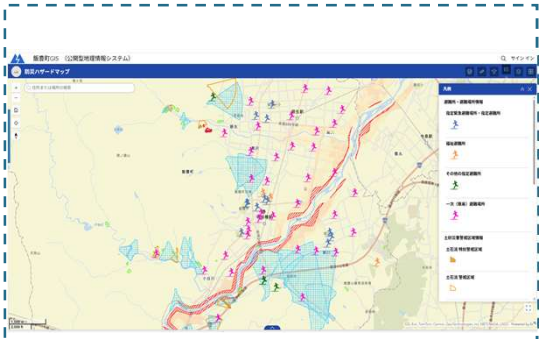
JR米坂線と国道113号が東西に走っていて、仙台と新潟を結ぶ内陸横断ルートのほぼ中間地点となっており、交通の要衝となっています。本町はNPO法人「日本で最も美しい村」に加盟し日本の農山村の景観や環境・文化を守る活動に取り組んでいます。



令和４年８月３日の大雨浸水マップ



令和7年度より公開を開始した地理情報システム「いいでまっぷ」



「いいでまっぷ」防災ハザードマップ画面

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

住民主体の取組強化よる防災意識の高い社会づくり

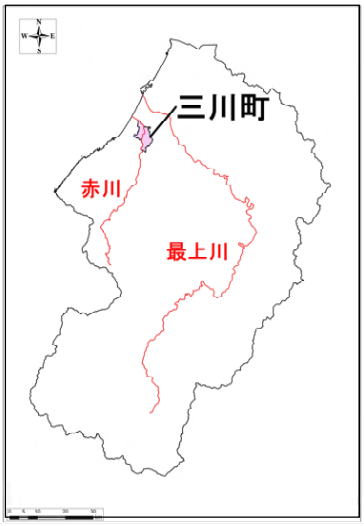
概要

令和４年８月３日の大雨の経験を踏まえ、関係者へ聞き取りを行いながら浸水マップを作成しました。これは、住民が「自分の命は自分で守る」意識を持って避難行動を取り、行政はそれを全力で支援することが防災意識の高い社会づくりにつながるものと考えているからです。危険箇所や避難経路の確認や判断材料となるよう町のホームページから閲覧できるよう情報の多様化にも努めています。

今後の展望

山形県自主防災アドバイザーや町職員による出前講座を実施しながら、自主防災組織や地域住民へ防災知識の普及に取り組んでいきます。また、災害発生直後の混乱を回避させ、地域住民が安全に避難が行えるよう職員研修を重ねていきます。

三川町



三川町の概要

三川町は山形県の北西部に位置し、町の中央を縦貫するように一級河川「赤川」が流れています。

町の名前は町内を流れる3つの河川（赤川、大山川、藤島川）に由来しており、町の総面積の約7割を田畑が占める平坦で肥沃な地勢を形成しています。

三川町かわまちづくりでは、自然あふれる赤川の川辺を体験できるカヌーコースや、山形の秋の風物である芋煮会を気軽に楽しめる広場などを整備し、水辺空間を地域の憩いと交流の場として活用しています。



水防団による点検、出動時の対応確認の様子

発災時に人命と財産を守る水防活動の強化の取組

『水防団』による内水氾濫発生予想箇所の点検

概要

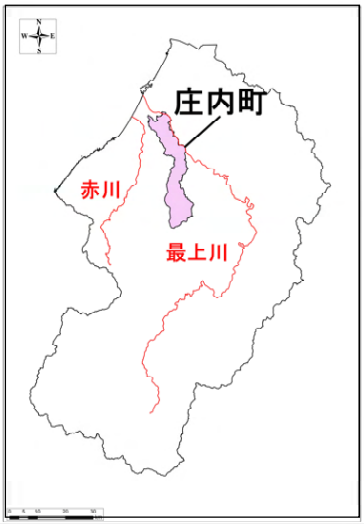
三川町では、毎年のように最上川水系藤島川の水位上昇により内水氾濫が発生し、都度、水防団が出動していました。このため山形県県営事業により、平成３０年度から内水氾濫が発生した２箇所において排水対策工事を進めてきました。このうち１箇所は平成３０年６月に工事を完了し、残る１箇所についても令和７年３月に竣工しました。また、不測の事態に備え、出水期の水防団幹部による水防活動予定箇所の点検と、出動時の作業手順の確認を適宜行っています。

今後の展望

自分たちの地域は自分たちで守るという水防団の理念に基づき、引き続き、水防団幹部による水防活動予定箇所の点検と、出動時の作業手順の確認を適宜行っていきます。

最上川流域治水協議会・赤川流域治水協議会
最上川下流・赤川大規模氾濫時の減災対策協議会

庄内町



庄内町の概要

庄内町は山形県の北西部に位置し、町の北部を山形県を代表する母なる川「最上川」が、町の東側を月山を源とする清流「立谷沢川」が流れ、豊かな水資源に恵まれています。

庄内町には、最上川舟運の中継拠点として栄えた清川地区や、江戸期に築かれた北楯大堰が現存し、広大な原野を水田へ変えた水利事業の歴史を今に伝えています。

こうした施設は今も農業を支え、最上川とともに歩んだ水の文化が息づき、町の暮らしと産業の基盤となっています。



自主防災組織連絡協議会の様子

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーションの取組

『共助』を担う方々を対象とした研修会

概要

庄内町では、「自助」・「共助」・「公助」の取り組みをそれぞれ学び、災害発生時の活動の一助となるように研修会を開催しました。自主防災組織、民生児童委員、地域運営組織などの「共助」を担う方々を対象として研修会を実施し、避難所の開設・運営について学びました。

また、庄内警察署・酒田地区広域行政組合消防本部と共同で災害対応図上訓練を初めて実施し、改めて災害時の対応を確認いたしました。

今後の展望

引き続き各自主防災会の防災訓練等での町職員（防災指導員）による講習会を開催する。また、防災士の資格取得を支援して、自主防災会の活動を担う人材の育成にも力を入れていく。あわせて住民向け防災講座を開催し、住民の防災意識の醸成に努めます。また、平時からの連携を強化していくために関係機関との情報共有に努めます。

遊佐町



遊佐町の概要

遊佐町は山形県の北部に位置し秋田県との県境に接する町です。日本百名山の１つである「鳥海山」がそびえ、西は日本海に面しており、多様な自然環境に恵まれています。

遊佐町は「湧水の里」と言われ鳥海山の伏流水を活かし、町中に日本酒の酒造所が2件、ウィスキーの蒸留所が2カ所あります。

町内に2カ所蒸留所があるのは国内でも珍しく、2025.10月には「ウィスキーの町遊佐」を宣言し観光と食を組み合わせたウィスキーツーリズムを進める



消防団幹部を対象とした水防訓練。上記は積土のうを設置している様子




状況に応じた対応ができるよう様々なケースを想定して、手動ポンプ、発電機、車両のシガーライター、車両バッテリーなどの電力を利用しゴムボートに空気を注入している様子

発災時に人命と財産を守る水防活動の強化の取組

遊佐町消防団水防訓練の実施

概要

消防団員の水防技術の向上や知識の共有のために２年に１回消防団の班長以上幹部を対象に水防訓練を実施しています。実施内容は、土のう作成、積土のう工法、ゴムボート訓練です。

積土のう工法訓練の講師は、東北水防技術大会に出場した経験者の消防団員で、同大会で最優秀賞を獲得した経験と技術を他の消防団員に伝えています。また、町内に４艇配備の救助用ゴムボートは非常時に迅速に組み立てられるよう様々なケースを想定して組み立てを行いました。

今後の展望

令和８年５月３１日に酒田市で、最上川下流・赤川総合水防訓練に参加予定であるため、水防技術の向上のため訓練を重ねていきます。消防団幹部対象の水防訓練は今後も継続するとともに、ゴムボート配備班を中心に班単位での訓練を実施し団員の水防技術の底上げを図っていきます。

流域治水プロジェクト
水防災意識社会再構築ビジョン

東北農政局最上川下流左岸農業水利事業所、山形県、最上川土地改良区

MAFF Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

R7 流域治水



事業の必要性

近年の降雨量の増加や土地利用の変化に伴い、排水能力以上の排水が施設に流入し湛水被害が生じています。

また、経年的な施設の劣化により排水機場においてはポンプ設備からの油漏れ、排水路においては、積ブロックが欠損するなど排水機能に支障をきたしているとともに維持管理に多大な労力を要しています。

このため、排水機能の強化により湛水被害の軽減と維持管理の労力の軽減を図ります。



排水機場　位置図



改修した毒蛇排水機場



改修した排水路

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

守る・支える。そして豊かに

概要

排水系統の再編を行うとともに、排水機場及び排水路の改修等を行い、併せて関連事業において排水施設を整備することにより、排水機能の強化による湛水被害の軽減と維持管理の労力の軽減を図り、農業生産性の維持向上及び農業経営の安定に資する。

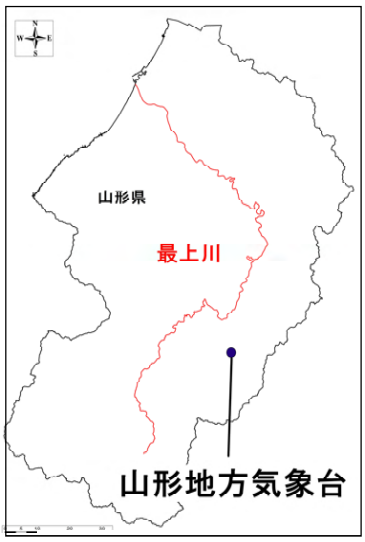
今後の展望

全体の事業量は排水機場１１箇所、排水路（承水路）１式、放水路１式、水管理施設１式の改修等を予定しています。

地区内で取り組む「田んぼダム」と連携し、農業水利施設を整備・維持管理することにより、内水氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策とした流域治水を推進します。

最上川流域治水協議会

山形地方気象台



山形地方気象台の概要

明治22（1889）年7月1日に県庁（現：文翔館）構内で県営の山形県山形測候所として設立され、その後市内の移転が3回あり、明治43年6月23日からは現在地にて業務を行っています。

昭和14年11月1日には国に移管され、設立以来130年を越える歳月の気象や地震の観測データを蓄積しております。

当ホームページに県内各気象観測所のデータとともに、掲載しております。



防災担当者対象「気象防災ワークショップ」（山形県と共催）

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

防災対応力の向上を目指す『気象防災ワークショップ』

概要

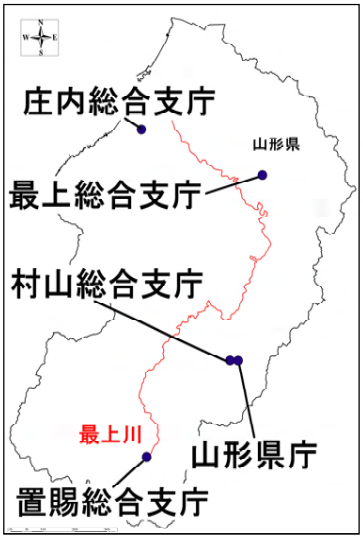
各種の防災気象情報を適切に理解し、有効に活用するとともに、体制の強化や避難情報の発令のタイミングなどに関する検討を行い、判断のポイントを学んでいただくことによって防災対応力の向上を目指す『気象防災ワークショップ』を実施しています。

また、防災知識の普及・啓発をわかりやすくかつ効率的に広く普及するため、住民等を対象とした出前講座や講演会、リーフレットやDVDの作成・配布など、普及啓発活動に取り組んでいます。

今後の展望

令和8年出水期の運用開始を目指し、住民の避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合した新しい防災気象情報や、現在の気象情報を気象防災速報と気象解説情報に分類し、気象情報の構造化・高度化を計画しており、気象解説の充実・強化を盛り込んだ『気象防災ワークショップ』等を開催していきます。

山形県



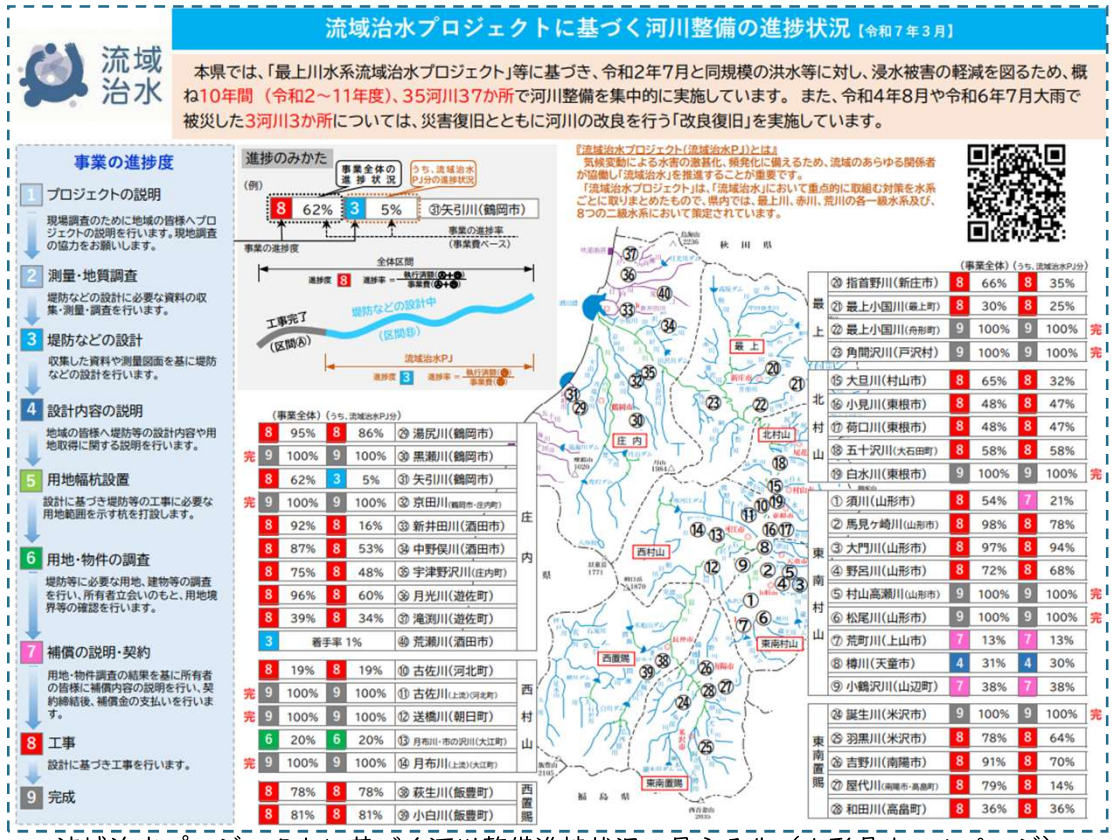
山形県の概要

山形県は全国生産量の７割を占める「サクランボ」と鮮やかな四季を感じることができる県です。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

【観光】
山寺、銀山温泉、蔵王温泉
加茂水族館　など

【郷土料理】
芋煮、どんがら汁、だし、玉こんにゃく、ご当地ラーメン、そば　など



流域治水プロジェクトに基づく河川整備進捗状況の見える化（山形県ホームページ）



白水川（東根市：令和５年度完了）



和田川（高畠町：整備中）

洪水を河川内で安全に流す対策

浸水被害軽減に向けた集中的な河川整備

概要

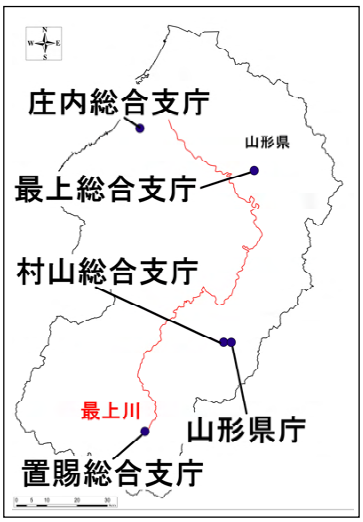
山形県では、令和２年７月と同規模の洪水等に対し、浸水被害の軽減を図るため、概ね10年間（令和２～１１年度）、３５河川３７か所で河川整備を集中的に実施しております。また令和４年８月や令和６年７月の大雨で被災した３河川３か所は災害復旧と併せて改良を行う改良復旧を実施しています。

その進捗状況をホームページにて公表することで、見える化を行っています。

今後の展望

令和７年３月末時点で４０か所のうち１１か所で事業が完成しています。
残りの箇所についても早期の完成を目指し事業を推し進めていきます。

山形県



山形県の概要

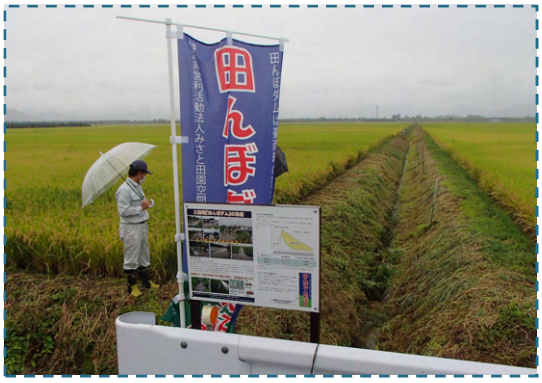
山形県は全国生産量の７割を占める「サクランボ」と鮮やかな四季を感じことができる県です。
蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。
【観光】
山寺、銀山温泉、蔵王温泉
加茂水族館　など
【郷土料理】
芋煮、どんがら汁、だし、玉こんにゃく、ご当地ラーメン、そば　など



既存の排水マスに調整板を設置することで、水田の雨水貯留機能の強化を図る



水田の排水口に調整板を設置



田んぼダムの取組について推進するため、看板やのぼり旗を設置

洪水を河川内で安全に流す対策

田んぼダムの推進について

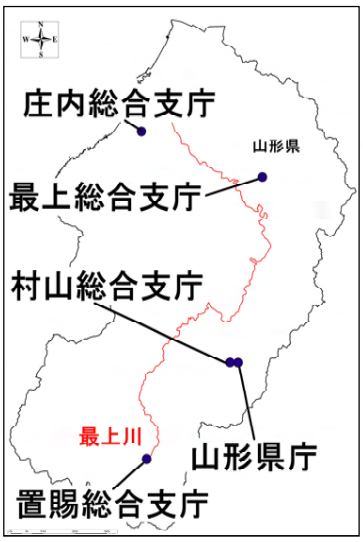
概要

山形県では、水田の雨水貯留機能を活用し洪水の流出時間を遅らせる「田んぼダム」を推進しています。令和4年度より「山形県田んぼダム推進情報連絡会」を設立し、田んぼダムの推進に係る情報共有や課題等の検討を行っています。

今後の展望

営農と防災対策の両立を図りながら広域的な取組とするため、「山形県田んぼダム推進事業」の実証試験から得られた水田貯留効果や営農への影響について関係者で共有するとともに、田んぼダムの条件整備や多面的機能支払活動組織による取組を支援し、普及拡大を推進していきます。

山形県



山形県の概要

山形県は全国生産量の７割を占める「サクランボ」と鮮やかな四季を感じることができる県です。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

【観光】
山寺、銀山温泉、蔵王温泉
加茂水族館　など

【郷土料理】
芋煮、どんがら汁、だし、玉こんにゃく、ご当地ラーメン、そば　など



水害に関する防災学習として出前講座を開催（最上町）



土砂災害に関する出前講座を開催



各種イベントへのパネル展示

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

災害に関する意識啓発による地域防災力の強化

概要

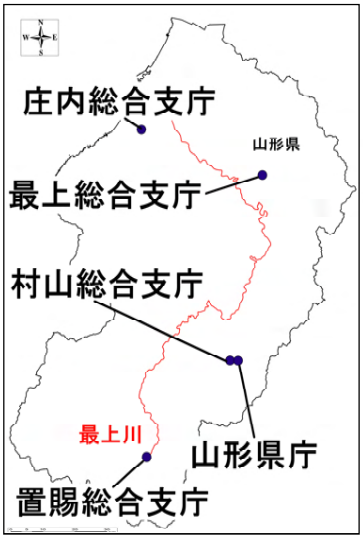
山形県では、水害や土砂災害に関する意識啓発のため、小学校や事業所等へ職員が訪問し防災の講義を行う出前講座を実施しています。また、各種イベントで防災に関するパネル展示等を行っています。

これら取組により学んでいただいた知識が地域全体に広がり、防災力の向上につながることを期待しています。

今後の展望

引き続き、防災意識向上に関する取組を実施するとともに、避難行動の実効性を強化する取組となるよう内容の充実を図っていきます。

山形県



山形県の概要

山形県は全国生産量の７割を占める「サクランボ」と鮮やかな四季を感じることができる県です。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

【観光】
山寺、銀山温泉、蔵王温泉
加茂水族館　など

【郷土料理】
芋煮、どんがら汁、だし、玉こんにゃく、ご当地ラーメン、そば　など



山形県河川・砂防情報システムによる雨量・水位情報、河川状況等の提供



簡易型河川監視カメラの映像配信



危機管理型水位計の設置

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

避難判断に資する雨量・河川水位等の情報発信

概要

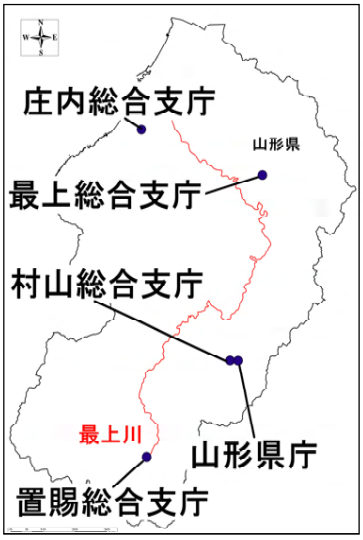
山形県では、「河川・砂防情報システム」の運用を行っており、雨量・水位情報及び河川状況、土砂災害警戒情報等をリアルタイムでインターネットにより提供しています。また、メールによる情報配信サービスも行っているほか、スマートフォンに対応したサイトも構築しています。

「簡易型監視カメラ」や「危機管理型水位計」の情報は国土交通省の「川の防災情報」から確認できます。

今後の展望

「河川・砂防情報システム」で提供している情報は、避難判断に直結する重要なものであることから、引き続き確実かつ適切な情報提供を行っていきます。

山形県



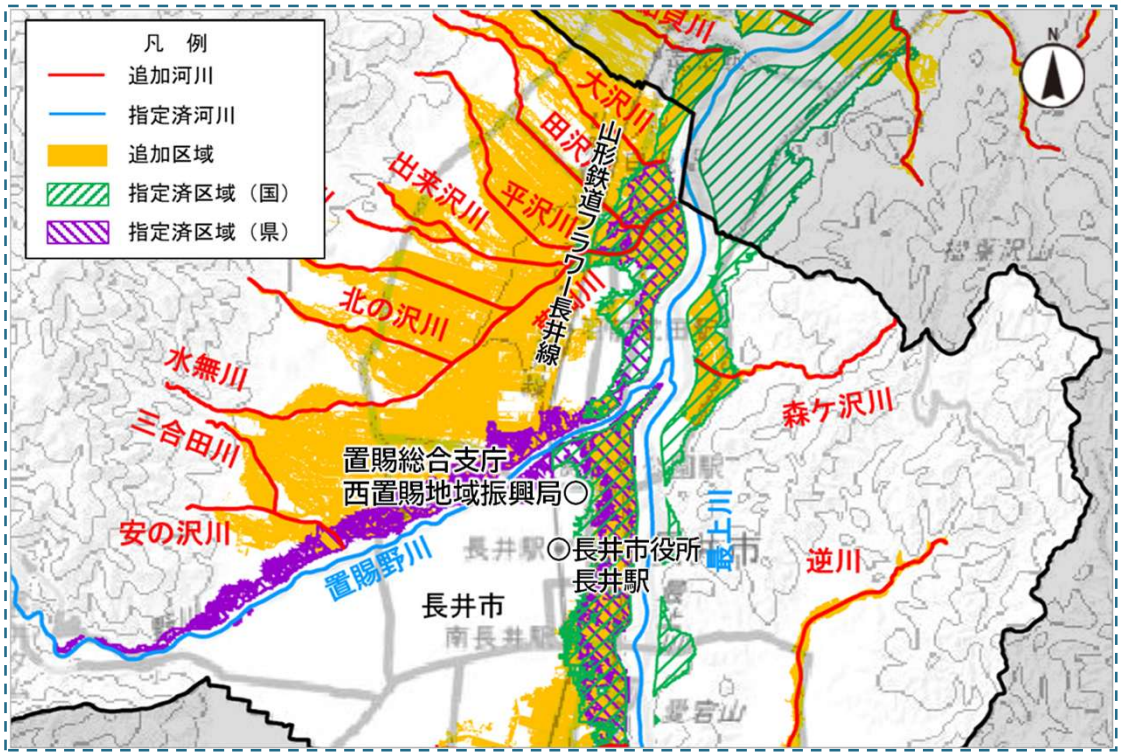
山形県の概要

山形県は全国生産量の７割を占める「サクランボ」と鮮やかな四季を感じることができる県です。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

【観光】
山寺、銀山温泉、蔵王温泉
加茂水族館　など

【郷土料理】
芋煮、どんがら汁、だし、玉こんにゃく、ご当地ラーメン、そば　など



洪水浸水想定区域の追加指定の例（長井市）

R3水防法 改正前	R3水防法 改正後		計
～R1	R6.6.14	R7.5.23	
70河川	127河川 村山地域	357河川 最上地域 置賜地域 庄内地域	554河川

県管理河川の洪水浸水想定区域の指定状況

逃げ遅れゼロに向けた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

洪水浸水想定区域の空白域の解消

概要

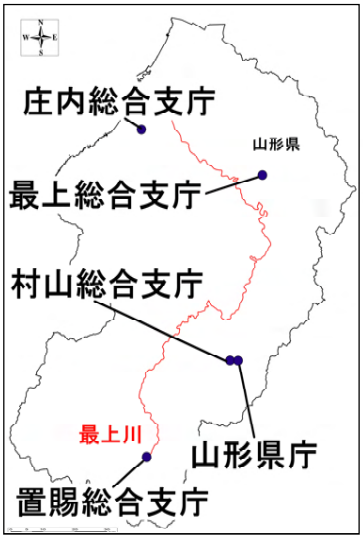
近年、中小河川等で洪水浸水想定区域の指定を行っていない水害リスク情報の空白域で多くの浸水被害が発生していることから、水防法が改正され、山形県が管理する全ての一級・二級河川が洪水浸水想定区域の指定とハザードマップの作成・公表の対象となりました。

県では、令和７年５月２３日までに全ての対象河川の洪水浸水想定区域の指定を完了しました。

今後の展望

県が指定した洪水浸水想定区域に基づき、市町村においてハザードマップの更新が行われることとなりますので、県では市町村に対して必要な技術的支援を行っていきます。

山形県



山形県の概要

山形県は全国生産量の７割を占める「サクランボ」と鮮やかな四季を感じることができる県です。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

【観光】
山寺、銀山温泉、蔵王温泉
加茂水族館　など

【郷土料理】
芋煮、どんがら汁、だし、玉こんにゃく、ご当地ラーメン、そば　など



県・市町村職員、河川維持業務受託者参加による排水ポンプの操作訓練（大旦川：村山市）



排水活動に必要な機器をコンパクトにパッケージ化された可搬式排水ポンプ

一刻も早い生活再建、及び社会経済の回復のための排水活動

被害軽減のため迅速な排水活動に向けた備え

概要

山形県では、浸水被害の軽減を図るため可搬式の排水ポンプを県内７公所に計９台配備しています。県管理河川の氾濫時の排水作業のほか、市町村からの要請による内水の排水や道路管理者、下水道管理者等からの要請による施設機能確保のための排水作業への出動も可能としています。

有事の際に迅速かつ適切な排水活動を行うため、毎年操作訓練を実施しています。

今後の展望

あらかじめ排水作業が必要と考えられる箇所については、ポンプの設置箇所や運搬経路などをとりまとめた「排水計画」を作成していますが、近年の激甚化・頻発化する豪雨に備え、想定箇所を追加し「排水計画」の充実を図っていくとともに、より実務的な訓練の実施を行っていきます。



緊急治水対策プロジェクト

近年の洪水により大規模な浸水被害が生じるなどの激甚な被害を受けた河川について、再度災害防止に向けた緊急治水対策プロジェクトに取り組んでいます。

国、県、関係市町村が連携しつつ、流域治水プロジェクトの一部を加速化・強化し、流域全体でその再度災害防止に向けてハード・ソフト一体となった対策を短期的・集中的に行います。



最上川水系下流・中流・上流緊急治水対策プロジェクトの全体像



R7年度河道掘削の状況（最上川下流）



長島地区の堤防整備

洪水を河川内で安全に流す対策

下流・中流・上流の集中的な河川整備

概要

最上川中流・上流では、令和2年7月豪雨、令和4年8月出水と同規模の洪水に対して浸水被害の防止・軽減を図るため、「緊急治水対策プロジェクト」に基づき、河道掘削や堤防整備等の緊急治水対策を推進しています。

令和6年7月豪雨による浸水被害を踏まえ、新たに「最上川下流・中流緊急治水対策プロジェクト」を作成し、河道掘削や堤防強化等を集中的に実施しています。

今後の展望

浸水被害軽減に向け、引き続き取り組みを継続していきます。

山形河川国道事務所



山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



川の防災情報による雨量・水位情報、河川状況等の提供



簡易型河川監視用カメラ
〈吉野川合流〉



危機管理型水位計
〈河井山〉

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

川の防災情報を活用した避難判断に資する情報の提供

概要

「川の防災情報」は、全国の川の水位や洪水予警報、レーダ雨量、河川カメラ画像など、大雨時に必要となるリアルタイムの川の情報を分かりやすく、見つけやすく提供しています。指定河川洪水予報で発表された基準観測所の6時間先までの予測水位について水位グラフで確認が可能です。

山形河川国道事務所では、従来型の水位計や河川監視カメラのほかに、簡易型河川監視カメラを17箇所、危機管理型水位計を22箇所に設置しており、「川の防災情報」にて情報を提供しています。

今後の展望

引き続き、流域住民の安心安全のため情報提供を行っていきます。

～身近な地点の河川カメラや水位情報に簡単にアクセス～　https://www.river.go.jp



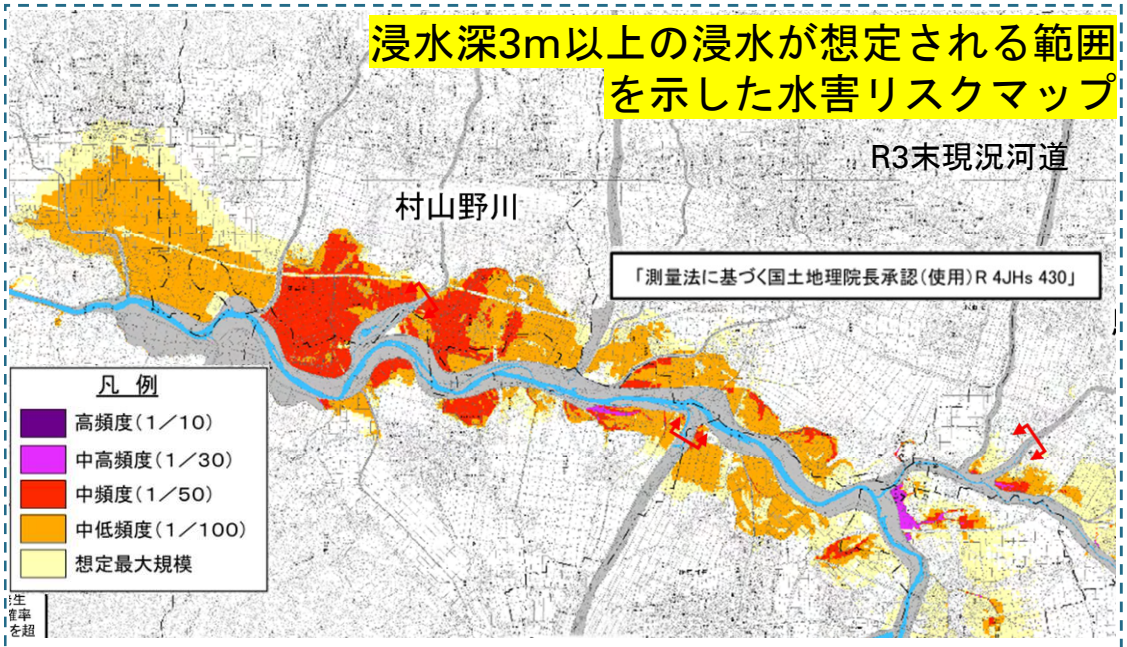
山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

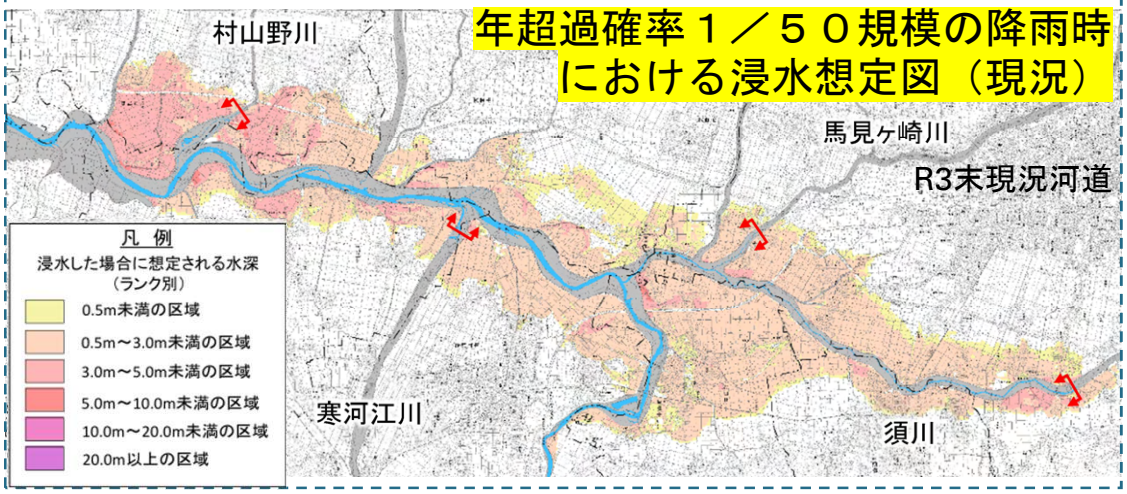
河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



最上川上流水害リスクマップ（上段）・多段階浸水想定図（下段）令和4年11月10日公表



逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

水害リスク情報の充実

概要

山形県内の最上川水系・赤川水系を対象とした「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を令和４年11月に作成し公表しています。「多段階の浸水想定図」とは、年超過確率（１／１０、１／３０、１／５０、等）の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。「水害リスクマップ」は、「多段階の浸水想定図」を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生、浸水深５０㎝以上、浸水深３ｍ以上）を示した図面です。

今後の展望

現在の「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」は、国管理河川の外水氾濫のみを示しています。今後は、内水氾濫も考慮した図を作成していく予定です。

最上川流域治水協議会
最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

山形河川国道事務所



山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



市町村	設置地区
長井市	H18館町南、H30館町南・館町北、R5舟場・屋城町・東町
天童市	H18寺津
南陽市	H21梨郷・砂塚・和田・竹原 H29椚塚・長岡
山辺町	H30三河尻・近江
中山町	H19桜町・梅ヶ枝町・いずみ・あおば
河北町	H20吉野・舞台・荒小屋、H21押切・田井・山王、H29吉野・舞台・荒小屋 R3押切・田井、R4溝延
大江町	H25百目木（L1）、H29百目木（L2）、R3百目木(R2.7実績浸水深)
川西町	H21門の目・東他屋・中の他屋、H22高山

浸水深看板設置の様子（長井市　屋城町地区）と各市町の設置状況

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

まるごとまちごとハザードマップの実施

概要

「まるごとまちごとハザードマップ」とは、その地域の洪水による浸水のリスクや避難に関する情報を生活空間である町中に表示して自然に目に入るようにすることで、日頃から水防災への意識を高めていこうとする取り組みです。山形河川国道事務所では、「まるごとまちごとハザードマップ」の普及に向けた支援を実施しており、令和7年9月時点で長井市、天童市、南陽市、山辺町、中山町、河北町、大江町、川西町に設置しています。

今後の展望

今後も引き続き支援を実施していく予定です。



山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



令和7年8月20日（水）

令和7年度危機管理演習

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

国、県、自治体が連携した危機管理演習

概要

最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会では毎年、災害対応能力の向上を図るため危機管理演習を実施しています。令和7年度は国土交通省、山形県、置賜地域の自治体（防災部局、土木部局、福祉部局等）が連携し、関係機関同士の「顔の見える関係」の強化を図り、関係機関が一体となった災害対応力の向上を目的に、要配慮者利用施設への避難支援に着目したワールドカフェ形式の危機管理演習を実施しました。

今後の展望

来年度も引き続き、関係機関における災害対応能力の向上を図るための危機管理演習を継続していきます。

山形河川国道事務所



山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



防災教育の様子



浸水長靴体験の様子



介護施設における防災教育

逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

災害の危険性を知り、いざという時の行動を学ぶ防災教育の実施

概要

山形河川国道事務所では、小学校や介護施設にて災害の危険性を知り、いざという時の行動を学ぶ防災教育の実施しています。

講座では、座学、水のう作成、水の重さ体験、浸水長靴体験、マイ・タイムライン作成等を行っています。

今後の展望

今後も引き続き防災教育を実施していく予定です。

山形河川国道事務所



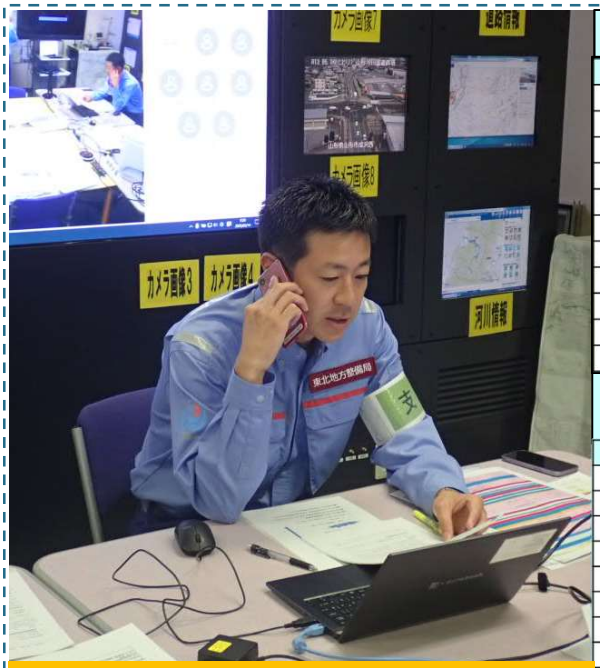
山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



令和７年５月実施　洪水対応演習における
流域市町村長とのホットライン訓練

令和２年７月豪雨時のホットライン状況

市町村名	実施回数	市町村名	実施回数
山形市	3	新庄市	2
寒河江市	5	尾花沢市	2
村山市	4	大石田町	6
天童市	4	戸沢町	2
東根市	3	大蔵村	3
山辺町	4	舟形町	3
中山町	2	真室川町	2
河北町	5	鶴岡市	3
大江町	4	三川町	3
川西町	1		
合計（９市８町２村）			７２回

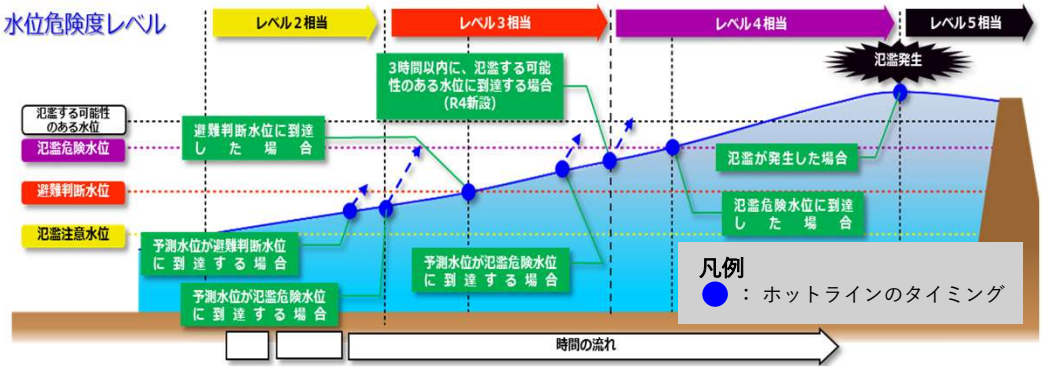
９市８町２村へ
７２回実施

令和４年８月豪雨時のホットライン状況

県内で初の大雨特別警報が発令

市町村名	実施回数	市町村名	実施回数
山形市	2	大江町	2
米沢市	5	高畠町	1
寒河江市	1	川西町	4
村山市	3	小国町	5
長井市	8	白鷹町	5
天童市	1	飯豊町	5
東根市	1		
南陽市	1		
中山町	１０		
河北町	7		
合計（8市8町）			６１回

８市８町へ
６１回実施



逃げ遅れゼロにむけた、迅速かつ的確な避難行動のための取組

首長とのホットラインの構築

概要

大雨で水位が上昇している際には山形地方気象台と連携し、最上川沿線の市町への洪水予警報の発令を行い、堤防決壊、越水等の重大災害が発生する恐れがある場合には、国・県から関係自治体首長に対してホットラインで情報を伝達しています。令和4年8月、県内で初めて大雨特別警報が発令された際には8市8町へ合計61回のホットラインを行いました。

今後の展望

引き続き、流域住民の安心安全のため情報提供を行っていきます。

山形河川国道事務所



山形河川国道事務所の概要

山形河川国道事務所では、一級河川「最上川」の河川事業のほか、国道１３号、４７号、４８号、１１２号、１１３号の５路線と東北中央道の道路事業を行っています。

河川のハード対策だけではなく、住民の逃げ遅れゼロにむけた避難行動を促すためソフト対策を充実させ、更なる「流域治水」を推進していきます。

【具体的なソフト対策】

流域内の自治体と連携し、マイタイムライン講習会、まるごとまちごとハザードマップ推進、危機管理演習・防災教育等を行っています。



排水ポンプ車を用いた排水訓練の様子（長井市）



排水に向けた準備



排水状況

一刻も早い生活再建、及び社会経済の回復のための排水活動

浸水被害に備える排水訓練の実施

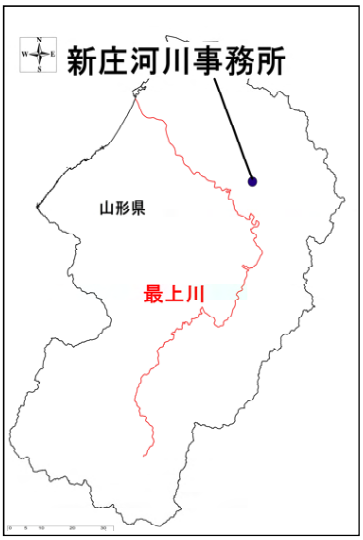
概要

一刻も早い生活再建及び社会経済の回復を目指すため、排水訓練を定期的に実施しています。本訓練では、排水ポンプ車を使用し、浸水地域の水を吸い上げ、河川へ排水するための送排水ルートの迅速な確保、ポンプの設置、実際の排水作業といった一連の流れを確認しています。

今後の展望

洪水時に迅速かつ確実な排水作業を実施できるよう、平常時から定期的な訓練を引き続き実施していく予定です。

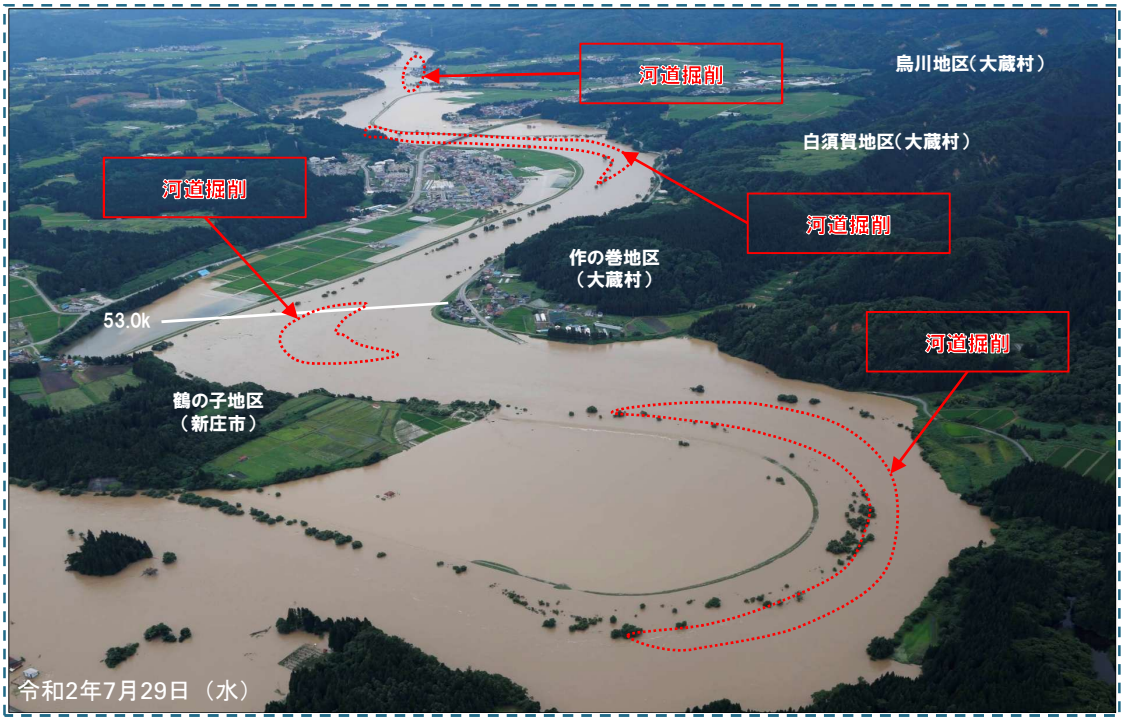
新庄河川事務所



新庄河川事務所の概要

新庄河川事務所では、洪水による浸水被害を軽減するため、河道掘削等の河川改修事業および土砂の発生や流出を抑制するため、直轄砂防事業を行っています。

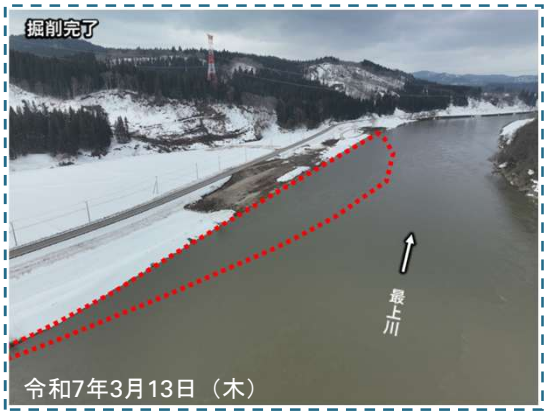
また、土砂防災学習教室やマイ・タイムライン作成支援などのソフト面からの対策も行っています。



最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト(R2.7出水)



最上川中流堀内地区河道掘削工事（着手前）



最上川中流堀内地区河道掘削工事（完了）

「住民が自発的に考え自ら行動する」「行政機関等が住民の暮らしと生命を守るために動く」取組

緊急治水対策プロジェクトに基づく治水対策

概要

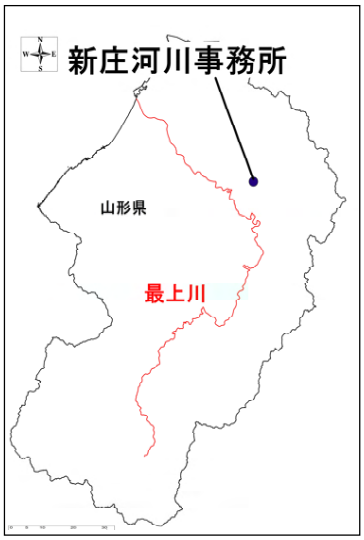
最上川流域で、令和2年7月豪雨、令和6年7月豪雨により甚大な被害が発生したことを踏まえ、国、県、沿川市町村等が連携した「緊急治水対策プロジェクト」に基づき、当事務所では同規模の洪水に対して浸水被害の軽減を目的に河道掘削や堤防整備、災害復旧等の治水対策を集中的に実施しています。

今後の展望

引き続き、2つの「緊急治水対策プロジェクト」に基づき、河川整備事業を進めます。

最上川流域治水協議会
最上川下流・赤川大規模氾濫時の減災対策協議会

新庄河川事務所



新庄河川事務所の概要

新庄河川事務所では、洪水による浸水被害を軽減するため、河道掘削等の河川改修事業および土砂の発生や流出を抑制するため、直轄砂防事業を行っています。

また、土砂防災学習教室やマイ・タイムライン作成支援などのソフト面からの対策も行っています。



防災学習教室で砂防堰堤を説明している様子



防災学習教室（マイタイムラインづくり）



土砂災害模型を使った砂防堰堤の説明

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

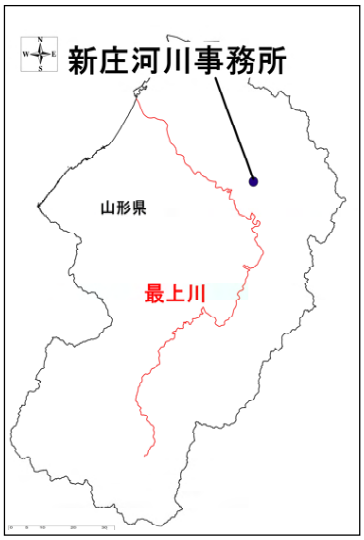
大規模災害におけるソフト面での対策

概要

新庄河川事務所では防災学習教室などのソフト面でも大規模災害における対策を行っています。今年度も小、中学校の授業の一環で、土砂災害防災学習教室（現場見学・ワークショップ）が行われ、砂防堰堤の役割などを模型を使って学んだり、マイタイムライン（一人ひとりの避難行動計画）を作成し、発表することで災害が起きた際の自らの避難行動について考える機会を持つことなどに取り組んでいます。

今後の展望

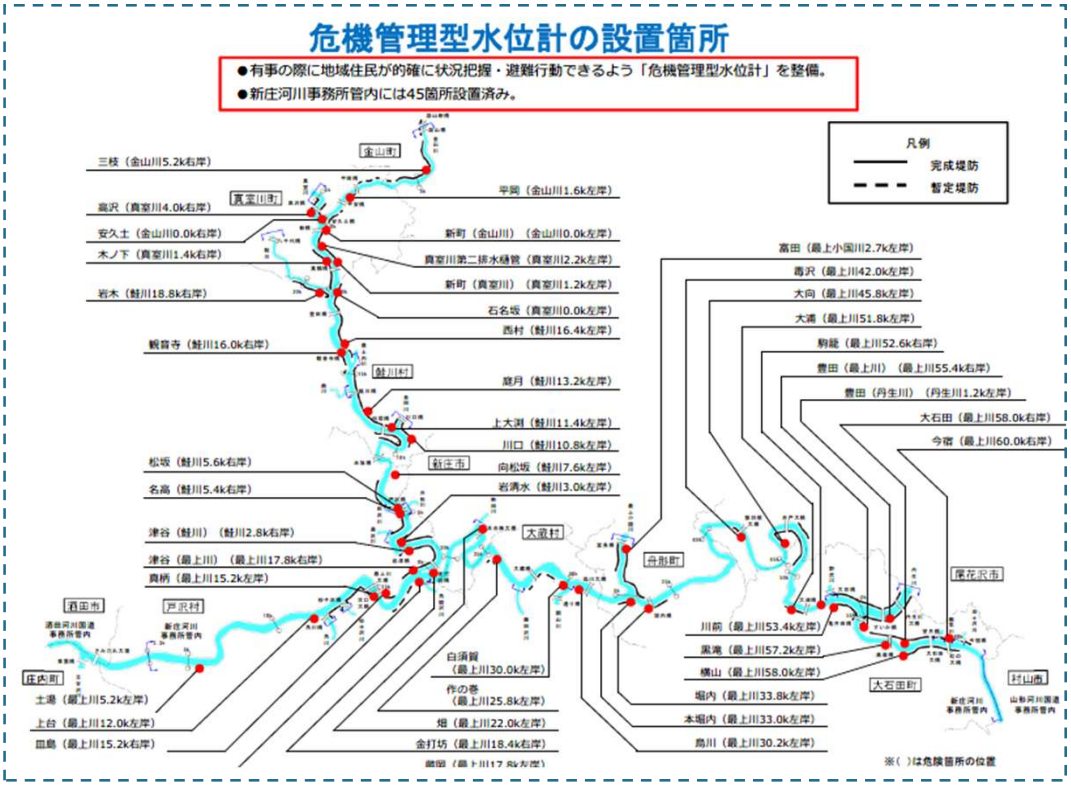
今後も継続して実施予定です。



新庄河川事務所の概要

新庄河川事務所では、洪水による浸水被害を軽減するため、河道掘削等の河川改修事業および土砂の発生や流出を抑制するため、直轄砂防事業を行っています。

また、土砂防災学習教室やマイ・タイムライン作成支援などのソフト面からの対策も行っています。



危機管理型水位計　設置箇所


危機管理型水位計の設置状況(岩清水)


危機管理型水位計の設置状況(岩清水)

流域住民が出水特性や水害リスクを把握し、水害時の適切な情報収集・分かりやすい情報を速やかに伝える取組

危機管理型水位計の設置

概要

従来の水位計では、観測所地点の水位から各地点を推定するため、集落・氾濫ブロック単位での切迫した危険度把握が困難でした。そのため、有事の際に地域住民が的確に状況把握・避難行動ができるように氾濫の危険度の把握、避難の指標としての情報提供を目的に「危機管理型水位計」を45箇所設置しております。

今後の展望

今後も継続して実施予定です。

酒田河川国道事務所



酒田河川国道事務所の概要

酒田河川国道事務所では、山形県庄内地方において「最上川」と「赤川」の河川事業、国道7号、47号、112号、日本海沿岸東北自動車道（日東道）の道路事業による社会基盤の整備を通して、地域の生活とかかわり続けています。

災害に強く、安心して快適に暮らせる地域づくりのために、地域のみなさんと一緒に事業を進めてまいります。

[酒田河川国道事務所の使命]
川づくり　道づくりを通じ、地域のさらなる発展に向け、心をこめてお手伝いします。それが私たちに与えられた使命と信じています。



令和6年11月12日（火）

小学１～６年生を対象として、防災朝会を実施



令和6年11月12日（火）

防災朝会の様子



令和6年11月12日（火）

防災朝会の様子

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーション

１５分で命を守る『防災朝会』

概要

酒田河川国道事務所では、学校の朝礼などを活用し、水害から命を守るために取るべき行動を”短時間（約15分程度）で”子どもたちに学習してもらう『防災朝会』を実施しました。

河川の洪水・氾濫、避難方法について小学生にも理解していただけるようにイラストやUAV写真等を活用して説明しています。

今後の展望

防災朝会は平成30年度から実施しており、これまで13校、約2000人の児童が参加。
今後も事務所管内の学校で実施し、エリア内の未来の防災力を高めていきます。

☆☆　防災朝会に関する申し込み・問い合わせ先　⇒　流域治水課　0234－27-3471　☆☆

酒田河川国道事務所

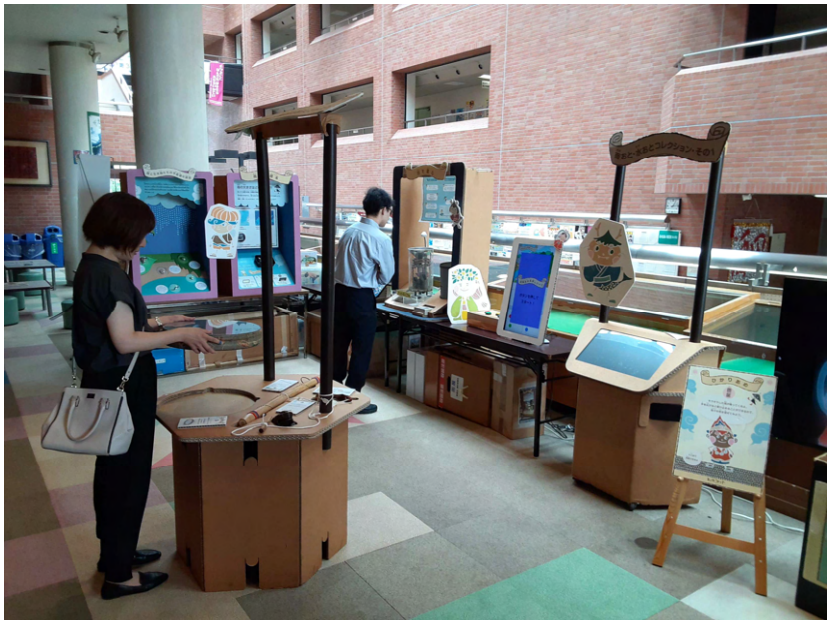


酒田河川国道事務所の概要

酒田河川国道事務所では、山形県庄内地方において「最上川」と「赤川」の河川事業、国道7号、47号、112号、日本海沿岸東北自動車道（日東道）の道路事業による社会基盤の整備を通して、地域の生活とかかわり続けています。

災害に強く、安心して快適に暮らせる地域づくりのために、地域のみなさんと一緒に事業を進めてまいります。

[酒田河川国道事務所の使命]
川づくり　道づくりを通じ、地域のさらなる発展に向け、心をこめてお手伝いします。それが私たちに与えられた使命と信じています。



令和7年6月25日（水）

雨展の開催状況



令和7年6月25日（水）

雨展の展示物



令和7年6月25日（水）

雨展の開催状況

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーション

見て・触れて・聞いて 『雨展』

概要

酒田河川国道事務所では、令和６年７月の大規模な出水を受け、「雨」に関する様々な展示物を「見て」・「触れて」・「聞いて」もらうことで、子供から大人まで、河川環境保全の大切さや「あらぶる雨」「めぐみの雨」といった、雨の二面性などを学習してもらうための「雨展」を令和7年６月２５日～７月１日に開催しました。

今後の展望

今後も防災・河川環境に関する様々な学習イベントを開催し、水災害を自分事化し、流域治水に自ら取組む主体性を持つ事の重要性を広めていきます。

酒田河川国道事務所



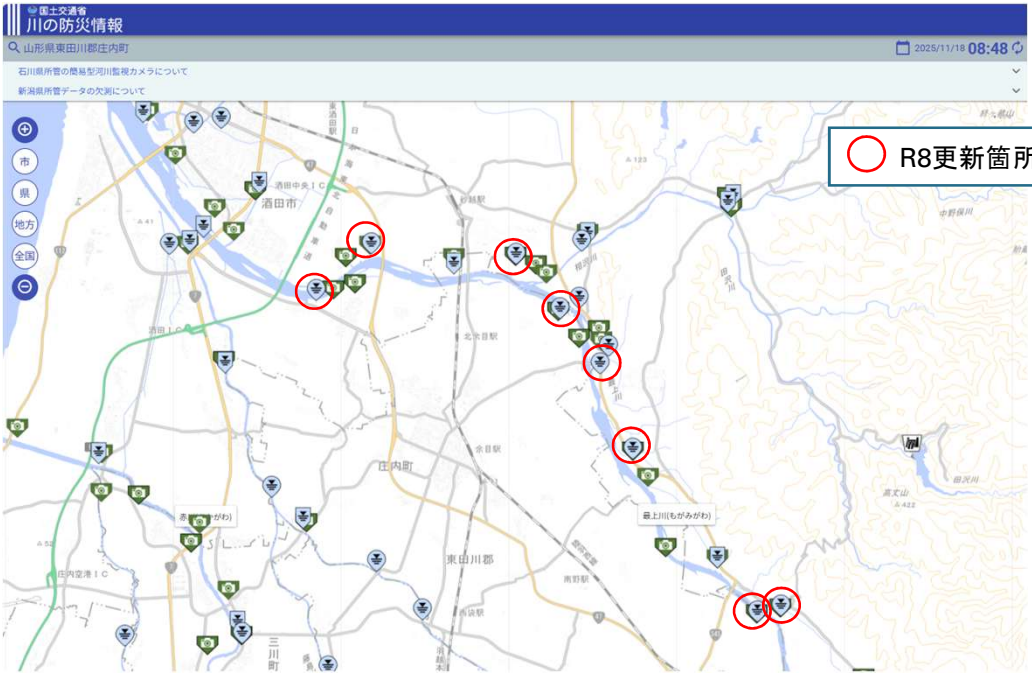
酒田河川国道事務所の概要

酒田河川国道事務所では、山形県庄内地方において「最上川」と「赤川」の河川事業、国道7号、47号、112号、日本海沿岸東北自動車道（日東道）の道路事業による社会基盤の整備を通して、地域の生活とかかわり続けています。

災害に強く、安心して快適に暮らせる地域づくりのために、地域のみなさんと一緒に事業を進めてまいります。

[酒田河川国道事務所の使命]

川づくり　道づくりを通じ、地域のさらなる発展に向け、心をこめてお手伝いします。それが私たちに与えられた使命と信じています。



危機管理型水位計での水位監視



令和7年10月9日（木）

危機管理型水位計の設置状況



令和7年10月9日（木）

危機管理型水位計の設置状況

住民の主体的で安全な避難行動を促す日頃からのリスクコミュニケーション

低コスト＆リアルタイム『危機管理型水位計』

概要

洪水時の水位観測に特化した低コストな危機管理型水位計を設置することで、これまで水位計の無かった地区でも詳細な水位情報を把握できるようになりました。酒田河川国道事務所では、令和7年度に最上川水系の８箇所で「川の防災情報」を通じて水位情報を確認できるようになりました。

今後の展望

今後も危機管理型水位計の普及を促進し、きめ細やかな水位情報の把握を目指し、水位観測網の充実を図っていきます。

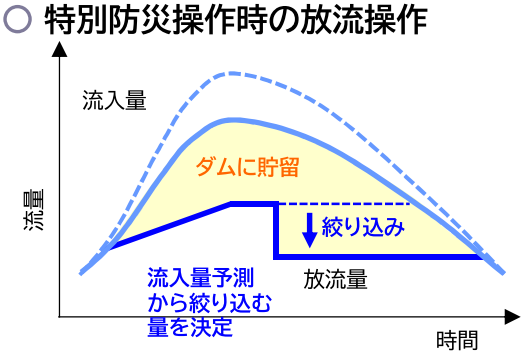


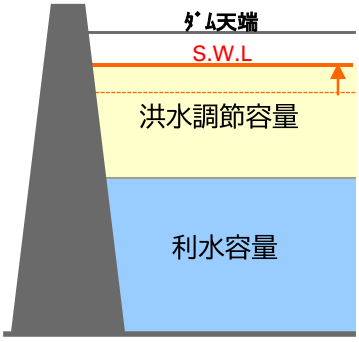
最上川ダム統合管理事務所の概要

最上川ダム統合管理事務所は、白川ダム、寒河江ダム、長井ダムの3ダムを管理しています。洪水時にはダムに水を貯めることによって川から水が溢れるのを防いでいます。また、雨が降らない時にはダムから水を流し、水辺に生育する生物等の生育環境を維持します。

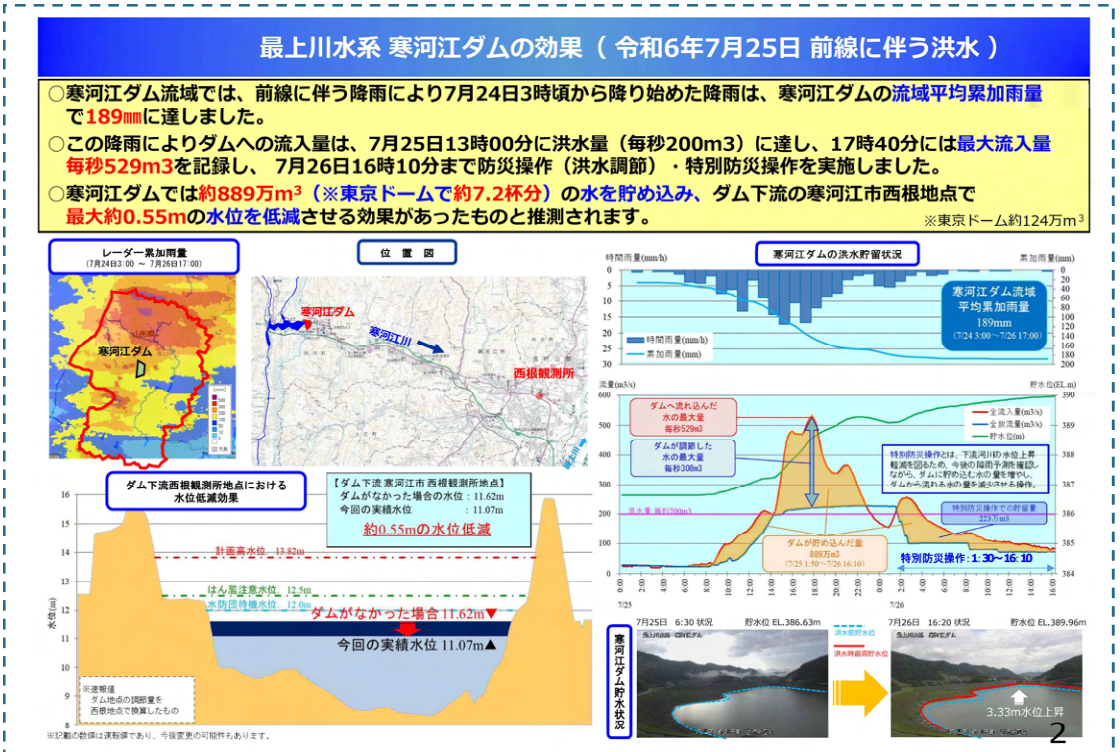
管理している白川ダムでは、春先から5月中旬まで水没林が出現し、寒河江では5月～11月にかけ月山湖大噴水、長井ダムでは10月下旬から11月中旬において紅葉等四季を通じて色々な風景が楽しめます。

○ 特別防災操作時の放流操作





特別防災操作時の放流操作



寒河江ダムにおける的確な特別防災操作の実施（令和6年7月25日　前線に伴う洪水）

洪水を河川内で安全に流す対策

的確な特別防災操作の実施とその効果

概要

ダムの高度化操作の一環として特別防災操作や事前放流が有ります。特別防災操作は寒河江ダムではＲ２、Ｒ６の出水、白川ダムではＲ４の出水時に実施しています。特別防災操作は今後の流入量予測からダムに貯めこむ容量に余裕があれば一時的にダムに水を貯めこみ下流河川の水位を抑制する操作です。的確な特別防災操作を行うためには精度の良い予測が必要不可欠です。

今後の展望

今後は、色々な洪水パターンで予測した結果について実際の洪水と検証し、AIに学習させる事で予測精度の向上につながると思われます。予測精度が向上されれば的確な特別防災操作、事前放流が実施され下流の河川の氾濫抑制に寄与できると思われます。

月山ダム管理所

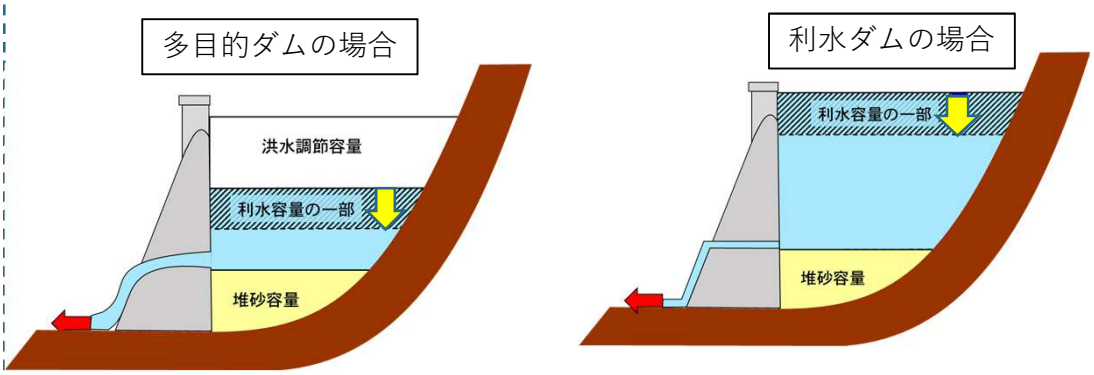


月山ダム管理所の概要

月山ダムは、山形県の庄内平野を流れる一級河川赤川の右支川梵字川に建設され、治水と利水を併せ持つ多目的ダムです。

月山ダムに併設された地域防災センターでは、ダムや川の事を楽しく学べます。また、スタッフがダム内部まで案内するダム見学ツアーを行っています。

〇ダムは、治水を目的に含むダム（多目的ダム：月山ダム、荒沢ダムなど）、発電や農業用水など利水を目的とするダム（利水ダム：八久和ダムなど）がある。
〇降雨予測を活用し、発電や水道などの利水者の協力のもと、利水のために貯めた水を事前放流し、一時的に治水調節のための容量を確保し、洪水被害を防止・軽減する。



利水容量の一部をあらかじめ低下させることで、水害対策に使える容量を増やします

【事前放流とは】



【月山ダム】

水系	ダム名	管理者	河川名
赤川	月山ダム	東北地方整備局	梵字川
	荒沢ダム	山形県	赤川
	八久和ダム	東北電力(株)	梵字川
	梵字川ダム	東北電力(株)	梵字川
	新落合ダム	東北電力(株)	赤川

【治水協定を締結した赤川水系５ダム】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

赤川水系ダムにおける事前放流の実施体制構築

概要

令和元年12月12日に定められた「既存ダムの洪水機能強化に向けた基本方針」を踏まえ、赤川水系にある5ダム（月山ダム・荒沢ダム・八久和ダム・梵字川ダム・新落合ダム）と東北地方整備局で令和2年５月29日に「治水協定」を締結しました。

今後の展望

引き続き、酒田河川国道事務所、月山ダム管理所、山形県、東北電力（株）と連携を図り洪水調節機能の強化を図っていきます。

（２）民間企業の流域治水の取組事例

株式会社テイデイイー



山形県・酒田市合同総合防災訓練でのパネル展示の様子　令和7年９月７日（月）



酒田市水防協力団体認定書

令和７年４月１８日

住　　所　山形県酒田市京田二丁目５３番地の５
（事務所所在地）

団体の名称　株式会社　テイデイイー

代 表 者　代表取締役　園部　孝男　様

酒田市水防管理者
酒田市長　矢口　明子

水防法第３６条第１項及び酒田市水防協力団体指定実施要綱第５条第１項の規定に基づき、貴団体を酒田市水防協力団体に指定します。

酒田市水防協力団体認定書交付式の様子と認定書



DX技術を融合させた実践（浸水センサの浸水情報と連動したGIS「かわにしナビ」への公開入力訓練）

対話でつなぎ、「No」を「Know！」へ。
誰もが参加できる流域治水をデザインする“地域ファシリテーター”

概要

地域住民や企業の「流域治水を知らない」という課題に対し、官・民・企業をつなぐ地域ファシリテーターとして活動している。山形県における流域治水の促進に関しての意見交換会やイベントなどの普及活動により、誰もが流域治水を自分事として捉えられるよう意識変革を促している。また、東北初の民間水防協力団体への認定や浸水センサ実証実験など、DX技術を融合させた実践を重ねている。官・民・企業が協力し、誰もが主体的に参加できる流域治水のモデル構築をめざす。

今後の展望

引き続き、行政・地域・民間企業をつなぐ流域のファシリテーターとして流域の「流域治水オフィシャルサポーター」や「水防協力団体」の仲間と共に流域治水の輪を広げ、流域治水の更なる推進、地域の活性化を目指します。

また、IoTやDX技術を活用した「気軽に出来る」防災・減災の取組を地域に提案します。

因幡堰土地改良区



「いなば田んぼの学校」



田んぼダム実証ほ場の田面水位計測
センシング技術の効果検証



鶴岡市水防協力団体認定書交付式の様子

「田んぼダム」の推進とセンサー技術による効果検証

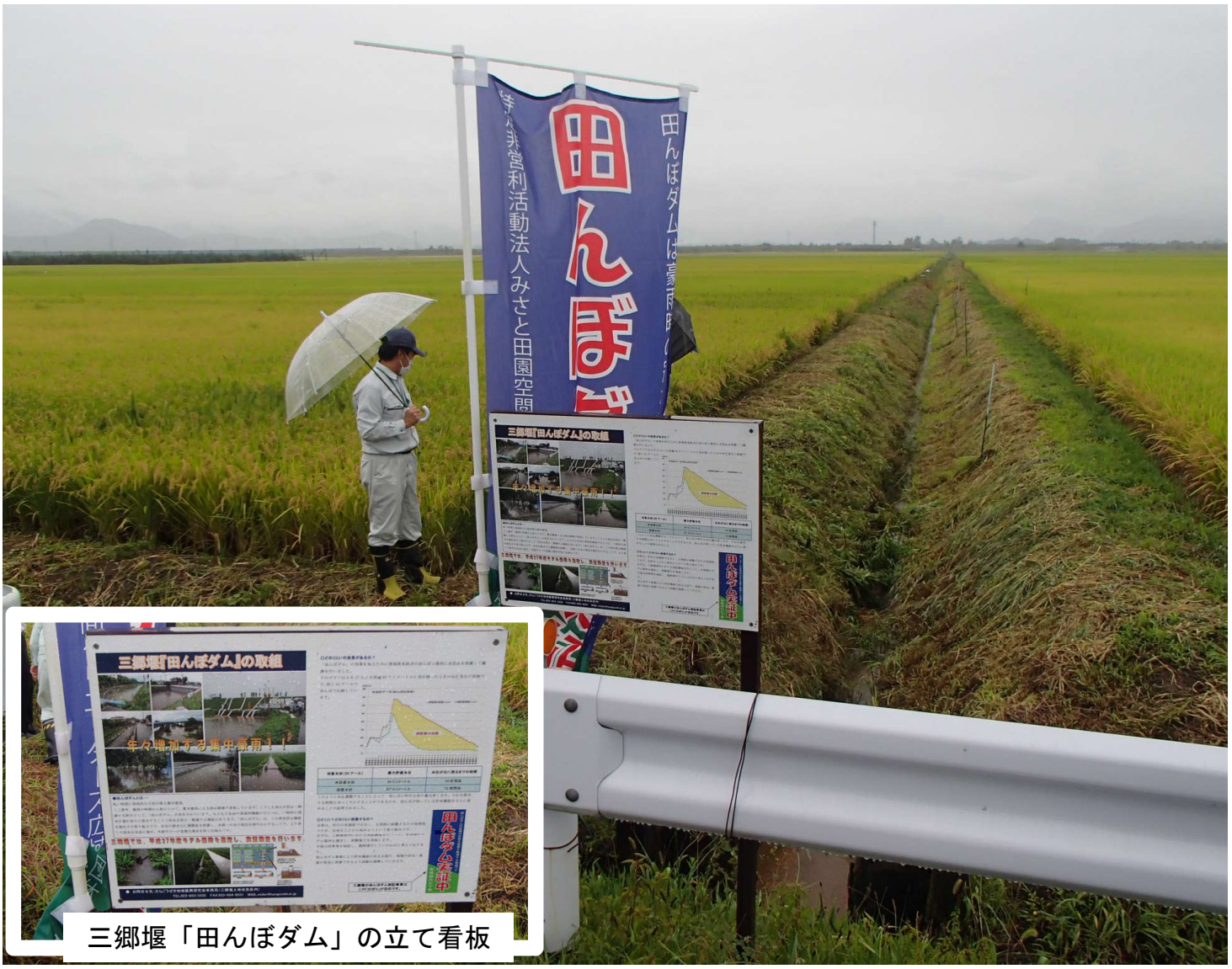
概要

田んぼダム推進・啓発活動のため「いなば田んぼの学校」の開催などを通して、田んぼダムに関する取組の知見の共有と普及啓発に努めている。さらに、田んぼダム実証ほ場の田面水位計測においてセンシング技術の効果検証を実施し、広報や最新技術の導入など多角的なアプローチで流域治水を推進している。また、令和7年7月に鶴岡市水防協力団体にも指定された。

今後の展望

研修・報告会を継続し、田んぼダム普及に向けた取組を継続していく。また、外部組織との連携を一層深め、地域全体で水害リスクを低減させる持続可能な流域治水を推進していく。

特定非営利活動法人
みさと田園空間クリエーターズ



三郷堰「田んぼダム」の立て看板

田んぼダムの推進状況写真

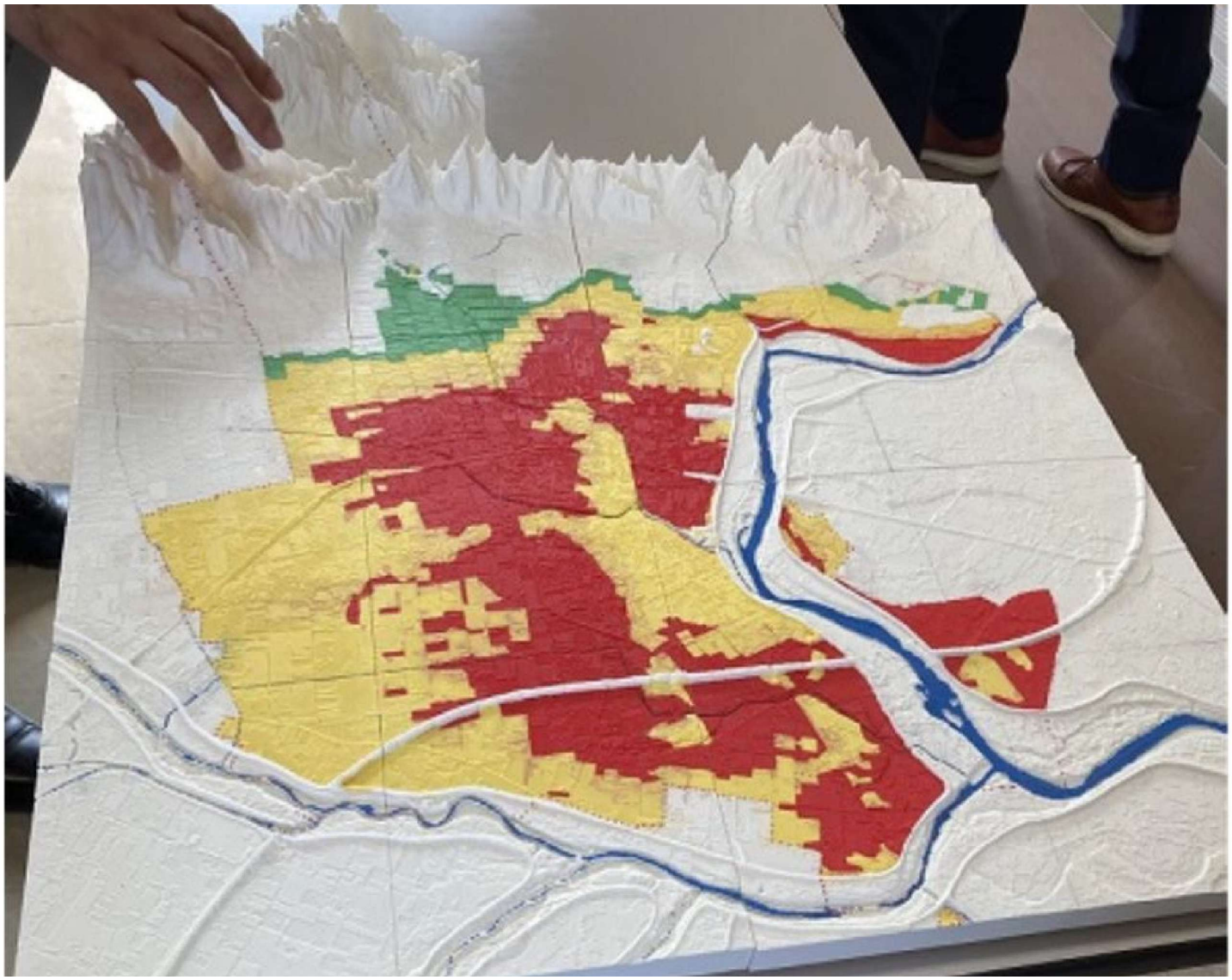
田んぼダムの推進

概要

H25.7.18とH26.7.10の大雨でこれまでにない出水を目の当りにし、浸水被害発生の危険性を認識。これにより防災意識が高まり、田んぼダムの取組みを推進している。地域にあった取組みを検討するため、調整板を数種類試作し、ほ場に設置して実証調査を行い、機能性や問題点等を検証した。

今後の展望

田んぼダムの総取組計画面積を拡大するために課題等の解決に向け取組を継続していく。



3Dプリンターを利用した中山町3Dハザードマップ

3Dプリンター技術を活用したハザードマップの作成と防災教育

概要

防災意識向上を目的として、3Dプリンター技術や国土地理院地図のデータを活用し、3Dハザードマップを中山町と連携して作成した。また、人材育成のため、山形県の高等学校にて３Dプリンターの技術を活かした出前授業も実施している。これにより、地域防災力の向上を図っている。

今後の展望

製作した3Dハザードマップを地域の防災研修会で「視覚的にわかりやすい資料」として活用し、住民の理解度向上を図る 。今後も技術活用による人材育成を継続し、流域治水の自分事化を促すことで、地域の減災対策に持続的に貢献していく。

損害保険ジャパン株式会社



防災ジャパンダプロジェクトの様子

「防災ジャパンダプロジェクト」で次世代へつなぐ流域治水の輪

概要

令和7年8月30日（土）に開催されたモンテディオ山形の試合にて、山形県総合運動公園で「防災ジャパンダプロジェクト」ブースを出展し、流域治水の推進を目的とした啓発活動や、災害時に役立つ具体的な行動を学ぶプログラムを提供 。

今後の展望

今後も「防災ジャパンダプロジェクト」を全国各地で開催し、将来を担う子どもたちとその保護者が、災害から身を守るための知識や安全な行動を自然に身に付けられる機会を創出していく 。また、地域やスポーツイベントと連携した普及啓発を通じ、流域治水の自分事化を推進する 。

ルネサスエレクトロニクス株式会社



導入した簡易型止水板



簡易型止水板を活用した訓練設置状況



洪水時、敷地内に水が入らないよう構内入口に設置していた止水板を嵩上げ

止水板嵩上げ等の追加対策



雨水排水ポンプ設置状況

止水板と排水ポンプで工場の浸水被害を最小限に

概要

令和４年８月、山形県置賜地方では記録的な大雨となった。これを踏まえ、ルネサスエレクトロニクス株式会社米沢工場では、大雨洪水時の備えとして「簡易型止水板」を導入し、訓練を実施している。また、令和５年６月に従来の実施してきた雨水排水ポンプでの排水対策に加え、構内への建物の浸水を防ぐための従来の止水板を嵩上げし、より大きな洪水への備えを行った。

今後の展望

引き続き、持続可能な社会の実現に向けて、これまでの実績を基に「止水板」の設置をさらに推進し、工場の強靭化（レジリエンス）を図る。これらの取組を通じて、地域防災にも貢献していく。

コラム

流域治水オフィシャルサポーター制度

激甚化・頻発化する水害から国民の生命と暮らしを守るための新たな水災害対策である、流域全体で治水対策に取り組む「流域治水」においては、企業、団体等の多様な関係者（以下「企業等」という。）を含むあらゆる関係者との連携が重要です。

流域治水に取り組む企業等や流域治水の取り組みを支援する企業等を幅広く周知するとともに、流域治水に資する取組を促進するため、「流域治水」オフィシャルサポーター制度があります。

流域治水オフィシャルサポーターに認定されると、その取組を国土交通省　ウェブサイト等で紹介するほか、企業等の活動においてオフィシャルサポーターである旨を明記することが可能となります。

実施内容

流域治水オフィシャルサポーターに認定された企業等（法人又は団体をいいます。）は、次のいずれかの取組を通じて「流域治水」に関する周知活動等を実施するものとなります。

（１）　企業等のWeb ページ、SNS、広報誌、ポスター等への情報掲載
（２）　流域治水に関する広報資料の配布・掲示、アナウンス等
（３）　各種イベント、セミナー、学会、講座、研修等での紹介
（４）　貯留施設の設置など自らの流域治水に資する取組
（５）　流域の上流地域と下流地域の連携を推進する取組
（６）　自治体等との防災協定の締結、避難所としての場所の提供等防災活動への積極的な参加
（７）　その他、流域治水の優良な活動についての周知など流域治水に資すると国土交通省が認める取組

企業WEBページでの周知活動



イベント時のチラシ配布/パネル展示



交流会の開催



社内研修/セミナー開催







国土交通省
流域治水オフィシャルサポーター制度
掲載ページ
https://www.mlit.go.jp/river/kasen/suisin/supporter.html

流域治水